

1. 研究及び社会活動業績

1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」について、平成14年4月から19年3月までの5年間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

- (1) 19年3月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まれない。
- (2) 本人が掲載を希望しない場合、その意向を尊重する。
- (3) 原則として、各教員が提出されたものを修正せず掲載する。
- (4) 掲載の順番は領域順とし、個人は役職順ついで採用順に掲載する。
- (5) 掲載に際して役職名等はいれず、氏名のみの表示とする。
- (6) 平成19年4月以降12月現在までに着任した専任教員の業績についても、(4)に従って掲載する。

2) 活動業績掲載順

<p>共通科目</p> <p>I. 人間環境科学領域 p4</p> <p>中村博生 橋本明浩 藤田 尚 山本淳子 徐 淑子 渡辺弘之 永吉雅人</p> <p>II. 生物医学領域 p18</p> <p>杉田 収 吉山直樹 中野正春 関谷伸一</p> <p>専門科目</p> <p>III. 基礎看護学領域 p33</p> <p>中島紀恵子 柿川房子 堀 良子 朝倉京子 水口陽子 岡村典子 水澤久恵</p>	<p>専門科目</p> <p>IV. 臨床看護学領域 p53</p> <p>深澤佳代子 加固正子 加城貴美子 井上みゆき 吉武久美子 直成洋子 酒井禎子 高柳智子 渡部真奈美 山田正実 大久保明子 西方真弓 飯田智恵 内藤知佐子 石岡幸恵 横田陽子</p> <p>V. 地域生活看護学領域 p80</p> <p>野地有子 北川公子 粟生田友子 小林恵子 平澤則子 原 等子 飯吉令枝 後田 穰 菅原峰子 長瀬 亜岐 浦山留美 櫻井信人 野口裕子 若杉 歩 鈴木香苗 藤川あや</p>
--	--

I. 人間環境科学領域

中村博生

【研究活動】

①原著

1. 中村博生 (2002) : "Anne of Green Gables" as the English Material to Foster Students' "Vital Power", 人間科学研究第 4 号, 121-138.
2. 中村博生 (2003) : Material Development for Nursing Students in English Class - An Article in An English Newspaper Focusing on A Foreign Patient - 人間科学研究第 5 号, 5-18.
3. 中村博生(2004):Material Development for Nursing Students in English Class -Nursing Students' Views on SARS and Each Country's Measures against It- 人間科学研究第 6 号, 45-67.
4. 中村博生,廣瀬浩二(2005) : A Case Study on the Effect of Practice of Wh-questions and Answers Aiming at "All in English" in the First Graders' Class in Junior High School in Japan, コミュニティブ・ティーチング研究会紀要 No.10, 3 - 18
5. 中村博生,廣瀬浩二 (2005) :簡易コーパス使用による語法指導の試み, コミュニティブ・ティーチング研究会紀要, No. 10, 23-34.
6. Teacher's Support for First Graders in English Lesson through English in Japanese Junior High School, 人間科学研究第 7 号, 71-84.
7. 中村博生(2006):Effective Ways of Teaching English through English in Lessons at Japanese Junior High Schools – From the Viewpoint of English Education as a Second Language for English-French Bilingualism Necessary at Workplaces in Quebec – 人間科学研究第 8 号, 25-42.

②その他の論文及び調査報告

1. 中村博生 (2004) : 現代におけるヒューマニティと「環境」の関係について, 平成 15 年度学長特別研究費「研究報告書」, 1-6, 新潟県立看護大学.

③学会発表

1. 中村博生 (2008) : 一時間の授業を英語で行うための基礎的な研究, 上越英語科教員研修会 (ECHO 会).
2. 中村博生 (2004) : All in English を目指した中学一年生の授業, 関東甲信越英語教育学会, 第 28 回東京大会.
3. 中村博生 (2004) : 一時間の授業を英語で行うための基礎的な研究(その 2), 上越英語 科教員研修会 (ECHO 会).
4. 中村博生 (2005) : Teacher's Support for Students in Japanese Junior High School in English Lesson through English(英語で授業を行う際の生徒指導的配慮), 関東甲信越英語教育学会, 29 回新潟大会.
5. 中村博生 (2006) : Effective Ways of Teaching English through English in Lessons at Japanese Junior High Schools – From the Viewpoint of English Education as a Second Language for

English-French Bilingualism Necessary at Workplaces in Quebec」, 第32回全国英語教育学会, 高知研究大会.

④著書

1. 中村博生 (2002): 看護英会話, 考古堂書店.
2. 中村博生 (2003): 看護英会話 CD 付, 考古堂書店.
3. 中村博生 (2006): 173 English Verbs for Junior High School Students・中学生のための英語動詞173, 考古堂書店.
4. 中村博生 (2007): 看護学生のための英作文ーコントローリング・アイディアからパラグラフまでー, 北越印刷株式会社.

⑤一般公演

1. 中村博生 (2005): TOEFL 受検に備えて, 上越英語科教員研修会 (ECHO 会).
2. 中村博生 (2006): ケベック (フランス語が母語) の小・中学校英語教師の悩み, 上越英語科教員研修会 (ECHO 会).
3. 中村博生 (2006): 定期テストの平均点をトップにすることとコミュニケーション能力を身に付けさせること, 上越英語科教員研修会 (ECHO 会).
4. 中村博生 (2007): 小学校英語活動のあり方と中学校の英語教育, 英語研修講座, 柏崎市立教育センター.

⑥その他の発表

1. 中村博生 (2004): 現代におけるヒューマニティと「環境」の関係について, 平成 15 年度学長特別研究費 新潟県立看護大学.
2. 中村博生 (2007): 看護研究を行う学生の英文読解力向上に有効な教材開発のための基礎的研究, 平成 18 年度学長特別研究費, 新潟県立看護大学.

⑦その他

1. 看護英会話セミナー (平成 14 年～現在に至る)

新潟県立看護大学看護研究交流センター 専門講座において看護職を対象とした看護英会話の講座を開設した。

平成 14 年度: 夏期セミナーを 2 日間

平成 15～17 年度: 夏期セミナーと冬期セミナーを 2 日間ずつ開催。

平成 18～現在: 夏期セミナー 2 日

2. 新潟県立看護大学看護研究交流センター生涯学習・研修支援部会の活動報告

①中村博生 (2003): 「生涯学習支援部会活動報告」平成 14 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告, 75-78.

②中村博生 (2004): 「平成 15 年度 教育研修部会の活動報告」平成 15 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 123-126.

③中村博生 (2005): 「平成 16 年度 生涯学習・研修支援部会の活動報告」平成 16 年度看護研究交流センター 年報, 67-107.

橋本明浩

【研究活動】

(1)書籍・著作

キャンパス情報リテラシー第4版 (ISBN 978-4-7856-3138-3), 昭晃堂

(2) 査読付原著

・” MAXIMIZATION OF CORRELATION UNDER A QUADRATIC CONSTRAINT”, Hashimoto Akihiro, Miyano Hisao and Taguri Masaaki, Journal of the Japan Statistical Society, Vol.37, No.1, 105-121, (2007).

・Maximization of Correlation under Quadratic and linear Constraints”, A. Hashimoto, H. Miyano and M. Taguri, Proc. of Bernoulli Society East Asian and Pacific Regional Conference 2003, Hong Kong, 99.2003.

(3)その他の論文・報告書 (総説, 報告書, 雑記, その他)

- 室内空气中ホルムアルデヒド測定用簡易測定器 (FP-30 型) による測定値の信頼性と法規制 (2003 年) 後のホルムアルデヒド濃度測定例(杉田) 室内環境学会誌, E31・36,2006
- IT を活用した在宅要介護者のヘルスケアに関する効率的情報交換の検討 (吉山直樹ほか), 癌と化学療法, 癌と化学療法社, 31(12), P.208-210
- 制約条件付きの非線形の近さの数値実験, 平成 15 年度学長特別研究費研究報告書
- ヘルスケア提供者のためのリソースアーカイブの構築の基盤作成について, 平成 14 年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書,53-56.
- 上越地域を限定とした信頼度を考慮した看護医療系メタデータ検索システムの試み”, 橋本, 吉山,加藤 平成 15 年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書, 査読無,129-130. (2004).
- 制約条件付きの非線形の近さの概念の理論的な研究, 平成 14 年度学長特別研究費 研究報告書, 47-48
- ” 多言語ドメインの現状と課題”, 橋本, 吉山,加藤, 平成 15 年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書, 査読無 131-136, (2004).

(4)学会発表 (一般発表, シンポジウム, ワークショップ, その他)

1. Maximization of Correlation under Quadratic and linear Constraints”, A. Hashimoto, H. Miyano and M. Taguri, Bernoulli Society East Asian and Pacific Regional Conference 2003, Hong Kong, 99.2003.

(5)共同研究 (研究プロジェクトによる活動等, 学内教員チームによる共同研究を含む)

- IT を活用した在宅要介護者のヘルスケアに関する効率的情報交換の検討 (吉山直樹, 2004).

(6)研究指導 (学部生卒業研究, 大学院生修士論文等)

統計的検定を指導

(7)学会活動 (集会長等, 教育・学術講演, 座長・分科会長, 各種委員等)

情報処理学会

日本統計学会

【社会活動】

(1)教育講演

「excel のできる看護研究のための すぐにできる統計処理」(県立精神医療センター)2005 年

「情報格差とは何か?」(上越市) 2006 年

(2)研修指導

平成 14 年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師

平成 15 年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師

平成 16 年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師

平成 14 年看護研究交流センターセミナー講師

平成 15 年看護研究交流センターセミナー講師

平成 16 年看護研究交流センターセミナー講師

平成 17 年看護研究交流センターセミナー講師

(3) 県・市町村の委員会・調査会委員

上越市情報格差解消インフラ整備検討委員会委員長

上越市情報格差解消インフラ整備検討委員会作業部会委員長

(4) その他

情報ネットワーク委員会委員長 (2002 年－2007 年まで)

藤田 尚

【研究活動】

1. 原著論文

Fujita, H.(2002): Historical Change of Dental Carious Lesions from Prehistoric to Modern Times in Japan. *Jpn. J. Oral Biol.*, 44(2), 87-95.

藤田 尚(2002): 縄文時代の抜歯の意義についての再検討, 史観, 第 147 冊, 85-92.

藤田 尚(2004): 古病理学・古疫学からみた縄文人, 古代, 第 112 号, 1-11.

藤田 尚(2004): 沖縄県木綿原人骨の歯科古病理学的検討, 古代, 第 114 号, 97-104.

Fujita, H.(2005): Symmetrically impacted canines found in the human skeletal remains from the Edo Period in Japan. *J. Oral Biosci.*, 47(2), 168-170.

藤田 尚(2005): 歯の人類学－古人骨にみる歯の形態異常: I－, 老年歯科医学, 第 20 巻第 1 号, 81-84.

藤田 尚(2005): 歯の人類学－古人骨にみる歯の形態異常: II－, 老年歯科医学, 第 20 巻第 2 号, 150-153.

藤田 尚(2005): 歯の人類学－縄文時代人の齲蝕－, 老年歯科医学, 第 20 巻第 3 号, 231-235.

藤田 尚(2006): 歯の人類学－日本人の齲蝕の歴史的変遷－, 老年歯科医学, 第 20 巻第 4 号, 376-379.

Fujita, H., Hirano, H. and Suzuki, T.(2006): Human Skeletal Remains of the Kofun Period in Japan were Speculated to Have Had Osseous Dysplasia with Inflammation. *J. Oral Biosci.*, 48(4), 261-265.

藤田 尚(2006): 歯の人類学－縄文時代人の風習的抜歯－, 老年歯科医学, 第 21 巻第 1 号, 48-51.

藤田 尚(2006): 歯の人類学－古人骨にみられる歯のストレスマーカー－, 老年歯科医学, 第 21 巻第 2 号, 135-138.

藤田 尚(2006): 歯の人類学－古人骨にみられた良性腫瘍, 老年歯科医学, 第 21 巻第 3 号, 207-210.

藤田 尚(2007): 歯の人類学－古人骨にみられた悪性腫瘍, 老年歯科医学, 第 21 巻第 4 号, 411-414.

藤田 尚(2007): 誌上シンポジウム－古人骨からみた日本人の齲蝕－, 老年歯科医学, 第 21 巻第 4 号, 389-391.

藤田 尚 (2007) : 日本の看護基礎教育高学歴化に関わる諸問題, クレリィエール, 390, 1-2.

Fujita, H. and Asakura, K.(2007): Care for Bone Fractures during the Jomon Period: Evidence from the Pathological Condition of Fractures. *Jpn. J. Health Behavioral Sci.*, 22, 96-105.

Fujita, H.(2007): Were the Jomon People healthy or not? Speculation of total health condition of ancient people. *J. Lipid Nutrition*, 16(2), 205-210.

Fujita, H., Asakura, K. and Ogura, M.(2007): Age- and Sex- related Dental caries Prevalence in Japanese from the Jomon period. *J. Oral Biosci.*, 49(3), 198-204.

2. その他の論文及び調査報告

藤田 尚(2002): 白根人骨について, 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成 13 年度, 69-70, 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団.

藤田 尚(2002): 出土人骨観察表, 芦ヶ崎西平遺跡, 87, 新潟県中魚沼郡津南町教育委員会.

藤田 尚(2003): 人骨, 一般国道 8 号 白根バイパス関係発掘調査報告書 浦廻遺跡, 26-30, 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団.

藤田 尚(2003): 分谷地 A 遺跡弥生時代再葬墓出土骨について, 分野地 A 遺跡 II, 226, 黒川村教育委員会.

平田和明・藤田 尚(2004): 山居上人墓出土の遺骨・遺歯について, 木食山居故信法阿状上人入定墓の発掘調査報告書, 日本ミイラ研究グループ.

藤田 尚 (2005): 古病理学・古疫学からみた縄文人 (論文展望); 季刊考古学第 91 号, 94, 雄山閣.

藤田 尚(2006): 縄文時代の骨折の病態から推測される看護・介護の状況, 平成 17 年度学長特別研究費研究報告書, 40-44 頁, 新潟県立看護大学

藤田 尚 (2006): 縄文時代人とは, 火焰土器の時代, 36-37, 新潟県津南町教育委員会

藤田 尚 (2007): 韓国靑島出土人骨に関する形質人類学的研究, 平成 16~18 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書, 1-45.

3. 学会発表

Fujita, H., Hirano, H. and Sato, M.(2002): Symmetrically impacted canines found in the human skeletal remains from Ashigasaki-nishidaira site, Tsunan town, Niigata Prefecture. 2002, Inter-Congress of IUAES

藤田 尚(2003): 齲蝕と歯周病からみた古代人の健康, 第 57 回日本人類学会サテライトシンポジウム.

藤田 尚(2003): 古人骨から見た古代人の健康, 新潟県考古学会.

藤田 尚・西澤 哲・堅木宜弘(2004): 佐渡国衙跡から出土した平安初期の人骨について, 第 58 回日本人類学会.

藤田 尚(2005): 古人骨から探る古代人の健康, 第 22 回大阪口腔談話会.

Fujita H. (2006): Were the Jomon people healthy or not?, World Archaeological Congress Inter-Congress: Osaka.

藤田 尚(2006): 古人骨から見た日本人の齲蝕, 第 17 回日本老年歯科医学会シンポジウム IV, 長寿県沖縄のルーツを語る.

藤田 尚(2006): 日本列島の人類化石, 第 18 回長野県旧石器文化研究交流会.

藤田 尚(2006): 日本列島に渡ってきた人びと, 第 18 回長野県旧石器文化研究交流会フォーラム, 日本列島に初めて渡ってきた人びとを語る.

藤田 尚・茂原信生・崔 鐘圭(2006): 弥生時代相当の韓国靑島人骨について一頭蓋骨の形態の検討一, 第 60 回日本人類学会大会.

鈴木隆雄・藤田 尚・崔 鐘圭(2006): 弥生時代相当の韓国靑島人骨についての古病理学的検討, 第 60 回日本人類学会大会.

橋本裕子・藤田 尚・崔 鐘圭(2006): 弥生時代相当の韓国靑島人骨について一歯の観察からの検討一, 第 60 回日本人類学会大会.

藤田 尚・崔 鐘圭(2007): 韓国靑島人骨の頭蓋形態について, 第 73 回日本考古学協会.

鈴木隆雄・藤田 尚・崔 鐘圭(2007): 韓国靑島出土人骨における古病理学的変化についての研究, 第 73 回日本考古学協会.

橋本裕子・藤田 尚・崔 鐘圭(2007): 歯の観察からみた韓国靑島遺跡に埋葬された人々,第 73 回日本考古学協会.

藤田 尚・朝倉京子・小椋正之・平野裕彦(2007): 縄文時代の齲歯率の加齢変化, 第 18 回日本老年歯科医学会.

藤田 尚(2007): 靑島人骨の歯科人類学的考察, 第 61 回日本人類学会.

Fujita, H., Asakura, K. and Ogura, M. (2007) : Sex and Age distribution of dental caries in the Neolithic Jomon period in Japan. The 39th conference of the Asia-Pacific Academic consortium for Public Health.

朝倉京子・藤田 尚 (2007) : 男性看護職の生存方略; 過疎化農村地域の医療現場におけるジェンダー・マイノリティ, 第 27 回日本看護科学学会学術大会.

4. 著書

藤田 尚(2004): 第 8 章 日本列島人, NHK 学園通信講座テキスト, 考古学入門(下), 80-84, 学校法人日本放送協会学園.

藤田 尚(2007): 旧石器考古学辞典—三訂版— (分担執筆), 旧石器文化談話会編, 学生社.

藤田 尚(2007): 東アジア考古学辞典 (分担執筆), 西谷正編, 東京堂出版.

5. 一般講演・講義

放送大学講師 (自然人類学) (1999 年 4 月-2003 年 3 月)

早稲田大学第一文学部講師 (人類学Ⅱ) (2002 年 4 月-2004 年 3 月)

早稲田大学人間科学部講師 (自然人類学) (2004 年-現在に至る)

東京大学理学部講師 (人類学演習) (2005 年-現在に至る)

早稲田大学大学院人間科学研究科講師 (自然人類学特論) (2006 年-現在に至る)

6. その他の研究活動

1) 学会活動

日本人類学会評議員 (1999 年 4 月-現在)

歯科基礎医学会

日本人類学会遺伝分科会幹事 (1995 年 4 月-現在)

日本老年歯科医学会評議員 (2004 年 6 月-現在)

日本解剖学会

早稲田大学考古学会

日本人類学会歯の人類学分科会

日本考古学協会

日本考古学協会前期・中期旧石器問題特別委員会第 3 部会委員(2001 年 6 月-2004 年 5 月)

日本旧石器学会会計監査委員 (2003 年 6 月-2006 年 6 月)

日本旧石器学会会誌編集委員 (2005 年 6 月-現在)

日本旧石器学会ニューズレター委員 (2006 年 6 月-現在)

日本応用老年学会

日本保健医療行動科学学会

日本公衆衛生学会

日本脂質栄養学会

2) その他の研究活動・社会活動等

日本旧石器学会設立準備委員 (2003 年度)

新潟県高齢者大学講師 (2003 年度)

3) 客員研究員等

大韓民国慶南考古学研究所客員研究員 (2005 年 6 月－2006 年 3 月)

東京大学大学院理学系研究科客員共同研究員 (2006 年 4 月－現在)

【研究プロジェクトによる活動】

1. 研究班による活動

1) 外部資金獲得

藤田 尚 (研究代表者), 「韓国靑島出土人骨に関する形質人類学的研究」基盤研究 C、課題番号 16570197, (2004 年度－2006 年度)

山本淳子

【研究活動】

1. 原著論文

山本淳子・大和田眞智子(2003) 日本人英語教師(JET)とクラス担任(HRT)による Team Teaching(TT)が小学校英語教育に果たす役割, 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要第 20 号, (2000・2001), 91・110.

山本淳子 (2003) 異文化看護学を看護専門教育 (English for Nursing Purposes)に取り入れる意義, 大学英語教育学会 ESP 研究会研究紀要, Vol.5, 24・30.

山本淳子・大倉孝昭 (2003) 動画と解答を同期させて学ぶ英語教育 by “SMILE for ME” ースタンドアローン版一, 第 11 回情報教育方法研究発表会予稿集, (社)私立大学情報教育協会, 44・45.

山本淳子・大倉孝昭 (2004) Use of Movie Materials presented Through Multimedia Learning Environment 大学英語教育学会 ESP 研究会研究紀要, Vol.6, 17・23.

山本淳子 (2004) 統規制論争における Logical Fallacies(論理上虚偽), 論説資料保存会, 36 号, 全 19 頁.

山本淳子・松下由美子 (2005) 異文化看護を取り入れた英語リーディング授業の学習効果 第一報, 題二報. 日本看護研究学会雑誌 Vol.28, 150・151.

山本淳子・仲川浩世 (2006) A New Approach to English Writing Class for Nursing Students Using a Movie 関東甲信越英語教育学会(KATE)Bulletin, Vol.20, 49・61.

山本淳子・渡辺弘之・仲川浩世 (2006) 映画を用いた英語のパラグラフィティング指導と学生による自己評価についての考察, 時事英語学研究日本時事英語学会第 45 号, 43・62

山本淳子・大倉孝昭・渡邊容子 (2007) Class Research on Learning Methods in Movie-based Computer Assisted Language Learning, Journal of Multimedia Aided Education Research, メディア教育研究メディア教育開発センター, vol.3.No.2, 125・136.

2. 報告書

山本淳子 (2006) 平成 16 年度・平成 17 年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書

山本淳子 (2003) ESP における映像を活用した英語表現法(記述)授業, 平成 14 年度学長特別研究費 研究報告書

山本淳子・加田正子・徐淑子 (2003) 異文化看護 (Transcultural Nursing) の視点を取り入れた看護英語教材の開発, 平成 14 年度学長特別研究費研究報告書

3. 学会発表

山本淳子・大倉孝昭(2003) 英語映画を用いた看護専門教育 by "SMILE for ME", 信州大学語学教育学会, 信州大学高等教育システムセンター.

山本淳子・渡邊容子・堀内正子(2003) 大学英語教育学会ESP教育研究開発: ニーズ分析から教材開発まで, 第42回JACET(大学英語教育学会)全国大会, 東北学院大学

山本淳子・大倉孝昭(2003) CALLシステムと映画を利用した看護学生のための授業, 第44回外国語教育メディア学会全国研究大会, 福岡国際会議場.

山本淳子(2004) 動画と解答を同期させるマルチメディアシステム利用のEGNP(看護学生のための英語)「学習者中心の語学教育」JACET(大学英語教育学会)ESP研究会例会 聖路加看護大学.

山本淳子・大倉孝昭(2004) 看護学生のコミュニケーション能力向上を目指したCALLシステム, 映画英語教育学会, 第9回全国大会西南学院大学.

山本淳子・仲川浩世(2004) 映画を利用した看護学生のためのパラグラフライティング指導, 第30回全国英語教育学会, 長野研究大会JA長野ビル

山本淳子・渡邊容子(2004) 英語教員と専門系教員の共同ESP教材作成, 第43回JACET(大学英語教育学会)全国大会, 中京大学.

山本淳子・仲川浩世(2004) Process Writing Approach using writing portfolios and a movie, 映画英語教育学会第10回大会, 京都外国語大学.

山本淳子(2005) 映画を用いた英語教育—看護大学におけるパラグラフライティング指導の実践, 時事英語教育学会中部支部第46回研究例会, 愛知芸術文化センター.

山本淳子・大倉孝昭・渡邊容子(2006) Use of Movie Materials in a Learner-Centered Multimedia Learning Environment, Fleet5(Foreign Language Education and technology uniting the world) 世界大会, アメリカユタ州マリOTTホテル.

山本淳子・大倉孝昭・渡邊容子(2006) DVD映画利用CALLにおける看護学生のための英語聴解力向上プログラムの共同開発, 第44回JACET(大学英語教育学会)全国大会 玉川大学

山本淳子・大倉孝昭・渡邊容子(2006) Classroom Research on Movie Based Multimedia Learning System and its Interactive Classroom Activities. 2006 Asia TEFL The International Conference 西南学院大学.

山本淳子(2006) 銃との共生を促すアメリカン・カルチャー, 時事英語学会, 第48回年次大会, 関西大学.

山本淳子(2006) セリフ先渡し方法による聴解力向上プログラムの実践映画英語学会, 関西支部第4回大会, 大阪工業大学.

4. 著書

市島清貴・橋本昌一郎・山本淳子 ホームステイで困らない英会話—エマージェンシーナビ ROM付き, 三修社.

山本淳子・渡邊容子・パメラ・内田(2002) Health Talk, 実践的看護英語の基礎ピアソン・エデュケーション.

山本淳子・大和田眞智子(2003) 小学校の英語 明日から使えるゲーム55, 三省堂.

山本淳子(2004) 身によくつく TOEIC TEST 完全攻略 730点全パート, Nova books—NOVAスコアアップシリーズ, NOVA出版局.

山本淳子(2006) 看護師の英語, NOVA出版局.

山本淳子・サラ・クロウ・渡辺弘之(2006) 看護師の英語ワークブック—患者対応の基本93フレーズ, NOVA出版局.

5. 学会等における講師歴

山本淳子・大倉孝昭(2003) ESP for Nursing Students by SMILE for ME, メディア教育開発センター(NIME) 幕張.

山本淳子・大倉孝明(2003) 「授業力と英語力のパワーアップ」英語は映画で, 英語教育達人セミナー, 新

潟県立三条高校.

【研究プロジェクトによる活動】

科研費科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))

平成 18 年 4 月「異文化 DVD 教材を用いた CALL システムによる児童英語教育の実践」により日本学術振興会より 1,600,000 円の交付を受け、小学校英語教育について研究をまとめている。課題番号 (18520443)。研究代表者 新潟県立看護大学 講師 山本淳子。

平成 19 年 4 月～現在に至る

上記の研究課題番号 (16520345)に対して 1,900,000 円の交付を受け、研究を続けている。研究代表者 新潟県立看護大学 講師 山本淳子。

徐 淑子

【研究活動】

1. 原著

東優子, 徐淑子, 兵藤智佳: 若者のセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルスに対するピア教育の理論と実践 日本エイズ学会誌, 6 号 (3), 129-132 (2004)

2. その他の論文及び調査報告

徐淑子: 大学生男子のコンドーム使用とパートナーとの関係性, 性と健康, 5: 20-22 (2006a)

徐淑子: 「性・エイズ教育のための実践セミナー」3年間の振り返り, 現代性教育月報, 24 (5): 1-5 (2006b)

徐淑子: 高校生世代を対象とした「性の健康」についての健康教育教材パッケージの開発, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業, HIV 感染予防対策の効果に関する研究, 平成 17 年度総括・分担報告書, 主任研究者, 池上千寿子, 9-14 (2006c)

徐淑子: オリジナル・ビデオ教材「Let's Condoming」の効果評価についての調査研究, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業, HIV 感染予防対策の効果に関する研究, 平成 16 年度総括・分担報告書, 主任研究者, 池上千寿子, 9-15 (2005)

徐淑子, 東優子, 兵藤智佳, 野坂祐子, 池上千寿子: パートナーとの関係性の認知が大学生男子のコンドーム使用行動に与える影響, 日本性科学会雑誌 22 (2), 75 (2004a)

徐淑子, 東優子, 兵藤智佳, 野坂祐子, 池上千寿子: 介入効果を測定する質問紙の開発, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業, HIV 感染予防対策の効果に関する研究, 平成 15 年度総括・分担報告書, 主任研究者, 池上千寿子, 15-20 (2004b)

徐淑子: 安全な性行動とはなにか, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業, エイズに関する普及啓発における非政府組織 (NGO) の活用に関する研究, 平成 12-14 年度総合研究報告書, 主任研究者, 池上千寿子, 23-28 (2003a)

徐淑子: 「予防的保健行動」としてのコンドーム使用, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業, エイズに関する普及啓発における非政府組織 (NGO) の活用に関する研究, 平成 12-14 年度総合研究報告書, 主任研究者, 池上千寿子, 29-34 (2003b)

徐淑子: 保健行動科学の視点と日本の若者の保健行動分析, 現代性教育研究月報, 21 (4): 1-6 (2003c)

徐淑子：ヘルス・コミュニケーションの考えにもとづいた健康教育の方法についての検討，新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書，51-52（2003d）

徐淑子：大学生男子におけるコンドーム使用行動の背景要因についての検討，厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業，エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究，平成13年度総括・分担報告書，主任研究者，池上千寿子，13-46（2002）

3. 学会発表

徐淑子：性感染症の予防的保健行動と性の関係性，第13回日本行動医学会学術総会，シンポジウム1『若者と大人の性感染症予防』，2007年3月17日，埼玉県立大学。

徐淑子：ピアによる教材とその効果，知識から意識へ—HIV予防介入の実践とその評価—，第19回日本エイズ学会学術集会，サテライトシンポジウム2，2005年12月2日，熊本市市民会館。

SUH, S., HIGASHI, Y., HYODO, C., NOSAKA, S., IKEGAMI, C.: Type of couple relationship and condom use among Japanese college students, The 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, July 1-5, 2005, Kobe, Japan.

Higashi, Yuko; Ikegami, Chizuko; Suh, Sookja; Hyodo, Chika; Sholdt, Gregory: A Survey of Sexual Health Programs That Use the Peer-to-Peer Approach in Japan Ikegami, Chizuko; Place Tokyo, The 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, July 1-5, 2005, Kobe, Japan.

Higashi, Yuko; Ikegami, Chizuko; Suh, Sookja; Hyodo, Chika; Sholdt, Gregory; Investigating Sexual Health Programs in Japan: A Look at Perceptions of the Peer-to-Peer Approach, The 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, July 1-5, 2005, Kobe, Japan.

Ikegami C., Suh S., Higashi Y., Ikushima Y. CONDOMing Campaign in Japan: 16th World Congress of Sexology. March 9-14, 2003. Cuba

東優子，徐淑子他：人気テレビドラマにおけるジェンダーとセクシュアリティに関する分析，第16回日本エイズ学会，2002年11月28日～30日，名古屋国際会議場。

4. 一般講演

徐淑子：性教育と性の健康，山梨レッドリボンの会，2006年12月11日，山梨県立中央病院。

徐淑子：性教育はライフスキル教育，上越地区高等学校養護教員研修会，2006年9月20日，上越市高田地区公民館。

徐淑子：性教育と「性の健康」，日本性教育協会加盟性教育サークルひつじぐも，2006年7月8日，上越市市民プラザ。

徐淑子：保健行動論からみた思春期の性，あおもり思春期研究会，2006年5月20日，青森県立保健大学。

徐淑子：保健行動学の視点と日本の若者の保健行動分析，ぐんま思春期研究会第23年次第3回研修会2005年9月10日，群馬県生涯学習センター。

徐淑子：保健行動科学からみた性の健康とコンドーム使用，上越助産師会研修会，2005年6月14日。

徐淑子：保健行動論からみたコンドーム使用，第8回新潟HIVカンファランス学術講演会2004年11月19日，新潟ワシントンホテル

徐淑子：保健行動科学から性教育を再構築する，平成16年度神奈川県立高等学校性・エイズ教育実践研究会，2004年8月4日，横浜市鶴見公会堂。

5. その他の発表

「ピアによる教材とその効果」（徐淑子知識から意識へ—HIV予防介入の実践とその評価—「若者の性の健

康」についてのサテライトシンポジウム 2005 年 12 月 2 日（金）熊本市民会館

6. その他の研究活動

参加研究会：『依存症からの回復』研究会

【研究プロジェクトによる活動（役割を含む）】

1. その他

2005 年度 性・エイズ教育のための実践セミナー

ー今日から役立つセクシュアル・ヘルスの実践の取り組みー授業展開コース：2006 年 1 月 28 日（土）・1 月 29 日（日）HIV 支援と連携コース：2006 年 2 月 18 日（土）・2 月 19 日（日）

2003 年度 性教育のための実践セミナー

「性の健康」をまもる保健行動，2003 年 12 月 13 日，財団法人日本性教育協会。

【研究活動の補遺】

1. 研究活動の現状

① 大学の特別研究費に基づく研究活動

平成 18 年度

「薬物・アルコール乱用防止教育とエイズ教育の統合モデルについての基礎的研究」（個人研究）

平成 14 年度

「ヘルス・コミュニケーションの考えにもとづいた健康教育の方法についての検討」（個人研究）

「異文化看護（Transcultural Nursing）の視点を取り入れた看護英語教材の開発（共同研究，代表者 山本淳子）

② 科学研究費

平成 18-19 年度：「アルコール・薬物乱用防止教育とエイズ教育統合の試み」

③ 学外公募研究補助金に基づく研究活動の現状

以下の研究課題において、分担研究者を務めた。

平成 19 年度

性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究Ⅱ，厚生労働科学研究研究費補助金エイズ対策研究事業，日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究（研究代表者：東優子）

平成 18 年度

性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究Ⅰ，厚生労働科学研究研究費補助金エイズ対策研究事業，日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究（研究代表者：東優子）

平成 17 年度

教材パッケージの開発，厚生労働科学研究研究費補助金エイズ対策研究事業，エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究（研究代表者，池上千寿子）

平成 16 年度

映像教材の効果評価調査と分析，厚生労働科学研究研究費補助金エイズ対策研究事業，エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究（研究代表者，池上千寿子）

平成 15 年度

映像教材効果測定のための準実験研究プロトコルの作成，厚生労働科学研究研究費補助金エイズ対策研究事業，エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究（研究代表者，池上千寿子）

平成14年度.

大学生男子におけるコンドーム使用行動の背景要因についての検討，厚生労働科学研究研究費補助金エイズ対策研究事業，エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究（研究代表者，池上千寿子）

【社会活動】

1. 学術学会及びピア学会・研究会

① 参加学会

- ・ 日本保健医療行動科学会
- ・ 日本健康教育学会
- ・ 日本エイズ学会
- ・ 日本アルコール関連問題学会

2. その他の社会活動（国・県・市町村及び公的なピア集団の組織活動）

平成17年度 上越地域保健医療福祉推進会議「思春期保健課題検討会」委員

渡辺弘之

【研究活動】

①原著

渡辺弘之，2006「ベトナム南部におけるハンセン病患者の状況と障害度ーベンサン病院およびハンセン病村調査結果よりー」『ハンセン病市民学会年報2005』世界書院，88-114.

渡辺弘之，2006「福祉NPOにおける「仕事」論ー現場で働くスタッフのインタビューよりー」『人間科学研究』第8号，45-70.

渡辺弘之，2005「「個人化」をめぐる諸相ー階層・家族・地域社会・自己責任ー」『人間科学研究第7号』人間科学研究会，75-69.

渡辺弘之，2004「地方都市の社会学ー郊外化と地方都市の変化ー」『人間科学研究第6号』人間科学研究会.

渡辺弘之，2003「「生きにくさ」の現在ー自己の経験を通して見た「ストレス」ー」『人間科学研究第5号』人間科学研究会.

渡辺弘之，2002「「長生き」は幸せかー高齢化社会におけるQOLー」『人間科学研究第4号』人間科学研究会.

②その他の論文及び調査報告

山本淳子・渡辺弘之・仲川浩世，2006「映画を用いた英語のパラグラフライティング指導と学生による自己評価についての考察」『時事英語学研究』第45号.

渡辺弘之，2005「ベトナムにおけるハンセン病患者の実態についてーベンサン病院調査の結果よりー」新潟県立看護大学学長特別研究費

中村博生・渡辺弘之, 2005「現代におけるヒューマニティと環境の関係について」新潟県立看護大学学長特別研究費.

③学会発表

渡辺弘之, 2007「ベトナムにおけるハンセン病(元)患者の実態とその特徴について」第55回日本社会福祉学会大会(国際社会福祉3), 大阪市立大学.

渡辺弘之, 2006「ベトナムのハンセン病村の子どもたち一元ハンセン病患者の親を持つということ」第79回日本社会学会大会(ハンセン病部会), 立命館大学.

渡辺弘之, 2005「ベトナムのハンセン病患者と歴史として刻まれた障害ーベトナムのハンセン病調査よりー」第78回日本社会学会大会(歴史・社会史・生活史1部会), 法政大学.

渡辺弘之, 2004「ベトナムにおけるハンセン病患者の実態について」第77回日本社会学会大会(国際・エリアスタディ1部会), 熊本大学.

④著書

山本淳子・Sarah Crow・渡辺弘之, 2006『看護師の英語ワークブックー患者対応の基本93フレーズー』NOVA

渡辺弘之, 2004『生命と社会を考える: 社会福祉制度2002-2003』ページネーション社

渡辺弘之, 2003『生命と社会を考える: 社会福祉制度2001-2002』ページネーション社

渡辺弘之, 2002『生命と社会を考える: 社会福祉制度2000-2001』ページネーション社

永吉雅人

【研究活動】

1. 原著論文

1) 永吉雅人, 玉置久, 村尾元, 北村新三, モジュール型強化学習における適応的状態空間構成法, 神戸大学大学院自然科学研究科紀要第23号-B, pp.13-20, 2005.

2) 永吉雅人, 村尾元, 玉置久, "強化学習における状態フィルタの提案と一実現手法"電気学会論文誌C, Vol.126, No.7, pp.832-839, 2006.

2. 国際会議(採択審査あり)

1) Masato Nagayoshi, Hajime Murao and Hisashi Tamaki, A State Space Filter for Reinforcement Learning, Proc. The Eleventh International Symposium on Artificial Life and Robotics 2006(AROB11th'06), pp.615-618(GS1-3(onCD-ROM)), 2006.

2) Masato Nagayoshi, Hajime Murao and Hisashi Tamaki, "A State Space Filter for Reinforcement Learning in POMDPs-Application to a Continuous State Space", "Proc. of the SICE-ICSE International Joint Conference 2006 (SICE-ICCAS2006), pp.6037-6042(SE18-4(DVD-ROM)), 2006.

3. 報告書

1) 室崎千重, 米田郁夫, 神吉優美, 永吉雅人, 井上結, 糟谷佐紀, 車いすの操作性の評価に基づいた住環境整備に関する研究(その2), 平成17年度兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集, pp.109-115, 2006.

2) 米田郁夫, 北川博巳, 室崎千重, 神吉優美, 永吉雅人, 谷内久美子, 糟谷佐紀, 各種環境バリアが車いす使用者に強いる負担量の評価法およびバリア走破装置の開発に関する研究, 平成17年度兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集, pp.116-124, 2006.

3) 中村俊哉,米田郁夫,永吉雅人,室崎千重,神吉優美,高齢者・障害者の生活支援用具の開発と適合に関する研究平成17年度兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集, pp.125-128,2006.

4) 永吉雅人,橋詰努,北山一郎,室崎千重,神吉優美,電動車いすによる自律移動を促進する開発およびまちの環境整備に関する研究,平成18年度兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集,pp.102-109,2007.

5) 橋詰努,中村俊哉,永吉雅人,室崎千重,神吉優美,高齢者・障害者の生活支援用具の開発と適合に関する研究,平成18年度兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所報告集, pp.110-114,2007.

4. 学会発表

1) 永吉雅人,村尾元,玉置久,北村新三,状態のフィルタリングを考慮した強化学習方式, 第48回システム制御情報学会研究発表講演会, pp.607-608, 2004.

2) 永吉雅人,村尾元,玉置久,北村新三,強化学習における状態フィルタの適応的獲得, 第10回創発システム・シンポジウム, pp.12g.132, 2004.

3) 永吉雅人,村尾元,玉置久,北村新三,高次元連続状態空間での強化学習における状態フィルタの適応的獲得, 平成16年電気学会電子・情報・システム部門大会,pp.429-434,2004.

4) 永吉雅人,村尾元,玉置久,北村新三,強化学習における状態フィルタの適応的獲得—マルチエージェント問題への適用, 第17回自律分散システム・シンポジウム, pp.195-200, 2005.

5) 永吉雅人,村尾元,玉置久,北村新三,強化学習における状態フィルタの評価指標, 第49回システム制御情報学会研究発表講演会, pp.293-294, 2005.

6) 永吉雅人,村尾元,玉置久,北村新三,強化学習における状態フィルタの適応過程, 第11回創発システム・シンポジウム, pp.123-126, 2005.

7) 永吉雅人,村尾元,玉置久,強化学習における状態フィルタ:冗長な入力情報を含む連続状態空間への適用, 平成17年電気学会電子・情報・システム部門大会, pp.474-479, 2005.

8) 小山陽平,永吉雅人,村尾元,玉置久,"連続状態空間・連続行動空間での強化学習における状態フィルタの適応的獲得," 第50回システム制御情報学会研究発表講演会, pp.355・356, 2006.

9) 永吉雅人,村尾元,玉置久,"強化学習におけるPOMDPsでの状態フィルタの適応的獲得," 第12回創発システム・シンポジウム, pp.68-71, 2006.

10) 米田郁夫,北川博巳,橋詰努,室崎千重,永吉雅人,神吉優美,糟谷佐紀,谷内久美子,プラットホーム—列車間の段差・隙間が手動車いすに与える影響と対策に関する研究, 第21回リハ工学カンファレンス, pp.13-14, 2006.

11) 米田郁夫,橋詰努,室崎千重,神吉優美,永吉雅人,北川博巳,糟谷佐紀,環境バリアにおける負担軽減のための車いす側の工夫の可能性—横断勾配路面への対応方法について—, 日本福祉のまちづくり学会第9回全国大会, pp.123-126, 2006.

12) 永吉雅人,村尾元,玉置久,"POMDPsでの強化学習における状態フィルタ:離散状態空間と連続状態空間への適用," 平成18年電気学会電子・情報・システム部門大会, pp.487-492, 2006.

13) 村井俊哉,永吉雅人,村尾元,玉置久,"強化学習による電動車イスの適応的直進走行," 第51回システム制御情報学会研究発表講演会, pp.109-110, 2007.

II. 生物医学領域

杉田 収

【研究活動】

1, 原著

- 1) 斎藤智子, 山元智穂, 杉田 収, 他 (2002) : 看護学生の喫煙行動及び喫煙に関する意識と喫煙防止教育のあり方, 新潟看護短大紀要, 8, 27-34.
- 2) 杉田 収, 石澤信人, 中野正春, 他 (2003) : クメンヒドロペルオキシド/ヘモグロビン・メチレンブルー法による緑茶・紅茶の抗酸化能, 臨床病理, 51, 859-863.
- 3) 杉田 収, 室岡耕次, 大竹 朗, 他 (2004) : 介護・看護からみた住宅評価法, 保健の科学, 46, 143-149.
- 4) Sugita O, Ishizawa N, Matsuto T, et al (2004) : A new method of measuring the antioxidant activity of polyphenols using cumene hydroperoxide, Ann Clin Biochem, 41, 72-77.
- 5) 庭野儀英, 杉田 収 (2005) : 生命倫理教育に関する研究—教員養成系大学生と看護系大学生との意識の比較, 上越教育大学研究紀要, 25(1), 147-155.
- 6) 杉田 収, 小林恵子, 平澤則子, 他 (2006) : 室内空气中ホルムアルデヒド測定用簡易測定器 (FP-30 型) による測定値の信頼性と法規制 (2003 年) 後のホルムアルデヒド測定例, 室内環境学会誌, 9, 45-50.

2, その他の論文及び調査報告書

- 1) 杉田 収 (2002) : 高齢者の居住環境整備に向けたアプローチ—介護予防の視点から—住宅改修に当事者・家族をどう参画させるか, 関係者による検討会開催のすすめ, 生活教育, 46 (12), 30-34.
- 2) 杉田 収 (2002) : 文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 C, 課題番号 09672370) 報告書, 抗酸化能の新測定法とその臨床応用に関する研究.
- 3) 小林恵子, 杉田 収, 斎藤智子, 他 (2002) : 快適住まい環境研究会報告 第 7 報—住む人の QOL (生活の質) を高める住まい方とは—, 新潟看護短大紀要, 8, 45-50.
- 4) 杉田 収 (2003), 佐々木美佐子, 小林恵子, 他 : 高齢社会を支える住宅環境に関する研究, 新潟県立看護大学平成 14 年度学長特別研究費研究報告書, 1-4.
- 5) 杉田 収 (2003) : 人と環境にやさしい住まいづくり—これからのリフォーム—, 新潟バイタリテイ, 21(11), 4-7.
- 6) 杉田 収 (2003) : クメンヒドロペルオキシドを用いた新しい抗酸化能測定法の開発, 新潟県立看護大学平成 14 年度学長特別研究費研究報告書, 37-40.
- 7) 杉田 収, 佐々木美佐子, 小林恵子, 他 (2003) : 地域ケアを支える住宅環境に関する研究, 新潟県立看護大学平成 14 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 17-20.
- 8) 杉田 収, 佐々木美佐子, 小林恵子, 他 (2004) : 地域ケアを支える住宅環境に関する研究—室内ホルムアルデヒドの簡易測定法, 新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 平成 16 年 6 月, 23-30.
- 9) 杉田 収 (2005) : ワインの抗酸化能に与える亜硫酸ナトリウムの影響, 新潟県立学長特別研究費研究報告書, 平成 17 年 6 月, 36-41.
- 10) 杉田 収, 斎藤智子, 小林恵子, 他 (2005) : 地域のヘルスケア・ニーズに基づく住環境支援—豪雪地域での頸髄損傷患者用住宅の提案—, 新潟県立看護大学研究交流センター年報, 平成 17 年 6 月, 17-23.
- 11) 杉田 収 (2006) : 紅茶の抗酸化能に関する研究—紅茶は安全な健康飲料か—, 新潟県立看護大学学長特別研究費研究報告書, 平成 18 年 6 月, 33-39.

- 12) 竹本亮太, 牧野秀夫, 杉田 収, 他(2006): 中山間地の訪問看護支援を目的とした位置案内方法の基礎研究, 信学技報, 106(370), 62-63.

3, 学会発表

- 1) 杉田 収(2002): ワークショップ; クメンヒドロペルオキシドを用いた抗酸化能測定の意義, 第20回日本臨床化学会甲信越支部総会抄録集, 10-13.
- 2) Sugita O, Ishizawa N, Matsuto T, et al (2002): The antioxidant activity of polyphenols using cumene hydroperoxide, Clinical Chemistry and Laboratory Medicine, 40, S151.
- 3) 杉田 収, 石澤信人, 松戸隆之, 他(2003): CHP/Hb・MB法の自家製試薬によるお茶類の抗酸化能, 臨床病理(補), 51, 333.
- 4) 杉田 収, 小林恵子, 平澤則子, 他(2004): 簡易測定器による室内ホルムアルデヒドの測定, 臨床病理(補), 52, 147.
- 5) 杉田 収, 中野正春, 松戸隆之, 他(2005): ワインの抗酸化能とその酸化防止剤, 臨床病理(補), 53, 306.
- 6) 杉田 収, 松戸隆之, 岡田正彦(2006): 紅茶の抗酸化能, 臨床化学(補), 35, 48.
- 7) 飛田芳史, 牧野秀夫, 杉田 収, 他(2006): GPSとRFIDを用いた中山間地向け訪問看護システムの開発ー訪問履歴の自動記録とICカードへの応用ー, 電子情報通信学会大会・技術研究報告会抄録集, 9-12.

4, 著書

- 1) 杉田 収 分担執筆, 他3400名(2003), 総編集; 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨, : アルカリホスファターゼアイソザイムなど18項目, 医学大辞典, 医学書院, 東京.
- 2) 杉田 収, 佐々木美佐子, 関谷伸一, 他(2003): 上越地域における快適で安心な住まい環境に関する研究, 自費出版, 快適住まい環境研究会, 上越.
- 3) 杉田 収 編, 大林光念, 岡田正彦, 須藤加代子, 他著(2004): 化学ー基礎からQOLを高める化学までー, ヌーヴェルヒロカワ, 東京.
- 4) 杉田 収 分担執筆(2004): 血液・尿化学検査, 免疫学的検査ーその数値をどう読むかー, 尿中N-アセチル- β -D-グルコサミニダーゼ, p141-143, 日本臨床, 大阪.

5, 一般講演

- 1) 杉田 収 (2002): 快適な住まいについて考えようー人と環境にやさしい住宅とはー, 上越市環境情報センター・家事の環境講座, 8月.
- 2) 杉田 収 (2002): 上越市人にやさしいまちづくりー条例の背景と推進計画ー, 上越市庁内研修会講演, 10月.
- 3) 杉田 収 (2003): ワークショップ 四肢麻痺者の自立を支える環境制御装置, 新潟看護大学看護研究交流センター地域・行政課題研究事業, 2月.
- 4) 杉田 収 (2003): パネルディスカッション 健康住宅について考える, 第5回 全国健康住宅サミット 越後雪国大会, 2月.
- 5) 杉田 収(2003): 住宅の太陽光発電とシックハウスについて, 上越市環境情報センター; おとなの環境教室, 6月.
- 6) 杉田 収 (2003): 住まいは福祉の原点, 東頸城郡民生・児童委員協議会講演(浦川原村), 6月.
- 7) 杉田 収 (2003): まちなかのまちづくりー最後まで快適にまちで暮らしたいためにー, まちなかのふくし・くらし・まちづくり住民シンポジウム(上越市), 11月.
- 8) 杉田 収 (2003): 自立と環境, 新潟県身体障害者施設協議会講演(上越市), 11月.
- 9) 杉田 収 (2003): 上越市のユニバーサルデザイン活動ー上越市人にやさしいまちづくり推進会議報告ー, 第2回新潟県ユニバーサルデザイン講演会, 12月.
- 10) 杉田 収 (2005): ユニバーサルデザインの考え方についてー上越市独自のユニバーサルデザイ

ンのまちづくりをめざしてー（上越市），5月．

6、その他の研究活動

新潟県立看護大学内に事務局を置かせて頂いている「快適住まい環境研究会（住ま研）」の幹事（代表）の一人として以下の地域活動を継続している。「住ま研」は住環境の改善をめざした自主研究組織で、会費制による会員の約70名により運営されている。

1）快適住まい環境研究会（住ま研）による「住ま研ニュース」の発行

- ① 住ま研ニュース Vol. 5(1)通巻26号（2002年4月）から
- ② 住ま研ニュース Vol. 9(5)通巻52号（2007年3月）まで継続中

2）住ま研フォーラム、及び講演会の開催

- ① 第8回フォーラム（2002年9月）「地域看護からみた住環境」
- ② 第1回講演会（2004年3月）「快適な住まいと省エネルギー」赤林伸一氏
- ③ 第2回講演会（2004年10月）「こんな夜更けにバナナかよ」渡辺一史氏
- ④ 第9回フォーラム（2005年10月）「脊髄を損傷された方の自立を支える住まい」
- ⑤ 第10回フォーラム（2006年5月）「化学物質過敏症（CS）を考える集い」

3）住ま研施設見学会

介護型ロボット見学会（小矢部市）（2002年7月）
（毎年近隣の施設の見学会を継続中）

4）住宅相談への対応

- ① 脊髄損傷青年宅の新築設計に関わる（2003年8月から2005年8月まで）
- ② 車椅子生活になった中学生宅の改修設計に関わる（2006年1月から8月まで）

【社会活動】

1、学術学会

日本電気泳動学会評議員・編集委員（現在に至る）	（1975年1月から）
日本自動化学会評議員（現在に至る）	（1975年1月から）
生物試料分析学会評議員（現在に至る）	（1991年6月から）
日本臨床検査医学会評議員・査読委員（現在に至る）	（1991年6月から）
日本臨床化学会評議員（現在に至る）	（1993年6月から）
日本遺伝子診療学会会員（現在に至る）	（1997年1月から）
日本住宅会議会員（現在に至る）	（2000年1月から）
日本雪工学会会員（現在に至る）	（2000年1月から）

2、その他の社会活動

高田盲学校再編整備後の関連施設検討特別部会会長	（2004年8月まで）
上越地域福祉総合拠点施設整備基本計画検討特別部会会長	（2005年10月まで）
上越市障害者福祉推進連携協議会社会参加推進部会副部会長	（現在に至る）
上越市創造行政研究企画運営委員会委員	（現在に至る）
上越市人にやさしいまちづくり推進委員会委員長	（現在に至る）

吉山直樹

【研究活動】

1. 著書

- 1) 吉山直樹 (編集責任), 鈴木荘一, 飯島克巳, 内山富士雄, 寺崎 仁, 松村真司編(2004): 日本プライマリ・ケア学会基本研修ハンドブック「プライマリ・ケア医の一日」, 南山堂, 東京.
- 2) 吉山直樹 (編集責任), 小松 真, 石橋幸滋, 山田隆司編, 生坂政臣監修(2004): プライマリ・ケア実践ハンドブック, エルゼビアジャパン, 東京.
- 3) 吉山直樹, 岡崎三代, 窪田哲朗, 吉岡耕一, 小山高敏, 他 16 名(2004): I. 水バランスと酸塩基平衡およびIV. 腎機能 (第5章生理機能の分子論), 原 諭吉, 太田英彦編集, スタンダード生化学, 文光堂, 東京.
- 4) 吉山直樹, 矢吹清人, 小松 真, 石橋幸滋, 鈴木荘一, 他 79 名(2004): お会いできてよかった, 矢吹清人編集, 診療の質を高める外来でのこの一言, 199p, 日本医事新報社, 東京.
- 2) 吉山直樹 (編集委員長), 寺崎 仁, 山田隆司, 石橋幸滋, 大野每子編, 大道 久監修(2005): プライマリ・ケア用語集, エルゼビアジャパン, 東京.
- 5) 吉山直樹, 矢吹清人, 小松 真, 飯島克巳, 田坂千佳, 他 92 名(2006): きっと会えますよ, 矢吹清人編集, ケアの質を高める在宅でのこの一言, 229p, 日本医事新報社, 東京.
- 6) 吉山直樹, 矢吹清人, 小松 真, 堂垂伸治, 渡辺 武, 他 89 名(2007): ああ, 今日生きてける, 矢吹清人編集, 私を変えてくれた患者さんのこの一言, 227p, 日本医事新報社, 東京.

2. 原著・その他の論文

- 1) 吉山直樹(2002): 在宅感染症の今日一現状のままで良いのか, 日本プライマリ・ケア学会誌, 25(3), 202-212.
- 2) 吉山直樹(2002): 島の医療・福祉に求められるもの, 日本島嶼学会年報, 4, 55-61.
- 3) 吉山直樹(2002): アパタイト経皮端子付き腹膜カテーテルの臨床応用について, Transactions of the 18th Symposium on Apatite 2002, 18, 5-6.
- 4) 吉山直樹(2003): 在宅感染症総論, 日本プライマリ・ケア学会神奈川支部会誌, 13/14, 60-61.
- 5) 吉山直樹 (2004): 日本プライマリ・ケア学会の指導医養成の取り組み―「指導医ワークショップ」の歴史と今後の課題, 特集「新臨床研修制度と地域医療」, クリニカルプラクティス, 23(8), 736-740.
- 6) 杉田 収, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 吉山直樹, 他 3 名(2006): 室内空气中ホルムアルデヒド測定用簡易測定器 (FP-30 型) による測定値の信頼性と法律規制 (2003 年) 後のホルムアルデヒド濃度測定例, 室内環境学会誌, 9(1), 45-50.
- 7) 吉山直樹 (2006): 意欲喪失患者のケア, 山口 徹・北原光夫・福井次矢総編集, 今日の治療指針 (2006 年版), 1, 726p, 医学書院, 東京.
- 8) 吉山直樹(2007): 面接時の受診者 (クライアント) と医療者の身体姿勢に関する行動学的研究, 平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 研究成果報告書, 71p.

3. 総説・調査報告

(1) 総説

- 1) 吉山直樹(2002): 在宅感染症が院内感染症と異なる特徴, 難病と在宅ケア, 8(9), 31-34.
- 2) 吉山直樹(2003): セカンドオピニオンは医療か? 人間の医学, 39(3), 232-234.
- 3) 吉山直樹 (2006): 高血圧, 総合臨床, 55 (増刊), 845-849.

- 4) 吉山直樹 (2006) : 「介護保険制度の見直しと課題」を終えて, 日本プライマリ・ケア学会誌, 29(2), 144-145.
- 5) 吉山直樹 (2006) : メタボリック・シンδροーム, Q&A, 日本心療内科学会, 10(1), 43.
- 6) 吉山直樹 (2007) : 死んだ女性兵士の遺したもの, 創立 30 周年特集「私のプライマリ・ケア」, 日本プライマリ・ケア学会誌, 30(1), 37.
- 6) 吉山直樹 (2007) : 総論 3) 少子高齢化時代のプライマリ・ケア, 創立 30 周年特集「プライマリ・ケアと地域社会ー 2 1 世紀型社会へのプライマリ・ケアの役割」, 日本プライマリ・ケア学会誌, 30(2), 140-141.
- 6) 吉山直樹 (2007) : 各論 4) プライマリ・ケア指導医の将来像, 創立 30 周年特集「プライマリ・ケアと地域社会ー 2 1 世紀型社会へのプライマリ・ケアの役割」, 日本プライマリ・ケア学会誌, 30(2), 155-156.

(2) 報告書

- 1) 吉山直樹(2003) : 面接技法の研究ー特に外来面接設定でのクライアントと医療者の姿勢に関する動物行動学的研究ー. 平成 14 年度学長特別研究費報告書, 41-42.
- 2) 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 吉山直樹(2003) : 農村地域における高齢者の生活構造とソーシャル・ニーズに関する研究. 平成 14 年度学長特別研究費報告書, 29-32.
- 3) 吉山直樹, 佐々木美佐子(2003) : 豪雪へき地医療福祉機関の機能維持に関する調査ー特に医師・看護師の確保に重点を置いて. 平成 14 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 5-8.
- 4) 吉山直樹, 佐々木美佐子(2004) : 医療専門職のライフコース (Pass of Life) 研究ー医師の場合についてー, 平成 15 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 5-8.
- 5) 杉田 収, 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 吉山直樹, 他 4 名(2004) : 地域ケアを支える住宅環境に関する研究ー室内ホルムアルデヒドの簡易測定法, 平成 15 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 23-30.
- 6) 吉山直樹, 橋本明裕, 深澤佳代子, 服部 伸, 杉田 玄, 他 3 名 (2004) : IT を活用した継続医療・看護ケア (ヘルスケア) の有効・効果的なプランニングの研究, 平成 15 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 115-121.
- 7) 橋本明裕, 吉山直樹, 加藤光寶 (2004) : 上越地域を限定とした信頼度を考慮した看護医療系メタデータ検索システムの構築のこころみ, 平成 15 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 129-130.
- 8) 橋本明裕, 吉山直樹, 加藤光寶 (2004) : 多言語ドメインの現状と課題ー看護大学. Jp の取得と運用とその課題, 平成 15 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 131-136.
- 9) 吉山直樹 橋本明裕 深澤佳代子, 服部 伸 杉田 玄, 他 3 名(2005) : ヘルスケアの場における Ecological Momentary Communication Tool としての携帯電話の研究ー Fake Compliance の克服をめざして, 平成 16 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 59-66.
- 10) 橋本明裕, 加藤光寶, 飯田智恵, 内藤知佐子, 吉山直樹, 他 3 名(2005) : 無線 IP ネットワークによる実習施設と県立看護大学との有機的な連携実験の試み, 平成 16 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 109-123.
- 11) 中島紀恵子, 吉山直樹(2005) : 豪雪地方自治体における歳以上高齢者の健康教育・介護予防計画への支援, 豪雪地帯における高齢者の居宅での保健医療福祉サービス提供システム構築事業実績報告書 (新潟大学), 61-67.
- 12) 吉山直樹, 橋本明裕 (2006) : ヘルスケアの場における Ecological Momentary Communication 蹠 Tool としての携帯電話の研究ー 静止画・動画ツールとしての検討, 平成 17 年度新潟県立看護大学看護研究交

流センター事業活動・研究報告書, 14-20.

13) 橋本明裕, 加固正子, 深澤佳代子, 吉山直樹(2006): 看護大学における IT 環境整備による看護研究推進効果に関する研究—ニーズに基づいた看護職のナレッジアーカイブ作成の実証研究のための基盤整備, 平成 17 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 53-67.

14) 野地有子, 堀 良子, 深澤佳代子, 加固正子, 吉山直樹, 他 8 名(2005): 看護領域別演習科目における PBL チュートリアル導入の効果と課題, 平成 16 年度学長特別研究費報告書, 1-13.

15) 加城貴美子, 吉山直樹, 阿部正子(2005): 接地足蹠面からみた足の矯正指導と性周期ホルモンに関する基礎的研究, 平成 16 年度学長特別研究費報告書, 28-35.

16) 野地有子, 柿川房子, 堀 良子, 直成洋子, 吉山直樹, 他 3 名(2006): PBL チュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究, 平成 17 年度学長特別研究費報告書, 1-13.

17) 中野正春, 関谷伸一, 杉田 収, 吉山直樹(2007): 看護教育における生物医学領域の効果的教育方法に関する研究, 平成 18 年度学長特別研究費報告書, 1-8.

18) 曾田耕一, 立屋敷かおる, 中島憲一, 吉山直樹, 松倉久枝, 他 14 名(2007): 中学生向け食育教材製作, 上越の学校から始まる地域型食育推進報告書(2007 年 2 月刊), 28-30.

19) 関谷和美, 杉田弘子, 池田恒子, 西脇京子, 吉山直樹, 他 4 名(2007): あすなろファミリー計画 2 1 中間評価(2007 年 3 月刊)

(3) その他の研究報告

a. 共同研究

1) 吉山直樹, 中島紀恵子, 服部 伸(服部外科医院; 上越市), 杉田 玄(杉田医院; 上越市)(2004): 難病としての痴呆要介護者に対する総合的・効率的ケア体制の確立に関する研究, 勇美記念財団 2002 年度在宅医療助成研究, 平成 15 年 4 月~平成 16 年 3 月。(再掲)

2) 吉山直樹, 矢島恭一(上田診療所; 山形県酒田市)(2004): 常在細菌の実態からみた在宅感染症にかんする研究, 日本プライマリ・ケア学会課題研究, 平成 14 年 12 月~平成 16 年 3 月。(再掲)

11) 中島紀恵子, 吉山直樹(2005): 豪雪地方自治体における歳以上高齢者の健康教育・介護予防計画への支援, 豪雪地帯における高齢者の居宅での保健医療福祉サービス提供システム構築事業実績報告書(新潟大学), 61-67.(再掲)

b. 文部科学省科学研究費(日本学術振興会扱い)助成課題研究

1) 吉山直樹. 面接時の受診者(クライアント)と医療者の身体姿勢に関する行動学的研究. 申請 2003 年 11 月, 交付: 平成 16 年度~17 年度.

(4) 巻頭言・編集後記・座談会

1) 吉山直樹(2002): ゆるぎない信頼, 日本心療内科学会誌(編集後記), 6(4).

2) 吉山直樹(2004): 被災時のロジスティックス, 平時のロジスティックス, 特集「健診・人間ドック後指導の実際」巻頭言, クリニカルプラクティス, 23(12), 1135.

3) 吉山直樹(2004): 二つの感動, 第 2 回徳洲会臨床研修病院指導医講習会の記録(総評), 111.

4) 吉山直樹(2005): 着ぐるみの熊, 日本心療内科学会誌(編集後記), 9(1).

5) 吉山直樹(2005): 「よきサマリア人(びと)」であれ, 第 3 回徳洲会臨床研修病院指導医講習会の記録(総評), 73.

6) 吉山直樹(2005): 平等と特別扱いと, 特集「女性の健康と女性専用外来」巻頭言, クリニカルプラクティス, 24(7), 709.

7) 吉山直樹(2005): 教育は愛の深さ, 第 4 回徳洲会臨床研修病院指導医講習会の記録(総評), 81.

- 8) 吉山直樹 (2006) : 診療所の時代が来た, 特集「診療所の機能とグループ診療」巻頭言, クリニカルプラクティス, 25(1), 1.
- 9) 吉山直樹 (2006) : ラディカルな変化がおきている—病院に何が求められているか, 第5回徳洲会臨床研修病院指導医講習会の記録 (総評), 82.
- 10) 吉山直樹 (2006) : 大人になりたい, 大人になりたくない, 特集「たばこの害—あなたも止められる」巻頭言, クリニカルプラクティス, 25(8), 713.
- 11) 吉山直樹 (2006) : 医療と「言霊」について, 第6回徳洲会臨床研修病院指導医講習会の記録 (総評), 86.
- 12) 吉山直樹 (2007) : 学会誌のプロパガンダ, 日本心療内科学会誌 (編集後記), 11(1).
- 13) 小松 真, 小林之誠, 渡辺 武, 高玉真光, 吉山直樹, 他8名 (2007) : 日本プライマリ・ケア学会の過去・現在・未来, 日本プライマリ・ケア学会創立30周年記念座談会, 日本プライマリ・ケア学会誌, 30(1), 10-15.
- 14) 吉山直樹 (2007) : 腎疾患診療の新たな夜明け, 特集「慢性腎疾患への対策—透析に移行させないために」巻頭言, クリニカルプラクティス, 26(6), 435.
- 13) 吉山直樹 (2007) : 特集にあたって, スローエイジングとアンチエイジング (巻頭言), 臨牀看護, 33(10), 1400-1401.

3. 学会発表

- 1) 吉山直樹, 小林繁郎, 宮原 祥, 田中キミ子 (2002) : 面接技法の研究—外来診療における「右」と「左」, 第25回プライマリ・ケア学会, 2002. 6.
- 2) 荒木俊行, 南部正人, 吉山直樹, 小澤健二, 堀江さや, 竹中直也, 他4名 (2002) : 当院におけるOFF-LINE-HDF療法, 第47回日本透析医学会, 2002. 7.
- 3) 吉山直樹 (2003) : 医療面接の動物行動学的検討, 第7回日本心療内科学会学術大会, 2003. 1.
- 4) 荒木俊行, 南部正人, 吉山直樹, 小澤健二, 竹中直也, 堀江さや, 他5名 (2003) : 透析アミロイドーシスに対するOFF-LINE大量置換療法+ β_2 -MG吸着カラム(リクセルS-15)の1症例, 第48回日本透析医学会, 2003. 6.
- 5) 吉山直樹, 田中キミ子 (2003) : 医療専門職のライフコース(Pass of Life)研究, 第26回プライマリ・ケア学会, 2003. 7.
- 6) 田中キミ子, 柏木夕香, 吉山直樹, 戸村成男 (2003) : 高齢者のセルフケア実践の分析—独り暮らし高齢者のセルフケアに関連する要因, 第26回プライマリ・ケア学会, 2003. 7.
- 7) 吉山直樹, 矢島恭一 (2004) : 常在細菌の実態からみた在宅感染症にかんする研究, 第27回プライマリ・ケア学会, 2004. 6.
- 8) 吉山直樹, 橋本明裕, 中島紀恵子, 服部 伸, 杉田 玄 (2004) : ITを活用した在宅要介護者のヘルスケアに関する効率的情報交換の検討, 第15回日本在宅医療研究会, 東京, 2004. 6.
- 9) 荒木俊行, 小澤健二, 竹中直也, 堀江さや, 吉山直樹, 他5名 (2004) : 当院のHDF患者における血中 β_2 -MGの2年間の追跡, 第49回日本透析医学会, 神戸, 2004. 6.
- 10) 吉山直樹 (2005) : 看護大学による中越地震被災者支援活動について—プライマリ・ケア機能の復権を, 第28回プライマリ・ケア学会, 2005. 5.
- 11) Naoki Yoshiyama, Kayoko Fukasawa, Masako Kako, Akihiro Hashimoto, Shin Hattori (2005) : Effective Communication between Health Care Providers on using Cellular Phone, WONCA Asia Pacific Regional Conference 2005, Kyoto, 2005. 5.

- 12) 荒木俊行, 小澤健二, 新井知子, 堀江さや, 吉山直樹, 他4名 (2005): 当院に於けるHD・HDF療法施行時の α_1 -MGの除去量およびアルブミン漏出量の検討, 第50回日本透析医学会, 横浜, 2005.6.
- 13) 吉山直樹 (2006): 面接技法の研究 ―面接姿勢に関する動物行動学的検討(第2報), 第10回日本心療内科学会学術大会, 2006.1.
- 14) 吉山直樹 (2006): 「食育」から「食養」へ ―「連合」型組織を意識した糖尿病教室の新しい試み, 第29回プライマリ・ケア学会, 2006.5.
- 15) 荒木俊行, 小澤健二, 佐々木治子, 竹中直也, 吉山直樹, 他4名 (2006): 後希釈HDF療法施行時のAPS-SA, FDY-GW, PES-DEの性能評価と臨床効果, 第51回日本透析医学会, 横浜, 2006.6.
- 16) 吉山直樹, 宮島ひろ子, 原良子 (2006): 介護時の「抱き」姿勢に関する研究, 第17回日本在宅医療研究会, 東京, 2006.7.

4. その他の発表

・座長

第34回千葉県透析研究会特別講演(講師: 秋沢忠男昭和大学教授)の座長, 2006年11月26日.

5. 研究プロジェクトによる活動

(1) 上越の学校から始まる地域型食育推進プロジェクト

平成18年度「民間における食育活動促進支援事業」(農林水産省)に応募し, 全国27件の1つとして採択された. 事業期間: 2006年6月5日~2007年2月20日. プロジェクト委員: 立屋敷かおる(座長), 中島憲一(副座長), 吉山直樹, 松倉久枝, 牛木智子, 曾田耕一, 相崎博美, 他12名. 成果は「上越の学校から始まる地域型食育推進報告書(2007年2月刊)」にて公表された. 実際の事業としては, ①食育アンケート, ②食育・食事バランス・ガイド, ③食育番組制作・放送, ④食事バランス・ガイド活用研修会, ⑤体験型食育学習, ⑥中学生向け食育教材製作, ⑦食育ホームページ開設, 等を実施した.

(2) はたらきざかり健康障害半減運動

平成17年度の新潟県地域振興戦略事業調整費事業として, 上越地域振興局健康福祉環境部が提案・申請した企画が採用になり, 「はたらきざかり健康障害半減運動」として実施されることとなった. その事業内容は, 地域保健と産業保健の健診データを同一指標で分析・評価することにより, 地域全体の健康課題を明らかにすることが可能であり, これに沿った健康戦略を地域保健と産業保健が協働して展開し, 働き盛りの健康障害の半減をめざすものである. 事業期間: 2006年2月1日~2007年3月31日. 代表者会議委員: 吉山直樹(委員長), 田辺直仁(アドバイザー), 丸山昭則, 高島幸男, 大久保博子, 他8名. 実務担当者ワーキング部会: 吉山直樹(部会長), 田辺直仁(アドバイザー), 馬場正代司, 渡辺睦子, 大石浩士, 他4名. 成果は, 「あすなろファミリー計画21中間評価(2007年3月刊)」にて, 公表された.

(3) リハビリ支援型ロボット及び実用化技術の開発

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が公募した「人間支援型ロボット実用化基盤技術開発」に, にいがた産業創造機構(NICO)と日立製作所が応募し, 「リハビリ支援型ロボット及び実用化技術の開発」の取組が採択された. 介護予防のための高齢者の心を動かす筋力向上トレーニングロボットとその技術の開発を目指すものである.

研究・開発期間は, 平成17年度から19年度までの3年間である. 本プロジェクトの構成員は, NICOと日立的他, 新潟県工業技術総合研究所, 長岡技術科学大学, 新潟大学, 新潟県立看護大学, 東京都老人総合研究所, 九州大学, 早稲田大学からなる大規模なコンソーシャムである.

新潟県立看護大学(登録研究員: 中島紀恵子, 吉山直樹, 飯吉令枝, 他)は, 実証実験を担当し, 最終年次の19年度において, このロボットが保健師, 看護師にとって操作しやすいものであるか, 安全に効果

的に使用できるか、等について評価することになっている。

6. 学会・研究会活動

(1) 参加学会、および運営への役割（理事，評議員，編集委員，査読委員，等）

日本腎臓学会（法定評議員），日本成人病（生活習慣病）学会（評議員），日本心療内科学会（評議員，学会誌編集委員，用語委員会委員），日本プライマリ・ケア学会（評議員，理事，認定委員会委員，介護保険委員会委員長，用語委員会委員長），日本在宅医療研究会（世話人），国際腎臓学会（I S N），ヨーロッパ人工臓器移植学会（E D T A），日本内科学会，日本透析医学会，日本医学教育学会，日本家庭医療学会，日本総合診療医学会，日本老年医学会

(2) 各種委員等

- 1) 日本心療内科学会誌編集委員会委員(副委員長)
- 2) 日本プライマリ・ケア学会認定委員会委員(副委員長)
- 3) 日本心療内科学会用語委員会委員
- 4) 日本プライマリ・ケア学会用語委員会委員長（2005 年 12 月まで）
- 5) 日本プライマリ・ケア学会介護保険委員会委員長（2007 年 3 月まで）

7. その他の研究活動

(1) 大学の特別研究費に基づく研究活動の現状

a. 学長特別研究費

吉山は，平成 14 年度の学長特別研究費のうち個人研究の範疇で面接技法に関する研究について，研究代表者として研究費の分配を受けた。平成 14 年度および平成 16 年度～平成 18 年度にかけて共同研究者として学長特別研究費の分配を受けた。

b. 地域課題研究費（看護研究交流センター）

吉山は，平成 14 年度から平成 17 年度にかけて，研究代表者としてあるいは共同研究者として，地域課題研究費の分配を受けた。

分配を受けた研究テーマとして，豪雪へき地の医師・看護師の確保，医療専門職のライフ・コース研究，住宅環境に関する研究，携帯電話を活用したヘルスケアの研究，看護医療系メタデータ検索システム・ナレッジアーカイブの構築，無線 IP ネットワークによる連携実験の試み，豪雪地方における高齢者の介護予防の支援，等の研究に取り組んだ。

(2) 学外公募研究補助金に基づく研究活動の現状

次のような学外公募研究補助金を獲得している。

- 1) 平成 14 年度に在宅医療助成勇美記念財団の研究助成を受けた。テーマは「難病としての痴呆要介護者に対する総合的・効率的ケア体制の確立に関する研究」，研究員は，中島紀恵子（申請者），吉山直樹，服部 伸，杉田 玄。
- 2) 平成 14 年度の日本プライマリ・ケア学会の課題研究による研究助成を受けた。テーマは「プライマリ・ケアにおける感染管理—常在細菌の実態からみた在宅感染症にかんする研究」，研究員は，吉山直樹，矢島恭一。

【社会活動】

1. 一般講演

(1) 出前講座（看護研究交流センター事業）

- 1) 老年期のうつ状態をどのように理解するか，新潟県長岡市，2003 年 1 月 17 日。

- 2) 高齢者のうつ状態について，新潟県西山町，2003年3月4日．
- 3) 高齢者のねたきりを防止するために，新潟県大島村，2003年3月6日．
- 4) 高齢者の心と身体を観察ポイント，新潟県上越市，2003年3月10日．
- 5) 「健康日本21」策定のために，新潟県牧村，2003年3月11日．
- 6) 高齢者のうつ病―寝たきりを防ぐために，新潟県村松町，2003年10月16日．

（2）一般公開講座

- 1) こころと身体の元気な街（上越市市民大学講座），市民プラザ，2004年9月30日．
- 2) 高齢者・障害者の心身の理解，いきいき介護教室（上越市吉川区），2005年10月13日．
- 3) メタボリック・シンдрロームについて，第17回上越地域職域健診懇談会，2006年11月16日．

（3）教育講座（学校，研修会等）

- 1) 生活からみえる病気とその予防―生活習慣病予防―，新潟県村松町，2004年5月24日．
- 2) たばことお酒について，牧村立小学校（5，6年生＋父母会），2004年9月21日．
- 3) 介護保険と在宅医療，第5回上越圏地域リハビリテーション研修会，2005年3月19日．
- 4) 喫煙と健康障害―禁煙は子どもへのかけがえのない贈り物，親子のおめでとう大会（上越市吉川区），2006年2月26日．
- 5) タバコの健康障害―飲食店はどうするか，飲食店におけるタバコ対策（上越地域振興局健康福祉環境部），2006年3月7日．
- 6) 正しい食生活で得られるもの，上越市食生活改善推進員研修会，2006年3月25日．
- 7) 健康であればこそ楽しい生活，高田税務署，2006年7月23日．
- 8) 運動からの生活習慣病予防，上越市運動普及推進員研修会，2006年8月23日．
- 9) 君達はタバコなんかで死んで欲しくない，関根学園（高等学校1年生），2007年2月16日．

（4）テレビ公開講座

- 1) 中越地震に学ぶもの「こころのケア」(1)，JCV テレビ公開講座「中越地震に学ぶもの」，2005年9月22日．
- 2) 中越地震に学ぶもの「こころのケア」(2)，JCV テレビ公開講座「中越地震に学ぶもの」，2005年9月22日．
- 3) メタボリック・シンдрローム，JCV テレビ公開講座「あなたが守るあなたの健康―働き盛りの健康課題」，2006年11月1日．
- 4) 生活習慣病と歩け歩け，JCV テレビ公開講座「あなたが守るあなたの健康―働き盛りの健康課題」，2006年11月1日．
- 5) 愛する人のために禁煙を，JCV テレビ公開講座「あなたが守るあなたの健康―働き盛りの健康課題」，2006年11月8日．

（5）ラジオ有線放送

- 1) 愛の姿を語る（ドストエフスキー体験と女子学生），シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年4月．
- 2) 母，情熱の人（若き母と欠食児童），シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年5月．
- 3) 患者は誰が救うのか（ある看護師の言葉），シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年6月．

- 4) 島の人：親の愛と子の殉死，シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年7月。
- 5) 島の人：無償の愛（児童養護施設），シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年8月。
- 6) Like this old man（この老いぼれのように），シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年9月。
- 7) 島の人：私のアンコさん，シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年10月。
- 8) 島の人：天涯の孤独，シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年11月。
- 9) 島の人：覚悟の死，シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2006年12月。
- 10) 原爆で長女を喪った伯母，シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2007年1月。
- 11) どなたさんだったかいの？（私の叔母），シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2007年2月。
- 12) 女性の力が日本を再生させる，シリーズ「愛の姿を語る」，おはよう上越「随想の広場」，有線放送，（社）上越市有線放送電話協会，2007年3月。

2. 研修指導

（1）学会における研修指導

・日本プライマリ・ケア学会指導医養成講習会

ファシリテータ（タスクフォース）

第6回ワークショップ（2002年8月24日～8月25日）クロス・ウェーブ

第7回ワークショップ（2003年8月30日～8月31日）クロス・ウェーブ

第8回ワークショップ（2004年8月29日～8月30日）東京都医師会館

第9回ワークショップ（2005年10月8日～10月9日）パシフィコ横浜

第10回ワークショップ（2006年8月29日～8月30日）東京都医師会館

・プライマリ・ケア学会介護保険委員会「介護保険研修会」

①2005年3月13日（日）ワークショップ「介護保険をめぐる職種間の連携」，特別講演「介護保険制度の見直しについて」，シンポジウム「介護保険制度にのぞむもの」

②平成18年3月12日（日）基調報告「診療所を中心とした介護活動の実態—小規模多機能サービスのあり方にふれて」，基調講演「介護予防に関するマニュアルについて」，ワークショップ「介護予防の実践—地域包括支援センターをめぐる一瞥—」

・日本家庭医療学会

第18回医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー（湯沢グランドホテル，2006年8月5日～8月7日）セッション「家庭医の一日」

（2）他大学・大学院等における研修指導

a. 新潟工科大学との交換講座

1) スロー・エイジングとアンチエイジング—生活習慣のチェックからはじめよう（吉山直樹），新潟工科大学技術講座—講義編「健やかな暮らしのために」，2006年9月28日。

b. 臨床教授・非常勤講師

- 1) 東京医科歯科大学臨床教授
- 2) 「お茶の水プライマリ・ケア教育研究会」世話人：田中雄二郎教授，鈴木仁一医師（プライマリ・ケア学会理事）
- 3) 浦和大学短期大学部福祉学科非常勤講師
- 4) 上越保健医療福祉専門学校非常勤講師

（3）地域における研修指導

- 1) 上越地域医療センター病院糖尿病教室「たっしや会」
- 2) 日本医師会指定（小千谷川口町医師会主催）「地域医療のための指導医研修会」ディレクター（2005年8月14日～15日）.
- 3) 徳洲会臨床研修病院指導医講習会ディレクター
 - ①第2回徳洲会臨床研修病院指導医講習会 2004年12月4日～5日
 - ②第3回徳洲会臨床研修病院指導医講習会 2005年6月18日～19日
 - ③第4回徳洲会臨床研修病院指導医講習会 2005年12月10日～11日
 - ④第5回徳洲会臨床研修病院指導医講習会 2006年6月3日～4日
 - ⑤第6回徳洲会臨床研修病院指導医講習会 2006年12月2日～3日
- 4) 新潟県地域振興戦略事業「はたらきざかり健康障害半減運動」会長，2006年2月～2007年3月
- 5) 上越地域・働く世代の元気力UPフォーラム，2007年3月7日実施.
- 6) 庄内夏のセミナー講師
 - ①2002年度：（講演）在宅感染症
 - ②2003年度：（講演）介護の社会化と高齢者ケア
 - ③2004年度：（講演）高齢障害者の心理的コーピングスキルズ
 - ④2005年度：（講演）新潟中越地震災害ボランティア体験談
（シンポジウム）介護現場におけるコミュニケーション技法

5) 新井高等学校評議員

2005年4月より.

3. 委員会・調査会委員等

- 3) 上越地域介護認定審査会委員
- 4) 上越市食育推進会議委員
- 6) 上越市総合計画審議会委員（2003年12月まで）
- 7) 社会保険支払基金特別審査委員（2004年10月まで）厚生労働大臣表彰（2005年10月26日）
- 8) 牧村健康づくり推進協議会委員（2004年12月まで）
- 10) 日本プライマリ・ケア学会介護保険委員会委員長（2007年3月まで）
- 11) 医学雑誌「クリニカル・プラクティス」編集委員（2007年3月まで）
- 12) 農林水産省委託事業「上越の学校から始まる地域型食育推進プロジェクト」委員（2007年3月まで）
- 13) 上越地域振興局健康福祉環境部「はたらきざかり健康障害半減運動」代表者会議委員長および実務担当者ワーキング部会長（2007年3月まで）

4. 市民活動への参加等

- （1）看護研究交流センター（生涯教育・看護研修事業）の生涯教育事業への参加
一般公開講座

- 1) 介護予防は生活習慣病の治療から (2005 年), 講座「サクセスフル・エイジングへの挑戦」(2005 年 10 月 1 日～11 月 19 日)
- 2) スロー・エイジングとアンチエイジングー生活習慣病のチェックからはじめよう (2006 年), 講座「スロー・エイジングへの挑戦」(2006 年 9 月 2 日～10 月 14 日)

(2) 地域貢献活動

- ・「上越市第 5 次総合計画審議会委員」として答申案を完成した.
- ・「牧村健康づくり推進協議会委員」としては, 牧村の健康づくり推進協議会委員として同村の健康政策の策定に加わった.
- ・「上越市食育推進会議委員」としては, 新たに定めた食育条例を基にした「基本計画」に決めた目標値を達成するためアクション・プランを検討中である.
- ・「上越地域介護認定審査会委員」として, 老人の保健医療福祉全般に関与してきた.

中野正春

【研究活動】

(1) その他の論文

- ・クメンヒドロペルオキシド／ヘモグロビン・メチレンブルー法による緑茶・紅茶の抗酸化能
平成 15 年 9 月 臨床病理 51(9) 859～863
杉田収、石沢信人、中野正春、松戸隆之、岡田正彦

【社会活動】

(1) 教育講演

- ・骨折を防げば快適生活 平成 18 年 9 月 JCV 公開講座
- ・足腰丈夫に 平成 18 年 9 月 JCV 公開講座
- ・骨折を防いで快適な老後を 平成 18 年 9 月 新潟県立看護大学公開講座
- ・骨折を防いで快適な老後を 平成 18 年 10 月 新潟工科大学公開講座

(2) 県・市町村の委員会・調査会委員

- ・上越市障害区分認定審査会委員 平成 18 年 6 月～平成 19 年 3 月
- ・上越市総合教育プラン検討委員会委員 平成 18 年 6 月～平成 19 年 3 月

関谷伸一

【研究活動】

①原著論文

1. Sekiya S, Kumaki K.(2002) Sural-tibial nerve communications in humans. Anat. Sci. Int. 77:140-144
2. Arakawa T, Sekiya S, Kumaki K, Terashima T (2005) Ramification pattern of the deep branch of the lateral plantar nerve in the human foot. Ann Anat 187:287-296

3. Sekiya S, Suzuki R, Miyawaki M, Ciba S, Kumaki K (2006) Formation and distribution of the sural nerve based on nerve fascicle and nerve fiber analyses. *Anat Sci Int* 81:84-91

4. 関谷伸一, 時田幸之輔, Shyama K, Banneheka, 鈴木 了, 宮脇 誠, 千葉正司, 熊木克治(2006)腓腹神経と脛骨神経間における交通枝の再査. *解剖学雑誌*, 81(3):83-88

5. Arakawa T, Sekiya S, Kumaki K, Terashima T.(2006) Intramuscular nerve distribution pattern of the oblique and transverse heads of the adductor hallucis muscles in the human foot. *Anat Sci Int* 81:187-196

②その他の論文

1. 小林恵子, 杉田 収, 斎藤智子, 関谷伸一, 佐々木美佐子, 室岡耕次, 安田かづ子, 水戸美津子 (2002) 快適住まい環境研究会報告 第7報—住む人の QOL (生活の質) を高める住まい方とは—. *新潟県立看護短期大学紀要* 8:45-50

2. 関谷伸一 (2004) 学外者にも開かれた図書館をめざして. *新潟県立看護短期大学紀要* 9:55-57

3. 関谷伸一, 鈴木 了, 宮脇 誠, 千葉正司, 熊木克治(2005)解剖実習後の人体標本を用いた末梢神経の Sihler 染色. *解剖学雑誌*, 80 (3) :67-72

③学会発表

1. 関谷伸一 (2002) 坐骨動脈およびその他の血管異常が多発した1例. 第23回肉眼解剖学懇話会(浜松医科大学)

2. 関谷伸一, 千葉正司, 宮脇 誠, 熊木克治 (2003) 腓腹神経の構成成分とその分布領域. 第108回日本解剖学会(久留米大)

3. 荒川高光, 関谷伸一, 寺島俊雄 (2003) ヒト足の母指内転筋斜頭の形態形成—母指内転筋斜頭を貫く神経の存在—. 第38回日本理学療法学会大会

4. 荒川高光, 関谷伸一, 寺島俊雄 (2003) 外側足底神経深枝の線維解析—母指内転筋斜頭を貫いて内側足底神経と交通する例—. 第108回日本解剖学会(久留米大)

5. 荒川高光, 関谷伸一, 熊木克治, 寺島俊雄 (2004) ヒト足の外側足底神経深枝, とくに母指内転筋枝の分岐パターン. 第2回コ・メディカル形態機能学研究会(滋賀医科大)

6. Arakawa T, Sekiya S, Kumaki K, Terashima T (2004) Intramuscular nerve distribution pattern of the oblique and transverse heads of the adductor hallucis muscle in the human foot. 16th International Congress of the IFAA.

7. 関谷伸一, 時田幸之輔, Shyama, K. Banneheka, 鈴木 了, 宮脇 誠, 千葉正司, 熊木克治 (2005) 腓腹神経と脛骨神経における交通枝の再査. 第110回日本解剖学会(富山医科薬科大)

8. Sekiya S, Tokita K, Banneheka S, Fukazawa M, Suzuki R, Miyawaki M, Kumaki K (2006) Fascicle and fiber analyses of sural and tibial nerve communications. 第111回日本解剖学会(北里大学)

【研究プロジェクトによる活動】

①研究班による活動

平成14年度学長特別研究費 特別重点共同研究

研究課題: e-learning による「形態機能学」の教育と自己学習の推進

研究代表者: 関谷伸一

研究分担者: 中野正春、橋本明浩

②その他

i) 平成 14 年度 学長特別研究費 個人奨励研究

研究課題：骨間筋支配神経の解剖学的研究

ii) 特色 GP プロジェクト

特色 GP プロジェクトチーム

取組名称：生活者を核とする看護学教育プログラム

代表：関谷伸一

チームメンバー：深澤佳代子、吉山直樹、堀 良子、原 等子、酒井禎子、山田正実

【その他の活動】

新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師 「楽しく学ぶ文献検索法」2003 年度～

Ⅲ. 基礎看護学領域

中島紀恵子

【研究活動】

〈著書〉

- (1) 中島紀恵子, 井出訓, 北川公子, 湯浅美千代, 鈴木智子: 実践看護技術学習支援テキスト—老年看護学, 監修, 序文, 老年看護学総論 (第一章Ⅰ・Ⅱ), 3・13, 15・26, 2002, 日本看護協会出版会
- (2) 中島紀恵子: 看護・介護分野「デイケア～ナイトケア」, 「看護・介護の実際～痴呆患者の看護・介護 (徘徊, 問題行動)」, 長寿科学事典, 996-997, 1000-1002, 2003, 医学書院
- (3) 中島紀恵子: 最新保健学—疫学・保健統計—, 家族における健康管理 (第11章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ), 編著, 野尻雅美, 177-191, 2003, 真興交易(株)
- (4) 中島紀恵子, 中西睦子, 前原澄子, 南裕子 (編集): 「看護研究」アーカイブス全3巻, 医学書院, 2003
- (5) 中島紀恵子: 新・痴呆性高齢者の理解とケア—old culture から new culture への視点—, 痴呆性高齢者とユニットケア (第9章Ⅰ・Ⅳ), 301-307, 320-327, 2004, (株) メディカルビュー社
- (6) 本間昭, 長谷川和夫, 須具佑一, 中島紀恵子他: 認知症ケアの基礎, 第7章ケアの担い手, 99-112, 日本認知症ケア学会, ワールドプランニング, 2004, (2005, 2006, 改訂)

〈原著〉

- (1) 原等子, 中島紀恵子: 痴呆高齢者の家族介護時間の特性～家族介護主担者の時間的様相, 日本老年看護学会誌, 7(2), 70-82, 2003
- (2) 中島紀恵子: 専門分野における痴呆ケアのあり方および今後の課題～痴呆ケアと実践研究上の課題, 日本痴呆ケア学会誌, 2(1), 9-16, 2003

〈その他の論文・報告書〉

- (1) 中島紀恵子: 特集／新時代の看護, 老年看護・克服すべき課題と論点, 教育と医学, 58(2), 33-39, 2004
- (2) 中島紀恵子: 特集／グループホーム, グループホームに込められているケアの革新性, 日本痴呆ケア学会誌, 3(1), 56-63, 2004
- (3) 中島紀恵子: 高齢者ケアの質をどうマネジメントするか—老年看護 CNS の取り組みから～老年看護スペシャリストの役割拡大のためのストラテジー, 看護管理, 15(9), 732-738, 2005
- (4) 中島紀恵子: 総論高齢者看護の課題と展望～21世紀は看護の時代, 老年医学, 44(8), 1039-1043, 2006
- (5) 中島紀恵子: 認知症の新しい動きと家族支援のあり方, 公衆衛生, 70(9), 680-685, 2006
- (6) 中島紀恵子, 太田喜久子, 水谷信子, 奥野茂代: 認知症高齢者を支える職任看護職の認定教育プログラム開発とこの研修の実現を可能にするフィールド実験的検討, 日本老年看護学会誌, 第10巻2号, 103-110, 2006
- (7) 中島紀恵子: 被災者と被災地に試される感受性, 日本在宅ケア学会誌, 10(1), 5-8, 2006

〈報告書〉

- (1) 中島紀恵子, 原等子, 北川公子: 介護時間しらべ, (社) 呆け老人をかかえる家族の会委託研究報告書, 2002

- (2) 中島紀恵子, 太田喜久子, 柄澤昭秀, 北川公子, 田高悦子, 永島光枝, 馬場先淳子, 道官克一郎: 在宅痴呆性高齢者ケアに関する実態調査及びマニュアル等作成事業, (財)日本訪問看護振興財団平成14年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金事業報告書, 2003
- (3) 中島紀恵子, 唐澤千登勢: 老人性痴呆 (ぼけ) 専門の電話相談全国実態調査と開設システムの研究～第1部老人性痴呆 (ぼけ) のための電話相談・その意義と実態, (財)ぼけ予防協会報告書, 1-38, 2004
- (4) 豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態 (中間報告): 新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, 2004
- (5) 中島紀恵子, 太田喜久子, 水谷信子, 奥野茂代, 山元由美子: 痴呆性高齢者を支える現任看護職の認定教育プログラム開発とこの研修の実現を可能にするための実験的検討, 日本看護協会平成16年度看護政策立案のための基盤整備推進事業報告書 (厚労省医療関係者養成確保対策補助金), 1-172, 2005
- (6) 中島紀恵子, 齊藤智子, 籠玲子, 飯吉令枝, 唐澤千登勢, 朝倉京子, 大友康博, 北川公子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 田中キミ子, 中川泉, 中野正春, 野地有子, 橋本明浩, 平澤則子: 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康の実態 (平成15・16年度地域貢献特別支援事業), 新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, 2005

〈学会発表〉

- (1) 伊勢崎美和, 北川公子, 中島紀恵子: デイケアにおける痴呆性老人の「生活健康スケール」の検証, 日本老年看護学会第7回大会, 神奈川, 2002年11月
- (2) 上出由美子, 中島紀恵子: 入院高齢者の術後せん妄における初期予防の評価に関する一考察, 日本老年看護学会第7回大会, 神奈川, 2002年11月
- (3) 萩野悦子, 山田律子, 磯田順子, 中島紀恵子: 療養型病床群における痴呆性高齢者の睡眠・覚醒リズムの乱れと照度の関係, 日本老年看護学会第7回大会, 神奈川, 2002年11月
- (4) 原等子, 中島紀恵子: 痴呆性高齢者の家族介護時間の構造～家族介護者による介護時間調査の分析から, 日本老年看護学会第7回大会, 神奈川, 2002年11月
- (5) 唐澤千登勢, 北川公子, 中島紀恵子: 在宅痴呆高齢者の身振り表現の意味分析に関する一考察, 日本老年看護学会第8回大会, 兵庫, 2003年11月
- (6) 唐澤千登勢, 中島紀恵子, 北川公子: 在宅痴呆高齢者のニーズと“関わる”技法に関する考察～事例の身振りの意味分析より, 日本痴呆ケア学会第4回大会, 仙台, 2003年11月
- (7) 中島紀恵子 (太田喜久子氏大会長講演座長): 老年看護方法論の確立をめざして, 日本老年看護学会第7回大会, 神奈川, 2002年11月
- (8) 中島紀恵子 (一般口演座長): 「高齢者の健康と看護」グループ発表3題, 日本看護科学学会第22回大会, 東京, 2002年12月
- (9) 中島紀恵子 (一般口演座長): 「患者の体験世界」に関するテーマ5題, 日本保健医療行動科学学会第18回大会, 千葉, 2003年6月
- (10) 日本社会事業大学社会事業研究所平成15年度社会福祉研究大会特別報告 (コメンテーター): 京極高宣著作集 (全10巻) について, 東京, 2003年6月28日
- (11) 中島紀恵子 (久常節子氏大会長講演座長): 看護職の持てる力を高めるために, 日本看護管理学会第7回大会, 横浜, 2003年8月
- (12) 中島紀恵子 (南裕子氏特別講演座長): 最新の看護と保健医療政策における老年看護の課題, 日本

老年看護学会第8回大会, 兵庫, 2003年11月

- (13) 中島紀恵子 (一般口演座長): 「痴呆介護と人材育成」ポスターセッション6題, 日本痴呆ケア学会第4回大会, 仙台, 2003年11月
- (14) 中島紀恵子 (教育講演): 老年看護の課題～Cure と Care の統合～, 第35回日本看護学会, 福島, 2004年9月
- (15) 中島紀恵子 (大会長講演): グループホームに込められたケアの革新性, 第5回日本痴呆ケア学会, 新潟, 2004年9月
- (16) 中島紀恵子 (教育講演): 職業人としてのエンパワーメントの獲得と自立, 第26回全国地域保健師学術集会, 新潟, 2004年10月
- (17) 中島紀恵子 (シンポジスト): 痴呆の人を支える社会的ネットワーク, 国際アルツハイマー病協会第20回国際会議 (ADI), 京都, 2004年10月
- (18) 中島紀恵子 (ワークショップ): 痴呆ケアの質の保証のための住居改善への挑戦, 国際アルツハイマー病協会第20回国際会議 (ADI), 京都, 2004年10月
- (19) 中島紀恵子 (シンポジウム企画及び総括講演): 認知症看護と行動障害, 認知症ケア学会第3回東京国際セミナー, 東京, 2005年11月
- (20) 中島紀恵子 (大会長講演): 被災者と被災地に試される在宅ケアの感受性, 第10回在宅ケア学会, 上越, 2006年3月
- (21) 中島紀恵子 (リレー講演): 認知症ケアと環境～介護にロマンとユーモアを～, 第7回日本認知症ケア学会, 札幌, 2006年9月
- (22) 奥野茂代、中島紀恵子、太田喜久子、水谷信子: Posters, Training of Professional caregivers, 22nd conference of Alzheimer's International Berlin, Germany, 2006年10月
- (21) 中島紀恵子 (メインシンポジウム): いきいきとした地域を作る, 第65回日本公衆衛生学会, 富山, 2008年10月25日

【社会活動】

1) 教育活動

- (1) 新潟県看護協会「看護の日」記念講演: ケアの時代～看護職を育てること・育つこと, 新潟, 2002年5月16日
- (2) (財)日本訪問看護振興財団平成14年度質向上のための技術セミナー: 在宅痴呆性老人の看護, 東京, 2002年6月21日
- (3) 新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健推進分野主催公開シンポジウム基調講演「健康日本 21と地域歯科保健～雪・米・歯, よっていかんかね 板倉町」: 住民主体の健康づくり～やる気, 元気をいかに支援するか, 板倉町, 2002年7月27日
- (4) 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会特別講義: 看護実践と看護研究のつながり, 新潟, 2002年9月27日
- (5) 特定非営利活動法人ホームファミリーケア協会シニア・ピア・カウンセリング研修 2002年短期集中基礎講座: 高齢者の痴呆とその対応, 新潟, 2002年9月28日
- (6) 2002年NC S医療情報システムフェア記念講演会: 家族介護力を見直す, 新潟, 2002年10月23日
- (7) 新潟県保健所長会議講話: 看護学教育の展望と課題, 新潟, 2002年11月8日

- (8) 新潟県看護協会佐渡地区協会創立 20 周年記念講演：看護職が輝くケアの時代に向かって，佐渡，2002 年 11 月 9 日
- (9) 世界アルツハイマーデー記念講演会：介護する人へのケアが痴呆の人にもなるための作戦，仙台，2002 年 11 月 10 日
- (10) (財)日本訪問看護振興財団公開シンポジウム：痴呆性高齢者の看護職能教育を考える，東京，2003 年 3 月 15 日
- (11) 新潟県立看護大学開学 2 周年記念講演（南裕子・中島紀恵子：講演と対論）：地域に根ざした看護の発展をめざして，2003 年 7 月 26 日
- (12) 看護職員確保対策事業担当者会議講師：県立看護大学における地域看護実習（含ふれあい実習）等について，新潟，2003 年 3 月 19 日
- (13) 新潟大学大学院医薬学総合研究科第 4 回「シルバーからゴールドパワーを引き出そう」：講演「老と老の介護を楽に楽しく」，新潟，2003 年 4 月 20 日
- (14) 新潟県小規模施設看護職員実務研修（糸魚川圏域）：看護職員の倫理とは，糸魚川，2003 年 6 月 11 日
- (15) 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会特別講義：看護実践能力の充実に向けて，2003 年 8 月 18 日
- (16) 同講習会：看護論，2003 年 9 月 2 日
- (17) けいなん病院 10 周年記念特別講演：高齢者ケアの将来像，新井，2003 年 9 月 6 日
- (18) 平成 15 年度全国保健師長会新潟県支部研修会：看護研究への取り組み～日々の活動をどう研究としてまとめていくか，新潟，2003 年 9 月 20 日
- (19) 新潟県痴呆高齢者グループホーム協議会定期研修会：痴呆ケアに関わるスタッフに求められる資質，上越，2003 年 9 月 21 日
- (20) 全国老人福祉施設協議会介護チーフスキルアップ研修会：ターミナルケアの形態と方法，東京，2003 年 10 月 8 日
- (21) 上越地域医療センター病院：老年看護の基本，上越，2003 年 10 月 23 日
- (22) 老人クラブ頸中ブロック指導者研修会：75 歳になってもいきいき生きるコツと技，清里村，2003 年 11 月 17 日
- (23) 新潟県老人福祉施設協議会第 9 回新潟県老人福祉施設研究大会：痴呆ケアの質保証のための戦略，新潟，2003 年 12 月 2 日
- (24) 新潟県立看護大学看護研究交流センター生涯学習支援事業一般公開講座：サクセスフル・エイジングへの挑戦「もしもに備えて～介護が必要になったとき」，2003 年 12 月 13 日
- (25) 江戸川区医師会訪問看護ステーション研修会：痴呆ケア原論，江戸川区，2004 年 6 月 2 日
- (26) 小規模施設看護職員実務研修：看護職員の倫理とは，糸魚川，2004 年 6 月 9 日
- (27) 東頸城地区社会福祉大会：健やかに老いるために，安塚，2004 年 6 月 16 日
- (28) 第 32 回厚生連看護師総会研修会：地域に根ざした看護活動への道，愛知，2004 年 6 月 26 日
- (29) 大分県社会福祉介護研修センター：痴呆ケアの中に生かされる人権，大分，2004 年 7 月 3 日
- (30) 上越市老人福祉協会 30 周年記念講演：痴呆ケアの質と住み場としてのグループホーム，上越，2004 年 7 月 9 日
- (31) 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会特別講義：画一から自立・創造する臨床の専門家へ，2004 年 8 月 23 日

- (32) 同講習会：看護論，2004年9月2日
- (33) 小規模施設看護職員実務研修：看護職員の倫理とは，上越，2004年8月26日
- (34) 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会特別講義：看護実践能力の向上に向けて，2005年8月22日
- (35) 同講習会：認知症ケア連携体制の構築，2005年10月11日
- (36) 上越はつらつ元気塾キックオフシンポジウム：上越，2006年5月27日
- (37) 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会特別講義：看護実践能力の向上に向けて，2006年8月21日
- (38) 同講習会：老年看護の現状と展望，2006年8月28日

2) 委員会活動

- (1) 厚生労働省医療技術評価総合研究事前，中間，事後委員会評価委員：H15年4月～
- (2) 日本看護系大学協議会ファカルティ・ディプロップメント（FD）委員会委員：H15年5月～
- (3) 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定検討委員会委員：H5年10月～
- (4) 上越教育大学学校教育学部附属小学校学校評議員委員会委員
- (5) 新潟日報社読者紙面委員会委員
- (6) 上越市都市計画審議会委員
- (7) 上越市総合計画審議会委員
- (8) (社) 日本社会福祉教育学校連盟理事
- (9) (財) 日本訪問看護振興財団評議員
- (10) NPO法人北海道痴呆性高齢者グループホーム協議会顧問
- (11) (財) ぼけ予防協会評議員
- (12) (社) 認知症の人と家族の会理事
- (13) 国際アルツハイマー病協会第20回大会国際会議（京都，2004）組織委員会委員／プログラム部会副委員長

3) 主な学会活動（平成19年3月現在）

(1) 参加学会（運営への役割）

- ① 日本老年看護学会（平成7年以降理事，平成13年以降理事長及び査読委員）
- ② 日本認知症ケア学会（平成15年11月以降理事及び第5回大会長・新潟）
- ③ 日本保健医療行動科学会（昭和60年～平成6年理事，平成10年～16年理事，平成17年以降監事）
- ④ 日本老年社会科学会（平成2年以降理事）
- ⑤ 日本在宅ケア学会（平成6年～15年理事，平成16年以降評議員及び第10回学術集会会長・新潟）
- ⑥ 日本看護研究学会（平成4年～10年理事，平成16年4月以降評議員）
- ⑦ 日本公衆衛生学会
- ⑧ 日本看護科学学会（平成7年～14年評議員，平成17年以降評議員）
- ⑨ 日本看護管理学会
- ⑩ 日本災害看護学会
- ⑪ 日本老年精神医学会
- ⑫ 日本老年医学会
- ⑬ 日本家族社会学会
- ⑭ 日本家族看護学会（平成19年以降評議員）

(2) 学術集会への役割

日本痴呆ケア学会第5回大会（平成16年9月18・19日）準備委員会委員長（平成14・15年）

柿川房子

【研究活動】

1. 著書

- 1) 喉頭摘出術を受けるがん患者のための療養経過シナリオ構築；北村有子、大野ゆう子、杉山裕美、村田加奈子、東村昌代、長谷川敏彦、柿川房子、医療マネジメント学会雑誌 Vol.4 No.3,389-394、2003
- 2) ターミナルケアにおけるコミュニケーションスキル：柿川房子、山崎章郎、志真泰夫、庄司進一、高沢洋子、臼田美智子、死の臨床とコミュニケーション、人間と歴史社、2007
- 3) 死の臨床とコミュニケーション、人間と歴史社、2007 責任編集

2. 報告書

- 1) がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査結果報告書 がんと向き合った7,885人の声：山口健也、柿川房子、長谷川敏彦、大野優子、田口昇、大蔵久直、浜口恵子、大野真司他、「がんの社会学研究」報告書、平成12年度—15年度
- 2) PBL チュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究：野地有子、柿川房子、加城貴美子、吉山直樹、堀良子、直成洋子、岡村典子、長瀬亜岐、新潟県立看護大学 学長特別研究費 平成17年度研究報告、1-13
- 3) カンボジアにおけるがん患者と家族のケア状況に関する研究：柿川房子、松下由美子、酒井禎子、新潟県立看護大学 学長特別研究費 平成17年度研究報告、14-21
- 4) 専門看護師の教育に関する研究—日本および米国のCNS・NPの教育と実践から—：野地有子、柿川房子、栗生田友子、直成洋子、岡村典子、長瀬亜岐、新潟県立看護大学 学長特別研究費 平成18年度研究報告、25-32
- 5) 乳がん治療における生活障害を持つ患者に対する支援モデル開発に関する研究、がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査報告：田村恵美子、柿川房子、日本医療マネジメント学会雑誌、8-1：164、2007.7

3. 学会発表

- 1) Care Support System in changing process for Uterine cancer patients with difficulties of daily living functions after radical hysterectomy : M.Shibuya, M.Nakamura, F.Shinkai, F.Kakikawa、1st International Conference Japanese Society of Cancer Nursing Osaka Japan、2003,2
- 2) カンボジアにおけるがん告知を受けた患者の死の語り：柿川房子、松下由美子、第26回日本看護科学学会学術集会、平成18年12月
- 3) 緩和ケア施設における終末期患者の配偶者のニーズ：高橋亜矢、柿川房子、死の臨床 Vol.29 No.2、P-1-009、2006年10月
- 4) がん患者の自己決定と看護の役割：内藤みほ、柿川房子、死の臨床 Vol.29 No.2、P-3-021、2006年10月
- 5) CNS 看護教育の課題と展望—CNS10年にあたって—：野地有子、柿川房子、栗生田友子、直成洋子、岡村典子、長瀬亜岐、中村めぐみ、宇佐美しおり、聖路加看護学会誌 Vol.11 No.1 146-147、June 2007
- 6) 乳がん治療における生活障害を持つ患者に対する支援モデル開発に関する研究：田村恵美子、柿川房子、日本医療マネジメント学会雑誌、8-1：164、2007.7
- 7) Research on Caring Situations Regarding Patients with Cancer and their Families in Cambodia : Fusako Kakikawa, Second International Conference Japanese Society of Cancer Nursing,2007,2

4. 共同研究

○平成15年度

- 1) がん克服戦略 研究事業第7分野「がん患者のQOLに関する研究」がん諸対策の評価の指標と手法

に関する研究：主任研究者国立医療・病院管理研究所 長谷川敏彦、研究協力者として平成15年度まで

2) 平成13年度構成科学研究費補助金21世紀医療開拓事業・主任研究者—静岡県立静岡がんセンター総長、山口建—分担研究者「短期治療5年以内・がん生存者を中心とした心のケア、医療相談等の在り方に関する調査研究」分担研究員(平成15年まで)

3) がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査結果報告書 がんに向き合った7,885人の声 分担研究、平成12年度—15年度

○平成19年度

1) 厚生科学研究費補助金「WEB版がんよろず相談システムの構築と活用に関する研究」分担研究者

5. 学会・委員会活動

○平成15年度

1) 神戸市介護保険審査委員(平成15年3月まで)

○平成16年度

1) 日本がん看護学会理事(創立～平成16年2月まで)

○平成17年度

1) 日本看護医療学会評議員(平成17年3月まで)

○平成19年度

1) 第31回日本死の臨床研究会、事例検討11 終末期患者の意思決定を支える関わり—鎮静導入に際し意見相違が生じた家族と通して学んだこと— 座長、2007,11

2) 日本死の臨床研究会世話人(教育委員長・企画セミナー講師；平成15年まで。現在世話人、教育委員)

3) 日本看護科学学会会員・査読委員

4) 日本看護研究学会会員・評議員

5) 日本保健医療行動科学学会会員・評議員

6) 日本国際保健医療学会会員

7) 日本医事法学会会員

8) 日本緩和医療学会評議員

9) 日本医療マネジメント学会会員

10) 日本衛生学会会員

11) 新潟県 専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業 検討委員

12) 雑誌「がん看護」編集企画・査読委員(創刊～現在に至る)

【社会活動】

1. 講演・講義

○平成15年度

1) 日本赤十字北海道看護大学 大学院非常勤講師(臨床薬理看護学)

○平成16年度

1) 日本赤十字北海道看護大学 大学院非常勤講師(臨床薬理看護学)

2) Survey for the Present Situation in the Basic Education (カンボジア・JICA)

3) Nursing Education in Japan, Human Resource Development Department MINISTRY OF HEALTH, JICA Cambodia

○平成17年度

1) 群馬大学医学系研究科保健学専攻博士前期過程「小児看護学特論」特別講義 ターミナルケアと小児看護、6月

2) 新潟工科大学公開講座 がん患者と家族のコミュニケーション、9月

○平成18年度

1) 佐賀医科大学同窓会「専門職者としての看護職のあり方と展望」講義、7月

2) 新潟県立看護大学公開講座 がん患者と家族のコミュニケーション

3) 新潟工科大学公開講座 生と死を見据えて、そして生き生きとした日常に、10月

4) 生涯学習・研修支援事業公開講座 がん患者と家族のコミュニケーション

○平成 19 年度

1) ふれあいグループ看護管理者研修講義 2 日間、7 月

2) 新潟県立高田高等学校 2 年生医療看護進路対象者「日本の看護と途上国・先進国の看護」講義、7 月

3) がん看護総論 新潟県がん看護実務研修、10 月

堀 良子

【研究活動】

①その他の論文及び調査報告

堀良子 (2002) : 気道感染予防の観点から見た口腔ケアの研究, 日本感染看護学会誌, (1)1, 14-24.

堀良子, 山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子 (2003) : ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発, 新潟県立看護大学平成 14 年度学長特別研究費研究報告書, 13-4.

堀良子 (2002) : 病原微生物の侵入経路と感染の成立, 月刊ナーシング, (22)12, 32-35.

堀良子 (2002) : 感染防止における看護師の役割, 月刊ナーシング, (22)12, 36-39.

堀良子 (2002) : 基本的衛生と環境の清潔, 月刊ナーシング, 12, 46-52.

堀良子 (2002) : 気道感染防止の基礎, 月刊ナーシング (22)12, 54-61.

堀良子 (2002) : 意識障害患者, 経管栄養患者の気道感染防止ケア, 月刊ナーシング, (22)12, 62-67.

堀良子 (2003) : ワークブック基礎看護技術-口腔ケア-, クリニカルスタディ, (24)6, 70-71.

堀良子 (2003) : ワークブック基礎看護技術-包帯法-, クリニカルスタディ, (24)6, 88-89.

堀良子 (2003) : 他者による口腔ケアの必要な入院患者の口腔ケアの改善に関する研究-口腔衛生関連要因と口腔健康状態との関連-, 新潟県立看護大学平成 14 年度学長特別研究費研究報告書, 55-58.

堀良子, 山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子 (2003) : 医療管理を要する訪問看護事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育研修ニーズ, 新潟県立看護大学平成 14 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 71-74.

堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 籠玲子 (2004.) : ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発, 新潟県立看護大学平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 14-21.

堀良子 (2004) : 他者によるケアが必要な患者の気道感染予防を意図した口腔衛生状態の改善に関する研究, 新潟県立看護大学平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 88-94.

堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子 (2004) : 安全性・適切性の観点からの訪問看護における看護技術の現状と課題, 新潟県立看護大学平成 15 年度看護研究交流センター事業/活動・研究報告書, 81-7.

堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子 (2005) : 基礎看護技術教育における自作学習支援教材の導入効果, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 14-19.

堀良子 (2005) : 他者によるケアが必要な患者の気道感染予防を意図した口腔衛生状態の改善, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 51-56.

堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子, 中川恵子 (2006) : コンピュータを利用した訪問看護における看護技術学習支援教材の開発, 新潟県立看護大学平成 17 年度看護研究交流センター年報, 31-5.

山田恵子, 波塚ひろ子, 堀良子 (2007) : 胃瘻造設患者における半固形化栄養剤の効果, 第 37 回日本看護学会論文集—老年看護—, 26-28.

野地有子, 加城貴美子, 加藤光寶, 田中キミ子, 富川孝子, 佐々木美佐子, 加固正子, 深澤佳代子, 吉山直樹, 関谷伸一, 堀良子, 井上みゆき, 岡村典子 (2005) : 看護領域別演習科目における PBL チュートリアル導入の効果と課題, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 1-13.

野地有子, 柿川房子, 加城貴美子, 吉山直樹, 堀良子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐 (2006) : PBL チュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究, 新潟県立看護大学平成 17 年度学長特別研究費研究報告書, 1-13.

②学会発表

堀良子 (2003. 9) : 他者による口腔ケアの必要な入院患者の口腔内の健康状態評価, 日本看護技術学会第 2 回学術集会.

堀良子 (2003. 11) : 介助の必要なケア対象者の口腔ケアに関する看護職者の認識, 新潟県看護協会平成 15 年度看護研究学会集録, 207-210.

籠玲子, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子 (2003. 11) : 医療管理を要する訪問事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育ニーズ, 新潟県看護協会平成 15 年度看護研究学会発表収録, 13-16.

堀良子 (2003. 12) : 介助の必要な患者の口腔ケアに対する看護職者の認識, 第 23 回日本看護科学学会.

堀良子 (2004. 1) : 入院患者の口腔衛生状態影響要因および口腔健康状態と病因菌保有状況との関連, 第 4 回日本感染看護学会学術集会.

堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子 (2004. 10) : 看護技術教育におけるマルチメディア CAI 教材の作成と活用, 第 3 回日本看護技術学会学術集会.

松下由美子, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 籠玲子 (2005. 5) : Competence skills and education needed by visiting in Japan, ICN 23rd Quadrennial Congress 2005(Taipei).

霜垣美由紀, 山崎美幸, 坂井洋子, 松山睦子, 堀良子 (2006. 1) : 被覆なしの術後ドレーン挿入中におけるシャワー浴の試み—感染が起きないことの評価—, 第 6 回日本感染看護学会学術集会.

堀良子 (2006. 1) : 他者によるケアが必要な患者の気道感染予防を意図した口腔衛生状態の改善, 第 6 回日本感染看護学会学術集会.

堀良子, 高崎晴子, 松本喜代子 (2006. 2) : 口腔内に病因菌を保有する患者の口腔ケアによる衛生状態の改善, 第 21 回日本環境感染学会学術集会.

山田恵子, 波塚ひろ子, 堀良子 (2006. 9) : 胃瘻造設患者における半固形化栄養剤の効果—市販のテルミール®ソフトを使用して—, 第 37 回日本看護学会—老年看護—.

水口陽子, 松下由美子, 籠玲子, 岡村典子, 堀良子 (2005. 1) : 訪問看護における看護技術の現状と課題—安全性と適切性の観点からの検討—, 第 9 回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 42-43.

水口陽子, 岡村典子, 松下由美子, 籠玲子, 堀良子 (2005. 7) : 基礎看護学実習におけるコミュニケーションに関する学習内容—グループ学習の学びの検討—, 第 31 回日本看護研究学会学術集会, 日本看護研究学会雑誌, 28(3), 119.

岡村典子, 堀良子 (2004. 12) : 看護系大学における基礎看護技術修得に向けた教育に関する検討, 第 24 回日本看護科学学会学術集会.

③一般講演

堀良子 (2002. 8) : 神経難病におけるリハビリテーションと心理的サポート技術全国研修会 講演「神経

難病における口腔ケアと感染コントロール」国立療養所犀潟病院。

堀良子 (2002. 11) : 「感染症とその予防」, 兵庫県立明石養護学校。

堀良子 (2003. 5) : 「臨床における看護研究」, 新潟県立十日町病院。

堀良子 (2003. 6) : 「感染予防と衛生ケア」, 看護研究交流センター出前講座 上越市こども福祉課。

堀良子 (2006. 5) : 「研究計画の立て方と研究方法」, 新潟県立加茂病院。

【社会活動】

堀良子 (2003. 4・9) : 新潟県看護協会訪問看護師養成講習会 講師「看護過程」6 時間。

「感染看護」3 時間。

堀良子 (2003. 8・9) : 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講師「看護過程」12 時間。

「実習指導の実践1 基礎看護学」6 時間。

堀良子 (2003. 8-10) : 日本看護科学学会 用語検討委員会 ワーキンググループ。

堀良子 (2004. 4-9) : 新潟県看護協会訪問看護師養成講習会 講師「看護過程」6 時間。

「感染看護」3 時間。

堀良子 (2004. 9, 2005. 9, 2006. 9) : 新潟県看護協会訪問看護師養成講習会 講師「在宅における感染予防とその看護」5 時間。

堀良子 (2004. 4-2006. 3, 2006. 4-) 上越市 上越休日急患診療所運営委員会委員

堀良子 (2006. 9-) : 日本看護協会 専門看護師認定実行委員会<感染看護>委員

堀良子 (2006. 10-) : 日本看護協会 専門看護師認定委員会委員

【研究プロジェクトによる活動】

①研究班による活動

野地有子, 加城貴美子, 加藤光實, 田中キミ子, 富川孝子, 佐々木美佐子, 加固正子, 深澤佳代子, 吉山直樹, 関谷伸一, 堀良子, 井上みゆき, 岡村典子 (2005) : 看護領域別演習科目における PBL チュートリアル導入の効果と課題, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 1-13.

野地有子, 柿川房子, 加城貴美子, 吉山直樹, 堀良子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐 (2006) : PBL チュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究, 新潟県立看護大学平成 17 年度学長特別研究費研究報告書, 1-13.

②研究指導

堀良子 (2002-2006) : 新潟県立柿崎病院 看護研究指導および発表会講評。

堀良子 (2004-2006) : 新潟県立十日町病院 看護研究指導および発表会講評。

堀良子 (2005-2006) : 新潟県立加茂病院 看護研究指導および発表会講評。

朝倉京子

【研究活動】

1. 著書

朝倉京子 (2003) : 保健医療領域におけるセクシュアリティ概念について, 根村直美編, ジェンダーで読む健康/セクシュアリティ; 健康とジェンダーⅡ, 17-35, 明石書店。

- 朝倉京子 (2004) : アイダ・ジーン・オーランド, 黒田裕子編, やさしく学ぶ看護理論, 101-117, 日総研.
- 朝倉京子 (2005) : 看護学におけるジェンダー／フェミニスト・パースペクティブ ; ケア／ケアリング理論と差異のフェミニズム, 根村直美編, ジェンダーと交差する健康／身体 ; 健康とジェンダーⅢ, 23-47, 明石書店
- 朝倉京子 (2007) : 看護師の自律性と意思決定 ; 主体と尊厳の観点から、ケア提供に関わる知の再構築に向けて, 根村直美編, 健康とジェンダーⅣ, 45-65, 明石書店.
- ## 2. 原著論文
- 朝倉京子 (2002) : セクシュアリティに対する態度尺度の開発に関する研究, 日本保健医療行動科学会年報, 17, 85-113.
- 朝倉京子 (2003) : 看護職者のセクシュアリティに対する態度に影響を与える要因, 看護研究, 36(2), 71-78.
- 朝倉京子 (2004) : 看護学領域におけるセクシュアリティ概念, *Frontiers of Gender Studies*, 1, 228-232.
- Takashi Asakura, Alice Murata, Walter Kawamoto, Kazuhiro Nakayama, Kyoko Asakura. (2004) : Socioeconomic Status, Acculturation, Discrimination, and Health of Japanese Americans: Generational Differences. The 2004 proceedings of Hawaii International Conference on Social Science., 3584-3608.
- 川原由佳里・佐々木幾美・谷津裕子・吉田みつ子・濱田悦子・朝倉京子 (2004) : 第87回から第92回の看護師国家試験問題の分析, 看護教育, 45(10), 886-892.
- 吉田みつ子・谷津裕子・川原由佳里・佐々木幾美・濱田悦子・朝倉京子 (2004) : 多肢選択式問題作成マニュアルの開発, 看護教育, 45(12), 1124-1129.
- 朝倉京子・佐々木幾美・川原由佳里・谷津裕子・吉田みつ子・濱田悦子 (2004) : 多肢選択式問題作成マニュアルに基づく問題作成の妥当性の検討, 看護教育, 46(1)号, 77-83.
- 佐々木幾美・朝倉京子・吉田みつ子・谷津裕子・川原由佳里・濱田悦子 (2005) : 看護師資格試験のプール制導入に関する課題, 看護教育, 46(2), 162-166.
- 朝倉京子 (2005) : ジェンダーの視点から読み解くケア／ケアリング概念 ; 差異のフェミニズムの功罪と看護学を変革する可能性の模索, 看護学雑誌, 69 (11), 1120-1125.
- 朝倉京子・朝倉隆司・兵藤智佳 (2007) : フィリピン人看護師の国際移動を支える社会システムの現状と日本進出の可能性 ; フィリピンの主要関係機関へのヒアリング調査から, 看護管理, 17(2), 172-177.
- Hisashi Fujita., Kyoko Asakura. (2007) : Care for Bone Fractures during the Jomon Period: Speculations from the Pathological States of Fractures, *The Japanese Journal of Health Behavioral Science*, 22, 96-105.
- Kyoko Asakura (2007) : Conservative Attitudes toward Nursing Professionalism in Japan, *The Japanese Journal of Health Behavioral Science*, 22, 106-120.
- 朝倉京子 (2007) : 日本の看護現場の現状と課題, クレリエール, 381, 1-4.
- Hisashi Fujita., Kyoko Asakura., Masayuki Ogura. (2007) : Age- and Sex-related Dental Caries Prevalence in Japanese from the Jomon Period, *Journal of Oral Biosciences*, 49(3), 198-204.
- ## 3. その他の論文及び調査報告
- 朝倉京子 (2003) : 看護学におけるフェミニスト・アプローチに関する文献研究, 新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書, 53-54.
- 濱田悦子・朝倉京子・川原由佳里・佐々木幾美・樋口康子・谷津裕子・吉田みつ子 (2003) : 看護師資格

試験における良質な問題の作成システム及びプール制導入に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業平成 14 年度総括報告書.

朝倉隆司・中山和弘・朝倉京子・園田恭一 (2004) : 日本, ブラジル, 米国における日系移民の異文化適応問題と精神健康の医療社会学的研究, 平成 12 年度～平成 15 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1) 研究報告書.

濱田悦子・朝倉京子・川原由佳里・佐々木幾美・樋口康子・谷津裕子・吉田みつ子 (2004) : 看護師資格試験における良質な問題の作成システム及びプール制度導入に関する研究, 平成 14 年度～15 年度 厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業 総括研究報告書.

中島紀恵子・野地有子・朝倉京子・飯吉令枝・大友康博・籠玲子・唐澤千登勢・北川公子・小林恵子・佐々木美佐子・田中キミ子・中川泉・中野正春・橋本明浩・平澤則子 (2004) : 豪雪地に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態, 平成 15 年度看護研究交流センター事業 研究報告書.

朝倉京子 (2005) : 性別秩序改編に向けた男女共同参画社会に向けて, 上越市男女共同参画の取り組み, 99-107.

野地有子・朝倉京子・飯吉令枝・中島紀恵子 (2005) : 農村地域における中高年女性の健康課題の分析とまちの保健室開設に向けたアクションリサーチ, 平成 16 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 1-10.

朝倉京子・中川泉 (2005) : 新潟県中越地震における県立看護大学の取り組み, 看護教育, 46(1), 44-47.

朝倉京子 (2007) : 看護師不足; 数合わせでは解決しない, 朝日新聞朝刊全国版; 私の視点 (2007 年 1 月 13 日)

Kyoko Asakura (2007) : Work conditions the cause of nurse shortage. Herald Tribune Asahi Shinbun (Point of View), 2/9/2007.

朝倉京子 (2007) : 看護師不足; 数合わせでは解決しない, 月刊医療情報, 21(3), 13. (2007 年 1 月 13 日掲載の朝日新聞の記事が、朝日新聞社の許可を得て転載された)

4. 学会発表

朝倉京子 (2002) : 看護職者のセクシュアリティに対する態度と共感的態度に関する研究, 日本保健医療行動科学会第 17 回学術大会.

朝倉隆司・中山和弘・朝倉京子 (2003) : ブラジル・ノルデステ地方における日系ブラジル人の生活習慣と健康, 日本公衆衛生学会第 62 回総会.

朝倉京子 (2003) : 看護学領域におけるセクシュアリティ概念, お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム プロジェクト C ワークショップ.

朝倉京子 (2004) : 看護学のエンジェンダリング (engendering) に向けた一試論; 看護学におけるジェンダー/フェミニスト・パースペクティブの分析から, 日本保健医療社会学会第 30 回大会.

Takashi Asakura, Alice Murata, Walter Kawamoto, Kazuhiro Nakayama, Kyoko Asakura.(2004) : Socioeconomic status, acculturation, discrimination, and health of Japanese Americans: Generational differences. 3rd Annual International conference on Social Science.

Kyoko Asakura, Aiko Noji, Yoshie Iiyoshi. (2004) : The nursing guidance clinic in Joetsu City in Japan: Toward action research. Japan Academy of Nursing Science, Fifth International Nursing Research Conference.

朝倉京子・野地有子・飯吉令枝 (2004) : 成人女性の主観的健康状態、更年期症状、DV 体験と QOL との関係, 第 63 回日本公衆衛生学会総会.

- 朝倉京子・佐々木幾美・谷津裕子・川原由佳里・吉田みつ子・濱田悦子・樋口康子 (2004) : 看護師資格試験のための公募用多肢選択式問題作成マニュアルの開発と評価, 第 24 回日本看護科学学会学術集会.
- 飯吉令枝・野地有子・朝倉京子・中島紀恵子 (2004) : 成人女性のセルフケアと QOL, 第 24 回日本看護科学学会学術集会.
- 野地有子・飯吉令枝・朝倉京子・中島紀恵子 (2004) : 女性の健康づくりを支援するまちの保健室のフィジビリティの検討, 第 24 回日本看護科学学会学術集会.
- 朝倉京子 (2005) : 看護職者の専門職化志向とジェンダー・バイアスに関する基礎的研究, 第 31 回日本保健医療社会学会大会.
- 朝倉隆司・中山和弘・朝倉京子 (2005) : エスニックマイノリティにおけるライフチャンス、差別と健康, 第 31 回日本保健医療社会学会大会.
- 籠玲子・朝倉京子 (2005) : 病院に勤務する看護職者の役割の認知に関する研究, 第 31 回日本看護研究学会学術集会.
- 朝倉京子 (2005) : 看護職者の自律性及び性差観と看護の専門職化に対する伝統的態度, 第 25 回日本看護科学学会学術集会.
- Takashi Asakura, Alice Murata, Walter Kawamoto, Kyoko Asakura, Kazuhiro Nakayama. (2006) : Work stress, discrimination and health among Japanese American, The Sixth International Conference on Occupational Stress and Health.
- 朝倉京子・朝倉隆司・兵藤智佳 (2006) : 看護師の国際移動 ; フィリピンにおける基礎調査から, 第 21 回日本保健医療行動科学学会学術大会.
- Takashi Asakura, Alice Murata, Walter Kawamoto, Kyoko Asakura. (2006) : Perceived ethnic discrimination in everyday life, perceived life changes, and health in the two Japanese immigrant groups, XVI World Congress of Sociology.
- 朝倉京子 (2006) : 「シンポジウム ; ケア労働とグローバリゼーション」指定討論者、国際ジェンダー学会 2006 年大会.
- 朝倉京子 (2007) : 看護師の主体性に関する理論的研究 ; 自律性研究の分析から, 第 33 回日本保健医療社会学会大会.
- 藤田尚・朝倉京子・小椋正之・平野浩彦 (2007) : 縄文時代人の齲歯率の加齢変化, 第 18 回日本老年歯科医学会学術大会.
- 朝倉京子 (2007) : ケア提供者の専門職性 ; 看護師を事例としたジェンダー・パースペクティブからの分析, 日本保健医療社会学会看護研究部会公開企画.
- Hisashi Fujita, Kyoko Asakura, Masayuki Ogura. (2007) : Sex and Age distribution of dental caries in the Neolithic Jomon period in Japan. The 39th conference of the Asia-Pacific Academic consortium for Public Health.
- 朝倉京子・藤田尚 (2007) : 男性看護職の生存方略 ; 過疎化農村地域の医療現場におけるジェンダー・マイノリティ, 第 27 回日本看護科学学会学術大会.
5. 一般講演・講義
- 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科 看護行政論講義 (2002 年 6 月)
- 平成 14 年度小規模施設看護職員実務研修講義 看護職員の倫理 (3 時間 30 分) (2002 年 11 月 17 日)
- 新潟県立看護大学 看護研究交流センター生涯学習支援 事業 男女共同参画社会と看護専門職 (2 時間)

30 分) (2003 年 1 月 25 日)

新潟県立看護大学 看護研究交流センター生涯学習支援事業 看護の原理とジェンダー (1 時間 30 分)
(2003 年 7 月 12 日)

新潟県立看護大学 看護研究交流センター専門講座 看護研究の基礎知識 (6 時間) (2003 年 7 月 7 日)
平成 15 年度看護職員臨地実習指導者養成講習会 看護の概念 (5 時間)、看護論 (2 時間 30 分) (2003 年
10 月 11 日)

新潟県立看護大学看護研究交流センター専門講座講義 (看護研究の基礎研究 6 時間) (2004 年 7 月 11
日)

新潟県立看護大学看護研究交流センター専門講座講義 (研究論文の書き方 1 時間 30 分) (2004 年 9 月 4
日)

平成 16 年度看護職員臨地実習指導者養成講習会 (看護の概念 5 時間) (2004 年 9 月 7 日)

平成 16 年度看護職員臨地実習指導者養成講習会 (看護論 2 時間 30 分) (2004 年 9 月 14 日)

新潟県立糸魚川高校模擬授業 (大学で看護学を学ぶ意義 2 時間) (2005 年 2 月 16 日)

新潟県看護協会三条地区看護研究発表会講師 (研究発表の講評と研究方法に関する講義 3 時間) (2005
年 3 月 5 日)

新潟県立看護大学看護学部 4 学年看護研究講義 (研究デザインの選択 4 時間) (2006 年 4 月 20 日)

新潟県立看護大学看護学部 4 学年看護研究講義 (データ収集方法、データの信頼性・妥当性、論文の書き
方 6 時間) (2006 年 5 月 9 日)

6. その他の発表

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター「健康とジェンダー」研究プロジェクト及び、お茶の水女子
大学 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」C-6 班等での研究発表多数

7. その他の研究活動

(1) 学会活動

日本看護科学学会

日本保健医療行動科学学会

日本保健医療行動科学学会理事 (平成 19 年～)

日本保健医療社会学会

日本赤十字看護学会

日本赤十字看護学会専任査読委員 (平成 16 年～)

看護学教育学会

日本公衆衛生学会

日本看護研究学会

国際ジェンダー学会

国際ジェンダー学会学術大会実行委員 (平成 18 年)

在宅ケア学会学術大会企画委員 (平成 17 年)

日本老年歯科医学会

(2) 研究活動における受賞歴

平成 18 年 6 月 日本保健医療行動科学学会中川記念奨励賞

(3) 外部資金の獲得状況

朝倉京子：我が国の看護学領域に対するジェンダー分析と、それに基づく看護科学試論の作成、若手研究

(B)、平成15年度～17年度(文部科学省科学研究費研究助成課題)

【研究プロジェクトによる活動】

1. 研究プロジェクト

日本、ブラジル、米国における日系移民の異文化適応問題と精神健康の医療社会学的研究(2002年4月～2004年3月);平成12年度～15年度 科学研究費補助金基盤研究(B)(1) 主任研究者 朝倉隆司

看護師資格試験における良質な問題の作成システム及びプール制導入に関する研究(2002年4月～2004年3月);平成14年度～15年度 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業 主任研究者 濱田悦子

更年期女性の健康課題の分析と看護プログラムの開発(2003年6月～2004年3月);科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 主任研究者 野地有子

「多様なセクシュアリティ」に関する研究(2003年4月～現在に至る);お茶の水女子大学21世紀COEプログラム ジェンダー研究のフロンティア C-6班 主任研究者 根村直美

「ジェンダーで読む健康/セクシュアリティ」研究(2002年4月～現在に至る);お茶の水女子大学ジェンダー研究センター 研究プロジェクト 主任研究者 根村直美

豪雪地帯における高齢者の居宅での保健医療福祉サービスの効果的提供(2003年9月～2005年3月);平成15年度看護研究交流センター事業 主任研究者 中島紀恵子

2. 共同研究員活動

平成14年4月～現在 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員

平成18年5月～現在 東京大学大学院理学系研究科客員共同研究員

【地域貢献及び社会的活動】

平成16年4月～17年3月 上越市男女共同参画基本計画見直し策定検討委員会委員

平成16年6月～現在 厚生労働省保健師助産師看護師国家試験委員

平成17年4月～現在 上越市男女共同参画審議会委員

平成18年8月～19年3月 日本看護協会看護師臨床研修必修化推進検討委員会委員

平成19年4月～現在 日本看護協会業務委員会委員

水口陽子

【研究活動】

①その他の論文及び調査報告

堀良子, 山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子(2003): ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発, 新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書, 13-4.

堀良子, 山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子(2003): 医療管理を要する訪問看護事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育研修ニーズ, 新潟県立看護大学平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 71-74.

水口陽子(2003): ワークブック基礎看護技術-褥創予防・ケア-, クリニカルスタディ, 24(6), 86-87.

水口陽子(2003): ワークブック基礎看護技術-吸入-, クリニカルスタディ, 24(6), 94-95.

- 薄井坦子, 嘉手苺英子, 山本利江, 山岸仁美, 水口陽子他(2004):Module 方式による看護方法実習書(改訂第3版), 現代社, 東京.
- 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 籠玲子(2004.):ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発, 新潟県立看護大学平成15年度学長特別研究費研究報告書, 14-21.
- 堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子(2004):安全性・適切性の観点からの訪問看護における看護技術の現状と課題, 新潟県立看護大学平成15年度看護研究交流センター事業/活動・研究報告書, 81-7.
- 堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子(2005):基礎看護技術教育における自作学習支援教材の導入効果, 新潟県立看護大学平成16年度学長特別研究費研究報告書, 14-19.
- 堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子, 中川恵子(2006):コンピュータを利用した訪問看護における看護技術学習支援教材の開発, 新潟県立看護大学平成17年度看護研究交流センター年報, 31-5.
- 水口陽子(2003):日本における看護学実習に関する研究の現状分析—グループを対象とする教授活動に関する文献の検討—, 新潟県立看護大学平成14年度学長特別研究費研究報告書, 59-60.
- 水口陽子(2004):看護学実習グループの人間関係に関する文献研究, 新潟県立看護短期大学紀要, 9, 3-11.
- 水口陽子(2005):日本における看護学実習に関する文献の研究の現状—グループを対象とする教授活動に関する文献の検討—, 日本医学看護学教育学会誌, 14号, 36-43.

②学会発表

- 籠玲子, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子(2003.11):医療管理を要する訪問事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育ニーズ, 新潟県看護協会平成15年度看護研究学会発表収録, 13-16.
- 堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子(2004.10):看護技術教育におけるマルチメディア CAI教材の作成と活用, 第3回日本看護技術学会学術集会.
- 松下由美子, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 籠玲子(2005.5):Competence skills and education needed by visiting in Japan, ICN 23rd Quadrennial Congress 2005(Taipei).
- 水口陽子(2004.3):看護学実習に関する研究の現状—グループを対象とする教授活動に関する文献の検討—, 第14回日本医学看護学教育学会誌学会抄録集, 44.
- 水口陽子(2004.7):看護学実習グループの人間関係に関する研究の現状分析, 第30回日本看護研究学会雑誌, 27(3), 209.
- 水口陽子, 松下由美子, 籠玲子, 岡村典子, 堀良子(2005.1):訪問看護における看護技術の現状と課題—安全性と適切性の観点からの検討—, 第9回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 42-43.
- 水口陽子, 岡村典子, 松下由美子, 籠玲子, 堀良子(2005.7):基礎看護学実習におけるコミュニケーションに関する学習内容—グループ学習の学びの検討—, 第31回日本看護研究学会学術集会, 日本看護研究学会雑誌, 28(3), 119.
- 水口陽子(2005.11):わが国のフィジカルアセスメントに関する研究の文献的検討, 第4回日本看護技術学会学術集会.
- 水口陽子(2006.10):『看護覚え書』‘ベッドと寝具類’に関する分析—体験を通じた検討の試み—, ナイチンゲール研究学会第27回研究懇談会.

【社会活動】

水口陽子 (2003. 8) : 新潟県立看護大学 看護研究交流センター 一般公開講座 講師「ナイチンゲールの看護観と女性」.

水口陽子 (2004. 8) : 新潟県立看護大学 看護研究交流センター 一般公開講座 講師「ナイチンゲールの時代と女性」

水口陽子(2005. 4-2006. 3) 第10回日本在宅ケア学会学術集会・企画運営委員

【研究プロジェクトによる活動】

①研究指導

水口陽子(2005) : 独立行政法人国立病院機構新潟病院 看護研究指導および発表会講評

岡村典子

【研究活動】

①原著

熊谷一宏, 飯田俊穂, 谷口由紀, 西澤優子, 岡村典子 (2006) : 看護研修の効果の検討, 相澤病院雑誌, 4, 23-5.

②その他の論文及び調査報告

堀良子, 山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子 (2003) : ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発, 新潟県立看護大学平成 14 年度学長特別研究費研究報告書, 13-4.

堀良子, 山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子 (2003) : 医療管理を要する訪問看護事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育研修ニーズ, 新潟県立看護大学平成 14 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 71-74.

堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 籠玲子 (2004.) : ドレイファスモデルを枠組みとした看護技術教育の構築と学習支援システムの開発, 新潟県立看護大学平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 14-21.

岡村典子 (2003) : ワークブック基礎看護技術-睡眠・休息・安静-, クリニカルスタディ, (24)6, 58-59.

岡村典子 (2005) : 患者さんのみかた “たばこをやめようとしなない患者さんの看護”, クリニカルスタディ, 26 (7) , 6-12.

岡村典子, 高橋玲子, 相澤由美子, 他 5 名 (2006) : リーダーシップ研修 “演習を活用した柔軟性のある研修への取り組み”, 看護実践の科学, 31 (10) , 75-80.

堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子 (2004) : 安全性・適切性の観点からの訪問看護における看護技術の現状と課題, 新潟県立看護大学平成 15 年度看護研究交流センター事業／活動・研究報告書, 81-7.

堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子 (2005) : 基礎看護技術教育における自作学習支援教材の導入効果, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 14-19.

堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子, 中川恵子 (2006) : コンピュータを利用した訪問看護における看護技術学習支援教材の開発, 新潟県立看護大学平成 17 年度看護研究交流センター年

報, 31-5.

- 岡村典子, 大久保明子, 阿部正子, 金井幸子, 柏木夕香, 酒井禎子 (2004) : 看護を基盤においた「いのち」に関する諸問題の学際的な一考察, 新潟県立看護大学平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 22-7.
- 岡村典子 (2004) : 看護系大学における基礎看護技術修得に向けた教育に関する検討, 新潟県立看護大学平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 95-102.
- 野地有子, 加城貴美子, 加藤光實, 田中キミ子, 富川孝子, 佐々木美佐子, 加固正子, 深澤佳代子, 吉山直樹, 関谷伸一, 堀良子, 井上みゆき, 岡村典子 (2005) : 看護領域別演習科目における PBL チュートリアル導入の効果と課題, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 1-13.
- 酒井禎子, 大久保明子, 阿部正子, 岡村典子, 戸田幸子 (2005) : 看護職が認識しているスピリチュアリティに関する研究, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 20-7.
- 岡村典子 (2005) : 看護学分野におけるコミュニケーションに関する研究の現状, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 57-64.
- 野地有子, 柿川房子, 加城貴美子, 吉山直樹, 堀良子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐 (2006) : PBL チュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究, 新潟県立看護大学平成 17 年度学長特別研究費研究報告書, 1-13.

③学会発表

- 籠玲子, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子 (2003. 11) : 医療管理を要する訪問事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育ニーズ, 新潟県看護協会平成 15 年度看護研究学会発表収録, 13-16.
- 堀良子, 水口陽子, 松下由美子, 岡村典子, 籠玲子 (2004. 10) : 看護技術教育におけるマルチメディア CAI 教材の作成と活用, 第 3 回日本看護技術学会学術集会.
- 松下由美子, 堀良子, 水口陽子, 岡村典子, 籠玲子 (2005. 5) : Competence skills and education needed by visiting in Japan, ICN 23rd Quadrennial Congress 2005(Taipei).
- 水口陽子, 松下由美子, 籠玲子, 岡村典子, 堀良子 (2005. 1) : 訪問看護における看護技術の現状と課題—安全性と適切性の観点からの検討—, 第 9 回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 42-43.
- 水口陽子, 岡村典子, 松下由美子, 籠玲子, 堀良子 (2005. 7) : 基礎看護学実習におけるコミュニケーションに関する学習内容—グループ学習の学びの検討—, 第 31 回日本看護研究学会学術集会, 日本看護研究学会雑誌, 28(3), 119.
- 岡村典子 (2002. 8) : 自主シンポジウム「こどもの心身症を考える (2)」指定討論者, 第 35 回日本カウンセリング学会.
- 岡村典子 (2003. 11) : 自主シンポジウム「こどもの心身症を考える (3)」シンポジスト, 第 36 回日本カウンセリング学会.
- 岡村典子 (2003. 12) : 看護職養成課程の変遷—教員養成課程との比較を中心に—, 第 23 回日本看護科学学会学術集会.
- 岡村典子 (2004. 9) : 自主シンポジウム「こどもの心身症を考える (4)」, シンポジスト, 第 37 回日本カウンセリング学会.
- 柴田陽子, 山川悦子, 相馬友紀, 丸田伸彦, 岡村典子 (2004. 11) : 救命センター看護師のストレス軽減への取り組み, 平成 16 年度看護研究学会 新潟県看護協会.
- 岡村典子, 堀良子 (2004. 12) : 看護系大学における基礎看護技術修得に向けた教育に関する検討, 第 24 回日本看護科学学会学術集会.
- 岡村典子 (2005. 8) : 自主シンポジウム「こどもの心身症を考える (5)」, 指定討論者, 第 38 回日本カウ

ンセリング学会.

熊谷一宏, 飯田俊穂, 谷口由紀, 西澤優子, 岡村典子 (2005. 8) : 看護研修の効果の検討, 第 38 回日本カウンセリング学会.

岡村典子 (2005. 11) : 看護基礎教育におけるコミュニケーションに関する研究の現状, 第 25 回日本看護科学学会.

大久保明子, 岡村典子, 酒井禎子, 阿部正子, (2005. 11) : 日本の看護職のスピリチュアリティに関する認識(1)ー「スピリチュアリティ」に対する知識とイメージに焦点をあててー, 第 25 回日本看護科学学会.

酒井禎子, 大久保明子, 岡村典子, 阿部正子, (2005. 11) : 日本の看護職のスピリチュアリティに関する認識(2)ースピリチュアリティを考えた体験に焦点をあててー, 第 25 回日本看護科学学会.

野地有子, 栗生田友子, 柿川房子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐 (2006. 9) : 交流集会「CNS 看護教育の課題と展望ーCNS10 年にあたってー」, 第 11 回聖路加看護学会学術集会.

岡村典子, 宮本真巳 (2006. 12) : 臨床看護師における「Emotional Literacy」の現状と課題, 第 26 回日本看護科学学会.

【社会活動】

岡村典子 (2002. 4-2004. 12) : (財)全国農村保健研修センター 実践に役立つカウンセリング研修会 講師.

岡村典子 (2003. 4-2004. 12) 特定非営利活動法人 長野県臨床心理カウンセリング研修センター 講師・認定ファシリテーター

岡村典子 (2003. 4-2006. 5) : 特定非営利活動法人 長野県臨床心理カウンセリング研修センター理事.

岡村典子 (2004. 2, 2005. 2, 2006. 2, 2007. 2) : 新潟県立中央病院看護部「プリセプター研修」講師.

岡村典子 (2004. 5・6・11・12, 2005. 1・2・6・10・11) : 特定医療法人慈泉会相澤病院「コミュニケーション研修」講師

岡村典子 (2004. 6・7・11, 2005. 6・7・9・12, 2006. 6・7・9・11) : 新潟県立中央病院看護部「リーダーシップ研修」講師

岡村典子 (2004. 12) : 特定医療法人慈泉会相澤病院看護部「リーダー研修」講師

岡村典子 (2005. 1) : 上越市高齢者福祉課 介護支援専門員研修会「介護支援専門員の面接技法」講師

岡村典子 (2005. 4-2007. 3) : 特定非営利活動法人 長野県臨床心理カウンセリング研修センター子育て支援認定カウンセラー

岡村典子 (2006. 8) : 社団法人日本精神科看護技術協会主催「実践事例検討会」講師

【研究プロジェクトによる活動】

①研究班による活動

野地有子, 加城貴美子, 加藤光寛, 田中キミ子, 富川孝子, 佐々木美佐子, 加固正子, 深澤佳代子, 吉山直樹, 関谷伸一, 堀良子, 井上みゆき, 岡村典子 (2005) : 看護領域別演習科目における PBL チュートリアル導入の効果と課題, 新潟県立看護大学平成 16 年度学長特別研究費研究報告書, 1-13.

野地有子, 柿川房子, 加城貴美子, 吉山直樹, 堀良子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐 (2006) : PBL チュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究, 新潟県立看護大学平成

水澤久恵

【研究活動】

①学会発表

水澤久恵, 志自岐康子 (2006. 2) : 意思決定を支える看護介入—回復期にある脳血管障害患者の看護に焦点を当てて—, 第 15 回日本保健科学学会.

清水準一, 笠井真紀, 水澤久恵, 武藤香織, 里見進, 門田守人 (2006. 9) : 生体肝移植ドナー向け健康管理手帳作成の試み, 第 42 回日本移植学会.

水澤久恵, 勝野とわ子, 出貝裕子, 橋本裕, 志自岐康子, 河原加代子 (2006. 12) : 訪問看護師の大震災の経験 (1) 訪問看護師の看護活動の実態, 第 26 回日本看護科学学会.

勝野とわ子, 出貝裕子, 水澤久恵, 橋本裕, 志自岐康子, 河原加代子, 新田収 (2006. 12) : 訪問看護師の大震災の経験 (2) : 看護活動における課題, 第 26 回日本看護科学学会.

IV. 臨床看護学領域

深澤佳代子

【研究活動】

＜その他の論文等＞

- 1) 深澤佳代子(平成 14 年):手術部の安全性をふまえた効率化の限界, 日本手術医学会誌第 23 号第 4 号, 46-48.
- 2) 深澤佳代子(平成 14 年):病院感染対策に一言—アメリカの医療現場で感じたこと, インフェクションコントロール, 第 11 巻第 6 号, 1.
- 3) 深澤佳代子(平成 15 年):感染管理に関する看護基礎教育の現状と問題点, 日本医科器械学第 73 巻第 11 号, 687-691.
- 4) 深澤佳代子(平成 16 年):看護基礎教育から見た手術室看護の専門性, 日本手術医学会誌第 25 巻第 1 号, 83-85.
- 5) 深澤佳代子(平成 16 年):アメリカの看護教育事情, るみえーる No15, 5.
- 6) 深澤佳代子(平成 17 年):手術室看護の専門性についての一検討-手術室看護と救急看護の比較-日本手術医学会誌第 26 巻第 3 号, 262-264.
- 7) 深澤佳代子(平成 17 年) アドボカシーと医療の質を保証する手術室看護, るみえーる No17, 5.
- 8) 深澤佳代子(平成 18 年):看護基礎教育における手術室看護の位置づけと教授方法について—手術室実習について—, 日本手術医学会誌第 27 巻第 4 号, 296-298.
- 9) 深澤佳代子(平成 18 年):看護基礎教育における手術室実習の動向, OPE ナーシング第 21 号第 2 巻, 208-214.
- 10) 深澤佳代子監訳(平成 18 年)E. Thompson, C. Gillet 著:Mayo Clinic での手術室看護師を対象にしたオリエンテーションとスタッフ教育について, るみえーる No18, 4-5.

＜教員チームによる共同研究・研究指導＞

- 1) 深澤佳代子, 小林優子, 山田正実, 上原美樹:新潟県下の救急外来に勤務する看護者の臨床実践能力に関する研究(平成 15 年), 平成 14 年看護研究交流センター事業 活動・研究報告, 65-70.
- 2) 加藤光實, 深澤佳代子, 小林優子, 直成洋子, 酒井禎子, 山田正実, 西脇洋子, 山元智穂, 上原美樹:成人看護学演習におけるマルチメディア教材の開発(平成 15 年), 平成 14 年度学長特別研究費 研究報告書, 15-18.
- 3) 深澤佳代子, 小林優子, 山田正実, 今泉香里:新潟県下の救急外来に勤務する看護者の臨床実践能力に関する研究(平成 16 年), 平成 15 年看護研究交流センター事業 活動・研究報告, 43-50.
- 4) 加藤光實, 深澤佳代子, 小林優子, 直成洋子, 酒井禎子, 山田正実, 飯田智恵, 樺沢三奈子, 今泉香里(平成 16 年):成人看護学演習におけるマルチメディア教材の開発, 平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 28-34.
- 5) 吉山直樹, 加藤光實, 深澤佳代子, 加藤正子, 橋本明浩, 大友康博, 服部伸, 杉田玄(平成 16 年):IT を活用した継続医療・看護ケア(ヘルスケア)の有効・効率的なプランニングの研究, 平成 15 年度看護研究交流センター 活動・研究報告書, 115-122.
- 6) 加藤光實, 深澤佳代子, 加藤正子, 富川孝子, 佐々木美佐子, 田中キミ子, 加城貴美子(平成 17 年):看護職員臨地実習指導者養成講習会における実習指導力向上のためのプログラム開発, 平成 16 年度看護研究交

流センター 年報, 37-42.

7) 深澤佳代子, 小林優子, 山田正実, 今泉香里, 宮下真理子(平成 17 年): 新潟県下の救急看護に従事する看護者を支援する教育プログラムの開発, 平成 16 年度看護研究交流センター 年報, 43-50.

8) 深澤佳代子, 山田正実, 石岡幸恵, 佐藤和美, 込田啓子(平成 18 年): 新潟中越地震の急性期看護に従事した看護師のメンタルヘルスに関する研究, 平成 17 年度看護研究交流センター 年報, 21-30.

9) 深澤佳代子, 加固正子(平成 18 年): 新潟県下看護職の人材育成と現任教育に関する研究, 平成 17 年度看護研究交流センター 年報, 37-44.

<学会活動>

1. 学術集会における企画・運営に関すること

イ. 教育または学術講演

1) 深澤佳代子(平成 15 年): 第 25 回長野県手術研究会教育講演 講師(諏訪)

1) (平成 16 年): シンポジウムⅡ 手術のエキスパートナースー独自の役割と専門性, 第 26 回日本手術医学会総会(名古屋)

2) (平成 15 年): 第 25 回日本手術医学会総会(福岡)

2. 学会発表

ア. 一般発表

1) 深澤佳代子(平成 15 年): 看護基礎教育から見た手術室看護の専門性, 第 25 回日本手術医学会総会(福岡)

2) 深澤佳代子(平成 16 年): 手術室看護の専門性についての一検討 - 手術室看護と救急看護の比較, 第 26 回日本手術医学会総会(東京)

3) 深澤佳代子(平成 18 年): 安全性と効率性に基づく手術室における看護師等医療従事者の人員配置に関する研究, 第 28 回日本手術医学会総会(大阪)

イ. シンポジウム

1) 深澤佳代子(平成 17 年) 基礎看護教育における手術室看護の位置づけと教授方法について, 第 27 回日本手術医学会(東京)

【社会活動】

1. 国の委員

1) 厚生労働省看護師国家試験出題基準ワーキングメンバー、成人看護学出題基準作成(担当者代表 武田宣子)(平成 14 年～15 年)

2. 県・市町村の政策関連委員

1) 新潟労災病院地域医療支援病院諮問委員会準備委員会委員、新潟労災病院地域医療支援病院準備運営委員会委員(平成 18 年～現在に至る)

2) 公立大学協議会看護保健医療部会課題別分科会「教職員の能力開発」研究会(平成 17 年～平成 18 年)

3) 第 36 回日本看護学会成人看護Ⅱ準備委員および学会委員(平成 15～16 年)

3. 市民活動等その他

1) 新潟県看護協会佐渡支部講習会(フィジカルアセスメント)講師(平成 15 年)

2) 日本看護協会関東甲信越看護学会 抄録査読委員(平成 16 年)

3) 第 35 回日本看護学会看護管理論文査読委員(平成 16 年)

4) 第 36 回日本看護学会成人看護Ⅱ抄録査読委員(平成 17 年)

- 5) 第 36 回日本看護学会看護管理抄録・集録集査読委員(平成 17 年)
- 6) 第 37 回日本看護学会看護教育・集録集査読委員(平成 18 年)
- 7) 日本手術看護学会誌査読委員(平成 18 年～現在に至る)
- 8) 富山大学医学部附属病院看護研究講師(平成 18 年)
- 9) 日本手術医学会 評議員(平成 11 年～現在)、学会誌編集委員および査読委員(平成 12 年～現在)
平成 19 年度学会準備委員(平成 18 年～)
- 10) 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師(平成 14 年～現在に至る)

加固正子

【研究活動】

1 著書

- 1) 加固正子(共著):新体系看護学 28 小児看護学①小児看護学概論・小児保健、第 6 章小児の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護(pp130・181)(全 219 頁)、メヂカルフレンド社、2003.1.
- 2) 加固正子(共著):新体系看護学 29 小児看護学②健康問題をもつ小児の看護、第 2 章 健康問題・障害をもつ小児の発達段階に応じた看護(pp41・70)(全 503 頁)、メヂカルフレンド社、2003.1.
- 3) 加固正子(共著):新体系看護学 29 小児看護学②健康問題をもつ小児の看護、第 7 章 11 節 被虐待が疑われる小児と家族(pp492・499)(全 503 頁)、メヂカルフレンド社、2003.1.
- 4) 奥宮暁子(監訳) 栗生田友子・石川ふみ子、石鍋圭子・泉キヨ子・井上智恵・上杉裕子・大原良子・奥宮暁子・加固正子、加藤真由美、川波公香、北野敬子・金城利雄・黄田美香・小林美子・習田明裕・鈴木泰子・野々村典子・藤井宝恵・藤野彰子・藤原正恵・宮腰由紀子・山本恵子:16 章 小児のリハビリテーション看護(pp.308・317)、Association of Rehabilitation Nursing リハビリテーション看護の実践—概念と専門性を示す ARN のコアカリキュラム The specialty practice of rehabilitation nursing、看護協会出版会、2005.1.
- 5) 加固正子(共著):看護データブック第 3 版、小児看護学に関するデータの部分、医学書院、2005.3.
- 6) 加固正子(共著):新体系看護学 28 小児看護学①小児看護学概論・小児保健、第 6 章小児の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護(pp128・179)(全 225 頁)、メヂカルフレンド社、2006.11.
- 7) 加固正子(共著):新体系看護学 29 小児看護学②健康問題をもつ小児の看護、第 2 章 健康問題・障害をもつ小児の発達段階に応じた看護(pp30・70)(全 520 頁)、メヂカルフレンド社、2006.11.
- 8) 加固正子(共著):新体系看護学 29 小児看護学②健康問題をもつ小児の看護、第 7 章 11 節 被虐待が疑われる小児と家族(pp495・502)(全 520 頁)、メヂカルフレンド社、2006.11.

2 論文発表

- 1) 加固正子・大久保明子・金井幸子:救急外来看護師が感じている小児看護の課題、平成 14 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業報告書、2003.6.

- 2) 山本淳子・加固正子：異文化看護の視点を取り入れた看護英語教材の開発、平成 14 年度新潟県立看護大学学長特別研究費研究報告書、2003.6.
- 3) 大久保明子・加固正子・金井幸子：小児看護学におけるマルチメディア教材の開発・生命予後不良の疾患を持つ子どもと家族の看護、NICU 看護に関する教材、平成 14 年度学長特別研究費 研究報告書（新潟県立看護大学）、25・28、2003.6.
- 4) 金井幸子・大久保明子・加固正子：心因性症状を呈する児の母親に対する育児相談の検討、日本看護学会論文集 33 回小児看護、36・38、2003.6.
- 5) 加固正子・大久保明子・金井幸子：救急外来看護師が感じている小児看護の課題分析、外来小児科、7(1)、53・55、2004.3.
- 6) 金井幸子・大久保明子・加固正子：入院している子どもの母親へのコラージュ作成効果、日本看護学会論文集 33 回小児看護、92・94、2004.9.
- 7) 河村也寸志、加固正子、秋山剛、高橋ゆきえ、三宅由子：乳児の母親にみられる子どもの虐待の可能性—3～4 か月健康診査における日本語版子ども虐待ポテンシャル調査票 (JCAP) の使用経験—、日本社会精神医学会雑誌 13(3)、pp.116・128、2005.2.
- 8) 加固正子、大久保明子、藤巻ゆかり、宮下真理子：小児救急における電話トリアージに対する救急外来看護師の意識、日本看護学会論文集 36 回 小児看護、pp.259・261、2006.2.
- 9) 大久保明子、加固正子、藤巻ゆかり、佐藤理加、池亀法恵、宮下真理子：A 総合病院救急外来における小児救急の現状と課題、日本看護学会論文集 36 回 小児看護、pp.261・264、2006.2.
- 10) 河村代志也、高橋ゆきえ、秋山剛、加固正子、三宅由子：新生児、乳児の母親における子ども虐待の簡易スクリーニング—新生児訪問指導、乳児健康診査におけるエジンバラ産後うつ病自己評価票 (EPDS) を利用した 11 項目調査票使用経験—、日本社会精神医学会雑誌第 14 巻 3 号、pp. 221・230、2006.2.
- 11) 加固正子、井上みゆき、片田範子、勝田仁美、小迫幸恵、三宅一代、岡田和美：新潟県中越地震で被災した子どもの健康と看護ニーズ—被災地に派遣された看護師の声から—、日本災害看護学会誌第 7 巻 3 号、pp.44・54、2006.3.
- 12) 加固正子：小児救急医療における電話トリアージと外来看護、外来看護最前線、pp.124・128、2006.11.
- 13) 井上みゆき、加固正子、片田範子、勝田仁美、小迫幸恵、三宅一代、岡田和美：子どもが入院している病棟の災害時看護—新潟県中越地震の看護師の体験から—、日本災害看護学会誌第 8 巻 2 号、pp.8・19、2006.12.

3 学会発表

- 1) 加固正子・大久保明子・金井幸子：救急外来看護師が感じている小児看護の課題分析、外来小児科学会、p.12、2003.8.
- 2) 金井幸子、大久保明子・加固正子：小児看護学実習評価表を用いた実習目標達成度の検討・学生の自己評価と教員評価の比較、日本小児看護学会第 13 回学術集会、p.92、2003.9.
- 3) 相沢美代子、米樹由貴、佐藤麻衣子、樋口由香里、中村里美、和栗恵美、金井幸子、加固正子：在宅療養中の乳幼児脊髄性筋萎縮症児への成長・発達を促す援助—事例を通じた遊びを中心とした関わりの検討—、第 13 回日本外来小児科学会、p.52、2003.9.
- 4) 金井幸子、大久保明子、加固正子：人工呼吸器を装着し在宅療養中の児の母親の困難

と要望、第35回日本看護学会—小児看護、p.111、2004.9.

- 5) 大久保明子、金井幸子、加固正子：VTR 教材「NICU の概要」の開発と有効性、第35回日本看護学会—小児看護、p.93、2004.9.
- 6) 河村也寸志、太田共夫、嶋田宏、藤原修一郎、高橋ゆきえ、川田貴久江、加固正子：子どもの虐待のスクリーニングと地域ネットワークの構築、p.26、第53回共済医学会、2004.10.
- 7) 加固正子、大久保明子、金井幸子：上越地域における小児救急の現状—保護者への調査結果について、第51回日本小児保健学会抄録集、pp.330-331、2004.10.
- 8) 河村也寸志、秋山剛、三宅由子、加固正子、高橋ゆきえ：The availability of the Edinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS) for prescreening of child abuse potential、XVIII World Congress of World Association for Social Psychiatry、第18回世界社会精神医学会（シンガポール）、p.22、2004.11.
- 9) 加固正子・片田範子・望月綾子・井上みゆき・勝田仁美・小迫幸恵・三宅一代・岡田和美：被災直後から中期にかけての子どもの健康と看護ニーズに関する研究、厚生労働省特別研究「新潟県中越地震を踏まえた保健医療における対応・体制に関する調査研究」研究発表会(新潟市民プラザ)、2005. 3.
- 10) 井上みゆき・片田範子・望月綾子・加固正子・勝田仁美・小迫幸恵・三宅一代・岡田和美：日本小児看護学会第15回学術集会（横浜）、講演集、pp.88-89、2005.7.
- 11) 加固正子・井上みゆき・片田範子・勝田仁美・小迫幸恵・三宅一代・岡田和美：新潟県中越地震で被災した子どもの健康と看護ニーズ—被災地に派遣された看護師の声から—、日本災害看護学会第7回年次大会抄録集、p.65、2005.8.
- 12) 加固正子・大久保明子・藤巻ゆかり・宮下真理子：小児救急における電話トリアージに対する救急外来看護師の意識、第36回日本看護学会抄録集(小児看護)、p.135、2005.9.
- 13) 大久保明子・加固正子・藤巻ゆかり・宮下真理子：A 総合病院救急外来における小児救急の現状と課題、第36回日本看護学会抄録集(小児看護)、p.136、2005.9.
- 14) 勝田仁美・小迫幸恵・三宅一代・岡田和美・片田範子・加固正子・井上みゆき・柴田未央：Nurse's Awareness/ Preparedness Regarding Disaster in the Pediatric Ward、The 9th East Asian Forum of Nursing Scholars (In Bangkok, Thailand)、p. 143、2006.3.
- 15) 加固正子・大久保明子：救急外来看護師の勤務の現状と小児救急電話トリアージ、第8回日本救急看護学会学術集会（会津若松）、P.240、2006.10.
- 16) Masako Kako・Akiko Ohkubo：Pediatric Telephone Triage and Nurses' Perception、The Proceedings of International Council of Nurses (ICN) Conference 2007 Yokohama、p. 221、2007.5.30.
- 17) 加固正子・大久保明子：米国における看護師による小児救急電話トリアージ、日本小児看護学会第17回学術集会（松本）講演集、pp.214、2007.7.
- 18) 加固正子・大久保明子：小児救急電話トリアージ・マニュアル使用状況と看護師の意識、第54回日本小児保健学会（前橋）講演集、pp.388-389、2007.9.
- 19) 加固正子・大久保明子：米国の看護師による電話トリアージと小児関係プロトコール利用の実際、第9回日本救急看護学会学術集会（大阪）、P.？、2007.11.

4 一般講演・社会活動

- 1) 加固正子：看護師からみた児童虐待、新潟県立看護大学公開講座「女性と看護」、上越市紅葉荘、

2002.10.26.

- 2) 加固正子：乳幼児期の心の成長と親の関わりについて、両親および母子保健推進員対象、六日町生涯学習課、2003.3.16.
- 3) 富川孝子・加固正子・山本淳子：米国の大学における看護教育環境視察（ワシントン州シアトル市）、2003.3.24.～4.5.（13 日間）.
- 4) 加固正子：上越管内における小児救急の現状—調査結果について、上越管内母子保健担当者会議にて報告、2004.3.4.
- 5) 加固正子：新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会、講師、2002～現在に至る.
- 6) 加固正子：上越休日急患診療所運営委員、2002.11.～20053.
- 7) 加固正子：新潟県看護協会 認定看護管理者セカンドレベル教育運営委員会委員、2002.10.～2004.3.
- 8) 加固正子：拡大する看護師の役割、新潟大学医学部保健学科看護学専攻、特別講義、2003.10.～現在に至る
- 9) 加固正子：新潟小児看護研究会幹事、県内の看護系大学の小児看護学教員の連携による研究会を発足させ、運営に協力する、2003.5.～現在に至る.
- 10) 加固正子：日本小児看護学会、査読委員、2006.10.～現在に至る.
- 11) 加固正子：新潟県看護協会 第 35 回日本看護学会（小児看護）準備委員会、2007.5.～現在に至る.

5 共同研究（役割を含む）

- 1) 加固正子・大久保明子・金井幸子：救急外来看護師が感じている小児看護の課題、平成 14 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業、継続看護における連携システムの構築に関する研究、2002.6.～2003.3. 研究代表者
- 2) 山本淳子、加固正子、徐淑子：異文化看護（Transcultural Nursing）の視点を取り入れた看護英語教材の開発、平成 14 年度学長特別研究費研、2002.6.～2003.3. 共同研究者
- 3) 加固正子・大久保明子・金井幸子：新潟県上越地区における小児の夜間・休日救急医療サービスに対する保護者の要望—上越地域の質問紙調査結果から—、平成 15 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター事業、継続看護における連携システムの構築に関する研究、2003.6.～2004.3. 研究代表者
- 4) 大久保明子、加固正子、金井幸子：小児看護におけるマルチメディア教材の開発—NICU 看護に関する教材の有効性—、平成 15 年度学長特別研究費研究、2003.6.～2004.3. 共同研究者
- 5) 吉山直樹、加藤光實、深澤佳代子、加固正子、橋本明浩、大友康博、服部伸、杉田玄：IT を活用した継続医療・看護ケアの有効・効率的なプランニングの研究、平成 15 年度看護研究交流センター事業、2003.6.～2004.3. 共同研究者
- 6) 加藤光實、深澤佳代子、加固正子、富川孝子、佐々木美佐子、田中キミ子、加城貴美子：実習指導能力向上のためのプログラム開発—平成 16 年度実習指導者養成講習会受講生の指導技法評価の実態—、平成 16 年度看護研究交流センター事業、2004.6.～2005.3. 共同研究者
- 7) 吉山直樹、加藤光實、深澤佳代子、加固正子、橋本明浩、大友康博、服部伸、杉田玄：ヘルスケアの現場における Ecological Momentary Communication Tool としての携帯電話の研究—Fake Compliance の克服をめざして—平成 16 年度看護研究交流センター事業、2004.6.～2005.3. 共同研究者

- 8) 深澤佳代子、加固正子：新潟県下看護職の人材育成と現任教育に関する研究—新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会3年間の評価を通して—、継続看護における連携システムの構築に関する研究、平成17年度看護研究交流センター事業、2005.6.～2007.3. 共同研究者
- 9) 橋本明浩、加固正子、深澤佳代子、吉山直樹：遠隔教育研究環境整備への基礎的研究—看護大学におけるIT環境整備による看護研究推進効果に関する研究—、大学におけるIT化事業に関する研究、平成17年度看護研究交流センター事業、2005.6.～2007.3. 共同研究者
- 10) 片田範子・望月綾子・加固正子・井上みゆき・勝田仁美・小迫幸恵・三宅一代・岡田和美：被災直後から中期にかけての子ども健康と看護ニーズに関する研究、平成16年度厚生労働科学研究補助金特別研究事業、2004.12.～2005.3. 共同研究者
- 11) 片田範子・勝田仁美・小迫幸恵・三宅一代・岡田和美・加固正子・井上みゆき・柴田美央・張曉春：看護ケア方法の開発プロジェクト—小児班—、21世紀COEプログラム「ユビキタス社会における災害看護拠点の形成」、2005.4.から2年間. 共同研究者
- 12) 加固正子、大久保明子、金井幸子：看護師による小児救急『電話トリアージ・マニュアル』の有用性、文部科学省科学研究費助成課題研究、(研究番号00233677)平成16年度から2年間 研究代表者
- 13) 加固正子、大久保明子：小児救急電話トリアージ・マニュアルの開発、文部科学省科学研究費助成課題研究、(研究番号18592375)平成18年度から3年間 研究代表者

6. 研究指導

新潟県立中央病院看護部新主任研修、看護研究イロハ、2003.6.～(年3回講義)現在に至る

加城貴美子

【研究活動】

(1) 原著

- ・加城貴美子、阿部正子、和田佳子、他(2005)：看護学生の基礎体温測定による教育効果、新潟県立看護短期大学紀要、第10巻特集第2号、9-18
- ・笹野京子、加城貴美子、高塚麻由、他(2005)：看護学生における妊婦体験学習の効果、新潟県立看護短期大学紀要、第10巻特集第2号、1-8.
- ・加城貴美子、釜中明(2006)：接地足蹠面からみた第5趾と月経に関する基礎的研究、靴の医学、19巻2号、62-65.
- ・加城貴美子、釜中明(2007)：両足立ちと最前傾両足立ちの足趾接地状態の比較検討、靴の医学、第20巻2号、123-127.

(2) その他の論文・報告書(総説、報告書、雑記、その他)

- ・加城貴美子、高橋初美、小林美代子、他(2003)：女性に関する教育プログラムの開発に関する基礎的研究、平成14年度新潟県立看護大学看護研究センター事業活動・研究報告書、57-60.
- ・加城貴美子、高橋初美、小林美代子、他(2003)：新潟県内の山村・漁村の助産介助の歴史的比較検討—上越地方の大正・昭和初期生まれの開業助産婦の聞き取り調査—、平成14年度新潟県立看護大学学長特別研究報告書、19-20.
- ・和田佳子、笹野京子、加城貴美子、他(2003)：看護学生の自己成長に関する研究—調査1：尺度原案

作成のための調査—, 平成 14 年度新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 21-24.

・加城貴美子, 和田佳子, 阿部正子, 他 (2004): 女性に関する教育プログラムの開発に関する基礎的研究—高校の教諭による性教育の現状と今後の方向性—, 平成 15 年度新潟県立看護大学看護研究センター事業活動・研究報告書, 65-72.

・加城貴美子, 小林美代子, 高橋初美, 他 (2004): 助産師教育に生かす新潟県内の助産史調査, 平成 15 年度新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 35-42.

・加城貴美子, 西方真弓, 阿部正子, 他 (2005): 妊産褥婦と未熟児の支援システム構築に関する研究, 平成 16 年度新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 31-35.

・加藤光實, 5 名, 加城貴美子 (2005): 看護職員臨地実習指導者養成講習会における実習指導能力向上のためのプログラム開発—平成 16 年度実習指導者講習会受講生の指導技法評価の実態—, 平成 16 年度新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 37-42.

・加城貴美子 (2006): 青年期の両足直立立ちと最前傾両足立ちの足趾接地状態の比較, 平成 19 年度新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 26-32.

(3) 学会発表 (一般発表, シンポジウム, ワークショップ, その他)

・和田佳子, 笹野京子, 加城貴美子 (2002): 看護学生の絵画からみた親子関係と自我状態との縦断的研究 (1)—母子関係による母性看護学実習前後の変化—, 第 22 回日本看護科学学会.

・笹野京子, 和田佳子, 加城貴美子 (2002): 看護学生の絵画からみた親子関係と自我状態との縦断的研究 (2)—父子関係による母性看護学実習前後の変化—, 第 22 回日本看護科学学会.

・和田佳子, 笹野京子, 加城貴美子, 他 (2003): 看護学生の自己成長に関する研究—調査 1: 尺度原案作成のための調査—, 平成 14 年度新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 21-24.

・和田佳子, 4 名, 加城貴美子 (2003): 体験学習による教育効果の検討—3 ヶ月間の基礎体温測定の実施—, 第 44 回日本母性衛生学会学会.

・笹野京子, 4 名, 加城貴美子 (2003): 体験学習による教育効果の検討—妊婦体験ジャケット着用—, 第 44 回日本母性衛生学会学会.

・加城貴美子, 和田佳子, 笹野京子, 他: 高校における性教育の実態と高校生のニーズ—男女差による比較—, 第 18 回日本助産学会学会.

・加城貴美子, 西方真弓, 高塚麻由, 他 (2005): 高校教諭による性教育の現状と今後の方向性, 第 19 回日本助産学会学会.

・阿部正子, 加城貴美子, 西方真弓, 他 (2005): 助産師教育に生かす新潟県内の助産史調査, 第 19 回日本助産学会学会.

・加城貴美子, 稲垣行一郎 (2006): 自我状態の透過性調整力についての研究—透過性調整力と自我状態・対処行動との関連 (第 1 報), 2006 年国際サイコセラピー会議学会.

・稲垣行一郎, 加城貴美子 (2006): 自我状態の透過性調整力についての研究—透過性調整力の影響への検討 (第 2 報), 2006 年国際サイコセラピー会議学会.

・加城貴美子, 釜中明 (2006): 接地足蹠面の経時的変化, 第 21 回の本靴医学学会学会.

・加城貴美子, 釜中明 (2006): 青年期の両足直立立ちと最前傾両足立ちの足趾接地状態の比較, 第 21 回日本靴医学学会学会.

・加城貴美子 (2006): 青年期女性の直立両足立ちと最前傾両足立ちの足趾接地状態の比較検討, 第 47 回日本母性衛生学会学会.

(4) 共同研究 (研究プロジェクトによる活動等, 学内教員チームによる共同研究を含む)

・加城貴美子を研究責任者として学内9名と学外者9名の計18名の研究メンバーで、女性に関する教育プログラムの開発に関する基礎的研究の目的で、平成14年度新潟県立看護大学看護研究センターの研究予算を獲得する。

・加城貴美子を研究責任者として学内9名の研究メンバーで、新潟県内の山村・漁村の助産介助に関する研究の研究目的で、平成14年度新潟県立看護大学学長特別研究費を獲得する。

・和田佳子を研究責任者として学内加城貴美子、他4名の計6名の研究メンバーで、看護学生の自己成長に関する研究の研究目的で、平成14年度新潟県立看護大学学長特別研究費を獲得する。

・加城貴美子を研究責任者として名城大学稲垣行一教授と交流分析理論を中心に周辺理論を取り入れて人間関係コミュニケーションを主体とした研究を続けている。

・加城貴美子を研究責任者としてパテラ研究所釜中明所長とヒトの姿勢・接地足蹠面からみた健康についての研究を続けている。

・加城貴美子を研究責任者として学内8名、外部8名の計16名の研究メンバーで、女性に関する教育プログラムの開発に関する基礎的研究の研究目的継続で、平成15年度新潟県立看護大学看護研究センターの研究予算を獲得する。

・加城貴美子を研究責任者として学内8名の研究メンバーで、新潟県内の山村・漁村の助産介助に関する研究目的継続で、平成15年度新潟県立看護大学学長特別研究費を獲得する。

・加城貴美子を研究責任者として学内4名、外部8名の計12名の研究メンバーで、妊産褥婦と未熟児の支援システム構築に関する研究目的で、平成16年度新潟県立看護大学看護研究センターの研究費を獲得する。

・加藤光實を研究責任者として学内加城貴美子、他5名の計7名の研究メンバーで、看護職員臨地実習指導者養成講習会における実習指導能力のためのプログラム開発の研究目的で、平成16年度新潟県立看護大学学長特別研究費を獲得する。

・加城貴美子を研究責任者として学内3名の研究メンバーで、青年期の接地足蹠面とホルモン循環動態に関する基礎的研究の目的で、平成16年度新潟県立看護大学学長特別研究費を獲得する。

・加城貴美子を研究責任者として、青年期の接地足蹠面に関する基礎的研究を目的に、平成17年度新潟県立看護大学学長特別研究費を獲得する。

・加城貴美子を研究責任者として、両親と子どもの接地足蹠面に関する基礎的研究を目的に、平成18年度新潟県立看護大学学長特別研究費を獲得する。

・加城貴美子を研究責任者として平成16年8月より、鳥取大学、川崎大学、愛媛大学の母性看護学教授と性教育についてプロジェクトチームを組んで研究を続けている。

(5) 学会活動（集会長等、教育・学術講演、座長・分科会長、各種委員等）

・平成15年3月 NPO 法人日本交流分析協会第25回年次大会講師「看護学生がよい人間関係を築くコツ」

・平成15年5月 第27回日本交流分析学会学術集会で座長を務める

・平成17年6月 日本交流分析学会評議委員（現在に至る）

【所属学会】日本看護科学学会、日本交流分析学会、日本靴医学会、日本公衆衛生学会、日本母性衛生学会、日本ロールレタリング学会、日本助産学会、日本家族社会学会、日本デザイン学会、新潟母性衛生学会、日本交流分析協会、思春期学会、聖路加看護学会、日本母性看護学会、日本不妊学会、日本看護診断学会、日本看護学会

【社会活動】

(1) 教育講演

- ・平成 14 年 11 月 新潟県厚生連上越総合病院 看護職員研修「知って得する貴方の心を伝え相手の懐に入り込むわざ」
- ・平成 15 年 2 月 新潟県長岡市介護保険課 長岡精神自助グループ「人間関係の基本的なコミュニケーション」
- ・平成 15 年 2 月 新潟県川西町保健課 母子研究会「人間関係コミュニケーション」
- ・平成 15 年 3 月 新潟県三条市中央公民館 満 60 歳以上の高齢者「人間の姿勢～自分の姿勢を知って楽しく生きよう!～」
- ・平成 15 年 5 月 第 20 回新潟県厚生連女性の集い「生き生き生活を手に入れるためには」
- ・平成 15 年 5 月 新潟県厚生連上越総合病院「いきいき女性セミナー～きりひらこうあなたの未来を～<尿失禁について>」
- ・平成 15 年 6 月 新潟県厚生連上越総合病院「いきいき女性セミナー～きりひらこうあなたの未来を～<更年期～きりひらこう、貴女の未来を～>」
- ・平成 15 年 7 月 新潟県公立家庭科教諭教員研修会「母体の健康管理—ライフサイクルと性—」
- ・平成 15 年 8 月 新潟県厚生連上越総合病院「いきいき女性セミナー～きりひらこうあなたの未来を～<中高年の性>」
- ・平成 16 年 11 月 上越市東部商工会議所主催 「よりよい人間関係を築くには」
- ・平成 17 年 2 月 新潟県上越市北諏訪小学校 学校保健委員会主催「今の子ども達に必要な性教育」
- ・平成 17 年 8 月 上越信用金庫主催 (直江津) 「人間関係コミュニケーション～筆跡からみて～」
- ・平成 18 年 1 月 日本筆跡診断士養成セミナー初級コース新潟教室 (6 月まで)

(2) 研修指導

- ・平成 15 年 10 月 新潟県臨床指導者講習会「実習指導の実際 (母性看護学)」
- ・平成 16 年 9 月～10 月 新潟県臨床指導者講習会「実習指導の実際 (母性看護学)」
- ・平成 19 年 2 月 日本交流分析協会北陸支部研究会「時間の構造化」
- ・平成 19 年 2 月 日本交流分析協会北陸支部 1 級認定講座「時間の構造化」
- ・平成 19 年 2 月 日本交流分析協会北陸支部 2 級認定講座「心理ゲーム」

(3) 市民活動への参加等

- ・平成 17 年 7 月～12 月 日本筆跡診断士養成セミナー初級コース富山教室
- ・平成 18 年 8 月 日本筆跡診断士入門講座 (上越地域)
- ・平成 19 年 3 月 上越地域の足と靴の研究会 (現在に至る)

井上みゆき

【研究活動】

I. 原著

井上みゆき, 加藤正子, 片田範子, 勝田仁美, 小迫幸恵, 三宅一代, 岡田和美 (2006): 子どもが入院している病棟の災害時看護—新潟県中越地震の看護師の体験から—, 日本災害看護学会誌, 8(2), 8-19.

II. その他の論文及び調査報告

井上みゆき (2002): 子どもが医療事故に遭ったある母親の体験, 日本小児看護学会誌, 11(2), 34-39.

- 井上みゆき (2003) : 死に至るリスクが高い新生児の家族ケア, 家族看護, 1(2), 43-48.
- 井上みゆき (2004) : 18 トリソミーを持つ子どもの倫理的意思決定に参加できた母親の体験, Neonatal Care, 17(3), 94-97.
- 井上みゆき (2004) : 親による子どもの治療拒否, 家族ケア, 2(9), 24-27.
- 井上みゆき (2004) : 新生児の倫理的意思決定に親が参加するということ, 家族ケア, 2(11), 16-19.
- 井上みゆき (2005) : 子どもを亡くした後の家族ケア, 家族ケア, 3(2), 18-21.
- 渡部裕子, 今田千佳子, 田中亮子, 木菱寛子, 井上みゆき (2005) : 子どもの点滴に付き添った母親の体験, 第35回日本看護学会論文集—小児看護—, 170-172.
- 井上みゆき (2005) : 子どもの医療的な処置への家族の参加, 家族ケア, 3(4), 14-17.
- 井上みゆき (2005) : 結婚、血縁、同居を問わない“家族”に生まれた子どものケア, 3(6), 18-21.
- 井上みゆき (2005) : 生命の危機状態にある新生児の家族への看護, 家族看護, 3(2), 55-59.
- 井上みゆき (2005) : 18 トリソミーをもつ子どもの気管内挿管に関する親の思いと意思決定, 日本看護学会誌, 15(1), 63-72.
- 水沢直子, 遠藤玲子, 井上みゆき (2006) : NICU 看護師が語るジレンマ, 第36回日本看護学会論文集—小児看護—, 152-154.
- 井上みゆき, 水沢直子, 遠藤玲子 (2006) : NICU に長期入院する子どもの看護的背景と問題, Neonatal Care, 19(3), 82-87.
- 加藤正子, 井上みゆき, 片田範子, 勝田仁美, 小迫幸恵, 三宅一代, 岡田和美 (2006) : 新潟県中越地震で被災した子どもの健康と看護ニーズ—被災地に派遣された看護師の声から—, 日本災害看護学会誌 7(3), 44-45.
- 澤田法子, 井上みゆき (2007) : 重症心身障害児(者)施設の看護師が語る困難な問題, 第37回日本看護学会論文集—総合看護—, 280-282.
- 澤田法子, 井上みゆき (2007) : 重症心身障害児(者)施設の看護師が語る小児期からのキャリアオーバーに関する問題, 第37回日本看護学会論文集, —小児看護—, 251-253.
- 井上みゆき (2007) : 日本における医療ネグレクトの現状と法的対応に関する文献検討, 日本小児看護学会誌, 16(1), 69-75.
- 井上みゆき (2007) : 災害時の小児病棟; 中越大震災の調査をととして, 小児看護, 30(6), 783-744.
- 井上みゆき (2007) : 小児病棟における子どもと家族の最善利益, 小児看護, 30(8), 1054-1059.
- ### III. 学会発表
- 水野貴子, 金子美子, 井上みゆき, 高橋初美 (2002) : NICU の保育器と看護師の手指の細菌調査, 第33回日本看護学会—小児看護— (於富山).
- 井上みゆき (2002) : 生命的に予後の悪い新生児の積極的な治療の停止・制限に関するガイドラインの検討—看護職の意見— 第22回日本看護科学学会学術集会 (於東京).
- 井上みゆき (2002) : 重症障害新生児の治療の停止及び制限に関するガイドラインの検討—よりよい決定へいたるための必要条件—, 第12回日本新生児看護学会交流集会 (於大阪)
- 井上みゆき (2003) : 18 トリソミーを持つ子どもの気管内挿管に関する親の思い, 第13回日本小児看護学会 (於千葉).
- 井上みゆき (2003) : 看護職が語る重症障害新生児の最善の利益, 第23回日本看護科学学会学術集会 (於三重).
- 渡部裕子, 今田千佳子, 田中亮子, 木菱寛子, 井上みゆき (2004) : 子どもの点滴に付き添った母親の体験,

第35回日本看護学会 - 小児看護 - (於秋田).

井上みゆき, 遠藤玲子 (2004): 意識のないNICU長期入院児をケアする看護師の感情と思考, 第24回日本看護科学学会 (於東京).

井上みゆき, 加藤正子, 片田範子, 勝田仁美, 小迫幸恵, 三宅一代, 岡田和美 (2005): 新潟中越地震時の小児病棟の状況とケア, 第15回日本小児看護学会学術集会 (於横浜).

井上みゆき, 加藤正子, 片田範子, 勝田仁美, 小迫幸恵, 三宅一代, 岡田和美 (2005): 中越地震時に子どもが入院していた病棟の避難状況と看護活動, 第7回年次大会日本災害看護学会 (於兵庫).

加藤正子, 井上みゆき, 片田範子, 勝田仁美, 小迫幸恵, 三宅一代, 岡田和美 (2005): 新潟県中越地震で被災した子どもの健康と看護ニーズ - 被災地に派遣された看護師の声から -, 第7回年次大会日本災害看護学会 (於兵庫).

井上みゆき (2005): 重篤な疾患を持つ新生児医療に関する意思決定: 親と看護師の相違, 第25回日本看護科学学会学術集会 (於青森).

Hitomi Katsuda, Kazumi Okada, Yukie Kosako, Kaduyo Miyake, Noriko Katada, Masako Kako, Miyuki Inoue, Mio Shibata (2005): Nurse's Awareness/Preparedness regarding Disaster in the Pediatric Ward, The 9th East Asian Forum of Nursing (Bangkok).

澤田法子, 井上みゆき (2006): 重症心身障害児(者)施設の看護師が語る困難な問題, 第37回日本看護学会論文集 - 総合看護 - (於宮崎).

井上みゆき (2006): 日本の文献からみる医療ネグレクトの実態と課題, 第6回日本小児看護学会学術集会 (於横浜).

澤田法子, 井上みゆき (2006): 重症心身障害児(者)施設の看護師が語る小児期からのキャリアオーバーに関する問題, 第37回日本看護学会論文集, 一小児看護 - (於広島).

澤田法子, 井上みゆき (2006): 家庭生活することなく障害児施設に措置入院した超重症児をケアする看護師の思い, 第26回日本看護科学学会学術集会 (於大阪).

井上みゆき (2007): 重篤な疾患をもつ新生児の最善の利益と法: 文献と判例から, 第17回日本小児看護学術集会 (於長野).

井上みゆき (2007): 倫理的な意思決定でNICU看護師が思う「子どもの最善の利益」第27回日本看護科学学会学術集会 (於東京)

IV. 一般講演・学会活動

井上 みゆき 新潟県看護協会「平成14年度看護研究学会」 座長 2002年11月

井上 みゆき 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講師 2002年9~11月

井上 みゆき 「子どもの人権について」長岡市介護保健課 保健師講習会 2003年1月

井上 みゆき 「子どもの看護」長岡市児童福祉課 子育て講座 2003年2月

井上 みゆき 第13回日本新生児看護学会学術集会 座長 2003年12月

井上 みゆき 第48回日本新生児未熟児学会シンポジスト 2004年12月

井上 みゆき 北里大学一般教養 「医療倫理」講演 2004年4月

井上 みゆき 第76回 愛育会 母子保健セミナー「周産期医療における生命倫理を考える」講師 2004年7月

井上 みゆき 日本小児看護学会第15回学術集会テーマセッション話題提供 2005年7月

井上 みゆき 東京都立府中療育センター 重症心身障害児者療育専門コース1 講師 2005年10月

井上 みゆき 富士重工業保険組合 太田高等看護学院特別講演「小児看護の倫理」講師 2006 年 4 月
井上 みゆき 東京都立北療育園職員研修「医療者の倫理」講師 2006 年 6 月
井上 みゆき 日本小児看護学会第 16 回学術集会 テーマセッション シンポジスト 2006 年 7 月

【研究プロジェクトによる活動（役割を含む）】

1. 研究班による活動

成育医療研究委託事業研究「重症障害新生児医療のガイドライン及びハイリスク新生児の診断システムに関する総合的研究」主任研究者：田村正徳

役割：研究協力者 期間：2001-2003 年

平成 16 年度厚生労働科学研究助成金特別研究事業 新潟県中越地震を踏まえた保健医療における対応・体制に関する調査研究 主任研究者：近藤達也の分担研究「被災直後から中期にかけての子どもの健康と看護ニーズに関する研究」分担研究者：片田範子

役割：研究協力者 期間：2005 年

2. 研究助成金

科学研究費補助金(基盤研究(C))課題番号 17592255)

研究テーマ「新生児看護の倫理：重症障害新生児の最善の利益のケアの構築」

役割：主任研究者 期間：2005 年－2007 年

吉武久美子

【研究活動】

(1) 原著

浜町（吉武）久美子（2005）：医療におけるインフォームド・コンセントと合意形成、医学哲学 医学倫理、23、11~21.

浜町（吉武）久美子（2005）：チーム医療とコミュニケーション、感性哲学 5、108~123.

(2) その他の論文

浜町（吉武）久美子（2005）：医療における意思決定と合意形成プロセス、生命倫理 16、176~184.

吉武久美子（2006）：医療現場における意思決定と合意形成に関する研究、東京工業大学大学院博士学位取得論文.

浜町（吉武）久美子（2005）：看護職の立場からのクリニカル・ガバナンスー納得のためのプロセスとしての合意形成ー、現代のエスプリ 458、49~59.

(3) 学会発表

浜町（吉武）久美子（2005）：受け止める力・語る力と医療、第 7 回日本感性工学会、東京.

浜町（吉武）久美子（2005）：チーム医療とコミュニケーション、第 6 回日本感性工学会哲学部会、大阪.

浜町（吉武）久美子（2004）：医療における意思決定と合意形成、第 16 回日本生命倫理学会、鳥取.

浜町（吉武）久美子（2004）：医療におけるインフォームド・コンセントと合意形成、第 23 回日本医学哲学・倫理学会、東京.

浜町（吉武）久美子（2004）：合意形成手法を取り入れた医療倫理教育プログラムの試み、第6回日本感性工学会、東京。

浜町（吉武）久美子（2004）：医療におけるカンファレンス、第5回日本感性工学哲学部会、大阪。

（4）その他の発表

浜町（吉武）久美子（2004）：公開シンポジウム「クリニカル・ガバナンスよりよい人間関係とそれを実現する制度のあり方（医療の現場から）」、「医療と合意形成」と題しパネリストとして発表、日本学術振興会主催、東京。

（5）共同研究

日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業「日本の空間学」チームのメンバーとして参加。2003～現在。

日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業「医療倫理とシステム」チームのメンバーとして参加。2004～現在。

（6）委員会活動

東京工業大学大学院疫学研究倫理委員会の委員として参加。2006年4月～現在。

（7）参加学会

所属学会：日本看護科学学会、日本赤十字看護学会、日本生命倫理学会、日本医学哲学倫理学会、日本感性工学会。

直成洋子

【研究活動】

（1）原著

- ・直成洋子，澤田愛子，高間静子，泉野潔(2002)：循環器系疾患患者の自己管理行動および自己効力感に関する影響要因，富山医科薬科大学看護学会誌，4（2），21-31.
- ・吉田直子，梅田たか子，長野泰子，谷内田潤子，齋藤芳枝，坂井和子，直成洋子(2005)：血液透析患者の体重自己管理の自信度に関する実態調査，第36回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ，92-94.
- ・佐藤恵子，田村章子，真島稚鶴子，直成洋子(2005)：透析患者を支える家族負担の実態調査，第36回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ，107-109.
- ・岡村文子，井上あゆみ，長谷川裕子，水沢まさ子，直成洋子(2005)：透析中の座位での食事摂取による血圧低下予防のアプローチ-高齢の長期血液透析患者の一事例-，第36回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ，104-106.
- ・星野和子，稲越美幸，本田香，中山順子，直成洋子(2005)：看護師の家族看護に関する意識の実態調査，第25回関東甲信越地区看護研究学会誌，432-433.

（2）その他の論文・報告書

- ・直成洋子，酒井禎子(2002)：実力アップ。資格ファイル 成人看護①，メヂカルフレンド社 看護学生，41-53.
- ・酒井禎子，直成洋子(2002)：実力アップ。資格ファイル 成人看護②，メヂカルフレンド社 看護学

生, 40-52.

- ・直成洋子, 酒井禎子(2002): 実力アップ. 資格ファイル 成人看護③, メディカルフレンド社 看護学生, 40-52, 2002.
- ・酒井禎子, 直成洋子(2002): 実力アップ. 資格ファイル 成人看護④, メディカルフレンド社 看護学生, 40-52.
- ・直成洋子, 山元智穂, 加藤光實(2002): 実習アシスト・カード機能障害と看護 第8回 防衛機能障害, 医学芸術社 ナーシングカレッジ, 医学芸術社 ナーシングカレッジ, 115-122.
- ・加藤光實, 深澤佳代子, 小林優子, 直成洋子, 酒井禎子, 山田正実, 西脇洋子, 山元智穂, 上原美樹(2003): 成人看護学演習におけるマルチメディア教材の開発 (1) -看護系大学における学内演習の実態-, 新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 15-18.
- ・加藤光實, 直成洋子, 酒井禎子, 西脇洋子, 山元智穂(2003): 成人看護における検討-「在宅療養」「在宅ケア」に関する文献レビューからみた在宅療養支援のための課題-, 新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, 25-28.
- ・加藤光實, 直成洋子, 酒井禎子, 西脇洋子, 山元智穂, 本宮みどり, 牧 優子, 小野塚栄子, 岡田恵子, 渡辺初美, 熊木留美(2003): 成人看護における検討-県内病院の一病棟を退院した患者の実態調査-, 新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, 29-32.
- ・和田佳子, 加藤光實, 笹野京子, 加城貴美子, 直成洋子, 飯田智恵, 樺澤三奈子(2004): 看護学生の自己成長に関する研究-調査: 2 -尺度開発の試み-, 新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 43-49.
- ・加藤光實, 直成洋子, 酒井禎子, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 本宮みどり, 牧 優子, 小野塚栄子, 岡田恵子, 渡辺初美, 熊木留美: 継続看護における連携システムの構築(2004): 退院状況の実態に関する研究-入院延長の要因の検討-, 新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, 33-40.
- ・加藤光實, 直成洋子, 酒井禎子, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 内藤知佐子, 中津美津子, 根建真由美, 海津 希, 白井里美(2005): 新潟県内の豪雪地域における退院状況の実態に関する研究, 新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書, 25-30.
- ・野地有子, 柿川房子, 加城貴美子, 吉山直樹, 堀 良子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐(2006): PBL チュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究, 新潟県立看護大学学長特別研究報告書, 1-13.
- ・加藤光實, 直成洋子, 酒井禎子, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 内藤知佐子, 中島紀恵子, 吉村里子, 岸本かず, 加藤あや子, 白井里美, 仲村早苗, 藤田笑子(2006): 豪雪地域の在宅療養支援する継続看護に関する研究-豪雪地域で在宅療養を行う療養者とその家族の療養生活の特徴-, 新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 45-52.

(3) 学会発表

- ・吉田直子, 梅田たか子, 長野泰子, 谷内田潤子, 齋藤芳枝, 坂井和子, 直成洋子, : 血液透析患者の体重自己管理の自信度に関する実態調査, 第36回日本看護学会学術集会, 2005年7月.
- ・佐藤恵子, 田村章子, 真島稚鶴子, 直成洋子: 透析患者を支える家族負担の実態調査, 第36回日本看護学会学術集会, 2005年7月.
- ・岡村文子, 井上あゆみ, 長谷川裕子, 水沢まさ子, 直成洋子: 透析中の座位での食事摂取

による血圧低下予防のアプローチ-高齢の長期血液透析患者の一事例-, 第36回日本看護学会学術集会, 2005年7月.

- ・星野和子, 稲越美幸, 本田香, 中山順子, 直成洋子: 看護師の家族看護に関する意識の実態調査, 第25回関東甲信越地区看護研究学会, 2005年11月.
- ・野地有子, 柿川房子, 栗生田友子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐, 中村めぐみ, 宇佐美しおり: CNS看護教育の課題と展望-CNS10年にあたって-, 第11回聖路加看護学会学術集会, 2006年9月.
- ・酒井禎子, 加藤光寶, 直成洋子, 飯田智恵, 内藤知佐子: 臨地実習でがん患者を受け持った学生が感じている困難, 日本がん看護学会 第2回国際学会学術集会, 2007年2月.
- ・酒井禎子, 加藤光寶, 直成洋子, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 内藤知佐子, 中島紀恵子, 吉村里子, 岸本かず, 加藤あや子, 白井里美, 仲村早苗, 藤田笑子: 豪雪地域で在宅療養を行う療養者とその家族の療養生活の特徴, 第11回日本在宅ケア学会学術集会, 2007年3月.

(4) 研究プロジェクトによる活動

<大学の特別研究費に基づく研究活動>

- ・野地有子, 柿川房子, 加城貴美子, 吉山直樹, 堀良子, 直成洋子, 岡本典子, 長瀬亜岐 (2006): PBLチュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究, 新潟県立看護大学平成17年度学長特別研究費研究報告書, 1-13.

(5) 学会活動

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会,
日本看護教育学学会, 日本がん看護学会, 聖路加看護学会,
日本看護協会

<委員会活動>

第24回関東甲信越地区看護研究学会 準備委員 2003年5月~2004年3月
第8回日本糖尿病教育・看護学会 査読委員 2003年7月
第36回日本看護学会 成人看護I 査読委員 2005年7月

【社会活動】

(1) 研修指導

- ・直成洋子: 平成14年度看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「成人看護学実習(慢性期)(演習)」, 2002年9月~11月.
- ・加藤光寶, 直成洋子, 酒井禎子, 飯田智恵, 樺澤三奈子: 平成15年度看護職員臨地実習指導者養成講習会講師「実習指導の実践2(施設実習)成人看護学実習」, 2003年9月8日~16日.
- ・直成洋子: 新潟県看護協会「看護研究II(実践)研修会」講師, 2004年8月~2005年3月.
- ・直成洋子: 新潟県立看護大学公開講座「専門講座/看護研究ステップアップコース」講師, 平成16年9月~平成17年2月.
- ・直成洋子: 平成18年度看護職員臨地実習養成指導者講習会講師「実習指導の実践1および2 成人看護学実習」, 2006年9月~10月.

(2) 市民活動への参加等

- ・新潟県上越地区糖尿病合併症研究会支援 世話人, 平成16年4月~現在

- ・新潟県上越地区糖尿病内分泌研究会支援 世話人, 平成 16 年 4 月～現在
- ・新潟県上越地区糖尿病療養指導士研究会 アドバイザー, 平成 18 年 12 月.

酒井禎子

【研究活動】

①原著

- ・菱沼典子, 成瀬和子, 酒井禎子, 押川陽子, 森明子, 田代順子 (2002) : 日本の都市型保健所における保健活動の変遷ー1935 年から 1999 年までの東京都中央区の活動ー, 聖路加看護大学紀要, 28 号, 1-17.
- ・菱沼典子, 田代順子, 森明子, 押川陽子, 酒井禎子, 成瀬和子 (2002) : 日本の都市型保健所における看護活動モデループライマリヘルスケアの視点からー, 聖路加看護学会誌, 6(1), 44-50.
- ・射場典子, 小松浩子, 中山和弘, 片桐和子, 林直子, 外崎明子, 酒井禎子 (2005) : 外来・短期入院において継続治療を受けながら生活しているがん患者の適応に関する因果モデルの検討, 日本がん看護学会誌, 19(1), 3-12.
- ・林直子, 小松浩子, 酒井禎子, 射場典子, 外崎明子, 片桐和子 (2006) : Perceived difficulties and coping as predictors of adaptation among cancer nurses, Japan Journal of Nursing Science, 3(2), 131-41.

②その他の論文及び調査報告

- ・加藤光寶, 直成洋子, 酒井禎子, 西脇洋子, 山元智穂 : 成人看護における検討ー「在宅療養」「在宅ケア」に関する文献レビューから見た在宅療養支援のための課題、平成 14 年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書, 25-8, 2003.6
- ・加藤光寶, 直成洋子, 酒井禎子, 西脇洋子, 山元智穂, 本宮みどり, 牧優子, 小野塚栄子, 岡田恵子, 渡辺初美, 熊木留美 : 成人看護における検討ー県内病院の一病棟を退院した患者の実態調査, 平成 14 年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書, 29-32, 2003.6
- ・加藤光寶, 深澤佳代子, 小林優子, 直成洋子, 酒井禎子, 山田正実, 西脇洋子, 山元智穂, 上原美樹 : 成人看護学演習におけるマルチメディア教材の開発 (1)ー看護系大学における学内演習の実態ー, 平成 14 年度学長特別研究費 研究報告書, 15-8, 2003.6
- ・酒井禎子 : がん看護における代替・補完療法の導入の現状とその効果に関する文献レビューーアロマセラピー・リラクセーション・マッサージに焦点をあててー, 平成 14 年度学長特別研究費 研究報告書, 65-8, 2003.6
- ・酒井禎子 : 危機理論 (モデル) の理解と実践への適用②, がん看護, 8(4), 336-9, 2003.7
- ・加藤光寶, 直成洋子, 酒井禎子, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 本宮みどり, 牧優子, 小野塚栄子, 岡田恵子, 渡辺初美, 熊木留美 : 退院状況の実態に関する研究ー入院延長の要因の検討, 平成 15 年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書, 33-40, 2004.6
- ・加藤光寶, 深澤佳代子, 小林優子, 直成洋子, 酒井禎子, 山田正実, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 今泉香里 : 成人看護学演習におけるマルチメディア教材の開発 (2)ー救急蘇生演習に使用した効果ー, 平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 28-34, 2004.6
- ・岡村典子, 大久保明子, 阿部正子, 金井幸子, 柏木夕香, 酒井禎子 : 看護を基盤においた「いのち」に関する諸問題の学際的な一考察, 平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 22-7, 2004.6
- ・加藤光寶, 直成洋子, 酒井禎子, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 内藤知佐子, 中津美津子, 根建真由美, 海津

希, 白井里美:新潟県内の豪雪地域における退院状況の実態に関する研究、平成 16 年度看護研究交流センター年報, 25・30, 2005.6

・酒井禎子, 大久保明子, 阿部正子, 岡村典子, 戸田(金井)幸子:看護職が認識しているスピリチュアリティに関する研究、平成 16 年度 学長特別研究費研究報告書, 14・21, 2005.6

・柿川房子, 松下由美子, 酒井禎子:カンボジアにおけるがん患者と家族のケア状況に関する研究、平成 17 年度 学長特別研究費研究報告書, 20・27, 2006.6

・加藤光寶, 直成洋子, 酒井禎子, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 内藤知佐子, 中島紀恵子, 吉村里子, 岸本かず, 加藤あや子, 白井里美, 仲村早苗, 藤田笑子:豪雪地域の在宅療養を支援する継続看護に関する研究—豪雪地域で在宅療養を行う療養者とその家族の療養生活の特徴, 平成 17 年度看護研究交流センター年報, 45・52, 2006.7

③学会発表

・射場典子, 橋爪可織, 小松浩子, 川越博美, 酒井禎子:ターミナルケアにおけるチームアプローチの理解を促す新たな学習展開の試み—シンポジウム形式を導入した4年間を振り返って—, 第 26 回日本死の臨床研究会(於群馬音楽センター), 2002.11

・酒井禎子:The Use and Effect of Alternative and Complementary Therapy on Cancer Nursing in Japan:The Literature Review of Aromatherapy, Relaxation and Massage, 13th international conference on cancer nursing 2004 (於シドニー コンベンション&エキシビション センター), 2004.8

・林直子, 小松浩子, 射場典子, 中山祐紀子, 飯岡由紀子, 安保英勇, 中山和弘, 松崎直子, 村岡宏子, 酒井禎子, 宇城令, 村上好恵, 富田美和, 野村美香:がん集学的アプローチに対する患者の認識, 第 19 回日本がん看護学会学術集会 (於仙台サンプラザ), 2005.2

・宇城令, 小松浩子, 射場典子, 林直子, 中山祐紀子, 飯岡由紀子, 安保英勇, 中山和弘, 松崎直子, 村岡宏子, 酒井禎子, 村上好恵, 富田美和, 野村美香:がん集学的アプローチの現状と課題—医療者へのヒアリング調査—, 第 19 回日本がん看護学会学術集会 (於仙台サンプラザ), 2005.2

・酒井禎子:臨床でがん看護研究に取り組む看護師が体験している困難, 聖路加看護学会第 10 回学術大会 (於聖路加看護大学), 2005.9

・大久保明子, 岡村典子, 酒井禎子, 阿部正子:日本の看護職のスピリチュアリティに関する認識(1)—「スピリチュアリティ」に対する知識とイメージに焦点をあてて—, 第 25 回日本看護科学学会学術集会 (於青森市文化会館), 2005.11

・酒井禎子, 大久保明子, 岡村典子, 阿部正子:日本の看護職のスピリチュアリティに関する認識(2)—スピリチュアリティを考えた体験に焦点をあてて—, 第 25 回日本看護科学学会学術集会 (於青森市文化会館), 2005.11

・富田美和, 小松浩子, 安保英勇, 松崎直子, 飯岡由紀子, 鈴木久美, 中山和弘, 射場典子, 村上好恵, 林直子, 市川和歌子, 村岡宏子, 酒井禎子, 野村美香:Multidisciplinary approach of breast cancer in Japan—A survey of patients with breast cancer—, 日本がん看護学会第2回国際学術集会 (於東京国際フォーラム), 2007.2

・村上好恵, 小松浩子, 中山和弘, 射場典子, 村岡宏子, 酒井禎子, 鈴木久美, 安保英勇, 松崎直子, 富田美和, 飯岡由紀子, 林直子, 市川和歌子, 野村美香:Multidisciplinary approach of breast cancer in Japan—A survey of out patient nurse managers—, 日本がん看護学会第2回国際学術集会 (於東京国際フォーラム), 2007.2

・酒井禎子, 加藤光寶, 内藤知佐子, 飯田智恵, 直成洋子:Nursing Students' difficulties in caring for cancer

patients, 日本がん看護学会第2回国際学術集会（於東京国際フォーラム）, 2007.2

・柿川房子, 酒井禎子: Research on caring situations regarding patients with cancer and their families in Cambodia, 日本がん看護学会第2回国際学術集会（於東京国際フォーラム）, 2007.2

・酒井禎子, 加藤光實, 直成洋子, 飯田智恵, 樺澤三奈子, 内藤知佐子, 中島紀恵子, 吉村里子, 岸本かず, 加藤あや子, 白井里美, 仲村早苗, 関川笑子: 豪雪地域で在宅療養を行う療養者とその家族の療養生活の特徴, 第11回日本在宅ケア学会学術集会(於埼玉県立大学), 2007.3

【研究プロジェクトによる活動】

① 研究指導

平成14年4月 県立がんセンター新潟病院 看護部 看護研究指導（現在に至る）

平成16年4月 南部郷厚生病院 看護部 看護研究指導（現在に至る）

高柳智子

【研究活動】

① 原著

- ・高柳智子(2002): 医療用粘着テープの剥離方法に関する基礎的研究, 福井医科大学研究雑誌, 3(1・2 合併), 25-30
- ・高柳智子(2003): 高齢者への医療用粘着テープの剥離方法に関する研究—皮膚への影響に対する剥離角度の検討—, 老年看護学, 8(1), 14-21
- ・高柳智子(2004): 車椅子移乗動作における移乗方向と配置角度の検討—片麻痺装具による基礎実験を行って—, 第35回日本看護学会論文集 看護総合, 255-257
- ・池端三永子, 岡山弥里, 高柳智子(2004): 皮膚刺激を軽減させる医療用粘着テープの剥離角度の検討, 福井医科大学研究雑誌, 5(1・2 合併), 7-13
- ・高柳智子, 増田佳絵, 西川順子(2004): 脳卒中片麻痺患者における車椅子移乗動作の検討—車椅子配置方向による比較—, 第35回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ, 310-312
- ・高柳智子, 松平裕佳, 山田由佳里他(2005): 特別養護老人ホーム入所者における主観的幸福感の特徴—通所系サービス利用高齢者との比較—, 第35回日本看護学会論文集 老年看護, 50-52
- ・高柳智子, 田中裕子, 野崎祥子(2005): 医療用粘着テープの剥離方法が高齢者の皮膚に与える影響—皮膚の押えの有無による剥離刺激の比較—, 日本看護学会誌, 15(1), 44-53
- ・高柳智子, 小河育恵, 高山成子他(2006): 通所系サービス利用開始1年間における在宅高齢者の主観的幸福感の変化とその関連要因, 第36回日本看護学会論文集 老年看護, 178-180
- ・高柳智子, 吉川日和子(2006): ベッド—車椅子間の移乗介助における介助者・被介助者の身体負担の検討, 第37回日本看護学会論文集 看護教育, 348-350
- ・高柳智子(2007): 看護職・介護職による移乗介助方法の実態とその要因, 第37回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ, 538-540
- ・高柳智子, 吉田知里, 福田純子(2007): ポリウレタンフィルムドレッシング材の剥離角度が皮膚に及ぼす影響, 日本看護学会誌, 16(1), 30-39

② その他の論文および調査報告

- ・ 西田直子, 高柳智子(2002): 患者移動のエビデンス, 臨牀看護 臨時増刊号, 28(13), 2024-2033
- ・ 高柳智子, 吉川日和子, 金井香織他(2005): 移乗介助動作における介助者・被介助者の身体負担に関する研究, 第15回フランスベッド・メディカルホームケア研究助成財団 研究助成・事業報告書
- ・ 高柳智子(2005): 患者さんのみかた 片麻痺のある患者さんの看護, クリニカルスタディ, 26(8), 6-12
- ・ 高柳智子(2007): 看護過程ガイダンス クモ膜下出血, ナーシングカレッジ, 11(1), 23-40

③著書

- ・ 松本秀男, 高柳智子(2003): 運動器疾患, 看護に活かす疾患の知識 上, 186-222, 医学芸術社, 東京
- ・ 岡部正, 高柳智子(2003): 代謝疾患, 看護に活かす疾患の知識 上, 224-236, 医学芸術社, 東京
- ・ 片桐秀昭, 高柳智子(2003): 内分泌疾患, 看護に活かす疾患の知識 上, 238-264, 医学芸術社, 東京
- ・ 高柳智子(2006): 移動, 阿部芳江編, 高齢者ケア「疑問すっきり」便利辞典, 115-118, 金芳堂, 京都
- ・ 高柳智子(2006): 骨折時および防止のためのケア, 阿部芳江編, 高齢者ケア「疑問すっきり」便利辞典, 161-164, 金芳堂, 京都

渡部真奈美

【研究活動】

① 原著

渡部真奈美 (2007): 小児看護に従事する男性看護師の実態—看護管理者に対する質問紙調査から—, 女子栄養大学教育学研究室紀要 第7号, 3-12.

② その他の論文及び調査報告

文部省科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書 課題番号 10672256

(研究代表者 筒井真優美) 看護系大学における小児看護学実習の実態と方向性

平成14年3月

伊藤久美, 阿部さとみ, 込山洋美, 長田暁子, 飯村直子, 江本リナ, 筒井真優美, 安田恵美子, 小村三千代, 福地麻貴子, 渡部真奈美 (2002): 看護系大学の小児看護学実習施設における倫理的配慮, 「日本小児看護学会誌」, 11(2), 7-12.

③ 学会発表

渡部真奈美, 小平京子, 豊田省子, 島田由美子, 田口ヨウ子: 継続性のある成人看護学実習指導の試み—学習困難な学生に対する継続的な指導— 平成14年7月 第22回日本看護教育学会(札幌市)

渡部真奈美: 小児看護学実習における他職種との連携 平成17年10月 第52回日本小児保健学会(下関市)

田代美江子, 艮香織, 茂木輝順, 鈴木幸子, 篠原久枝, 橋本紀子, 広瀬裕子, 池谷壽夫, 小宮明彦, 渡部真奈美: 日本の中学校における性教育の実態 平成19年8月 第3回アジア性教育学術集会(東京)

渡部真奈美: 小児看護に従事する男性看護師の実態—看護管理者に対する質問紙調査から—

平成19年8月 日本教育学会第66回大会(東京都)

鈴木幸子, 渡部真奈美, 橋本紀子, 田代美江子, 篠原久枝, 広瀬裕子, 艮香織, 茂木輝順

中学生の保護者を対象とする子どもの性教育に関する実態調査 平成19年11月 第3回APACPH国際会議(埼玉県)

④ 著書

国家試験攻略法 小児看護学 平成 16 年 12 月 「クリニカルスタディ」第 25 巻第 14 号 pp.73-74

⑤ その他の発表

女子栄養大学科研費 海外調査（フィンランド ヘルシンキ大学との合同ミーティングにおいて日本の性感染症に関する実態の報告）

【研究プロジェクトによる研究活動】

① 研究班による活動

女子栄養大学 科学研究費「10 代の性感染症急増下の日本における性教育の実態と課題」
研究協力者

山田正実

【研究活動】

<原著論文>

小林優子, 山田正実, 加藤光實 (2003): 臨地実習の成果 看護基礎教育における救急看護, クリティカルケア看護の教育方法 救命救急センターにおける実習の学習内容と方法の検討, 看護教育 44 巻 2 号,
山田正実, 細江容子 (2005): 脳卒中患者の家庭介護を可能とする資源獲得のための促進要因, 家族関係学 24 号,

山田正実, 今泉香里 (2007): 演習から実習へと積み上げられる学習支援—急性期看護における家族援助, 第 37 回日本看護学会論文集-看護教育-,

<その他の論文及び調査報告>

山田正実, 水沢美紀子 (2003): 看護過程レクチャー 急性肺炎患者の看護 アセスメントの基本, クリニカルスタディ, Vol.25 (5)

水沢美紀子, 山田正実 (2003): 看護過程レクチャー 急性肺炎患者の看護 事例展開, クリニカルスタディ, Vol.25 (5)

<学会発表>

山田正実 (2002): 障害者をかかえた家族の家族機能回復過程 脳卒中患者の入院から退院まで, 第 9 回日本家族看護学会, 山形県盛岡市

山田正実, 加藤光實 (2004): リハビリテーション看護実習における『かかわり技法』演習の効果, 第 24 回関東甲信越地区看護研究学会, (2004 年 10 月の新潟中越地震のため学会が中止されたが、学会抄録集として発表された)

山田正実, 今泉香里 (2006): 演習から実習へと積み上げられる学習支援—急性期看護における家族援助, 第 37 回日本看護学会-看護教育-, 愛媛県松山市

山田正実 (2006): 新人看護師の家族ケアに関わる実践能力の成長に関する一考察—卒後 2 年目看護師と 3 年目看護師の体験と思いの比較から—, 日本家族看護学会第 13 回学術集会, 広島県広島市

大久保明子

【研究活動】

① 論文発表

和田佳子・大久保明子(2002):母性および小児看護学実習における看護学生の対児感情との変化, 新潟県立看護短期大学紀要 第8巻, 11-16.

大久保明子(2003):小児のターミナルケアの視座における看護教育—教材の開発と教育実践の可能性—, 上越教育大学 大学院 修士論文.

大久保明子・坂本絵美子・得丸定子(2003):死別のトラウマに関する教材開発, 日本教材学会教材学研究 第14巻, 173-176

金井幸子・大久保明子・加固正子(2003):入院している子どもの母親へのコラージュ作成効果, 第34回日本看護学会論文集—小児看護—, 73-84.

加固正子・大久保明子・金井幸子(2004):救急外来における小児看護学の課題分析, 外来小児科VOL.7 NO.1, 53-55.

大久保明子 (2004):講義用CD-ROM教材「子どものターミナルケア」の開発と学習効果, 日本看護学会誌VOL.14 NO.1, 59-67.

大久保明子・金井幸子・加固正子(2004):VTR教材「NICUの概要」の開発と有効性, 第35回日本看護学会論文集—小児看護—, 161-163.

田村芳子・大久保明子・北上智子他(2003):白血病の子どもへの病名告知を決意した母親の思い, 第35回日本看護学会論文集—小児看護—, 15-17.

加固正子・大久保明子・藤巻ゆかり・宮下真理子(2005):小児救急における電話トリアージに対する救急外来看護師の意識, 第36回日本看護学会論文集—小児看護—, 259-261.

大久保明子・加固正子・藤巻ゆかり・佐藤理加・池亀法恵・宮下真理子(2005):A総合病院救急外来における小児救急の現状と課題, 第36回日本看護学会論文集—小児看護—, 262-264.

② 報告書

大久保明子・加固正子・金井幸子(2003):小児看護学におけるマルチメディア教材の開発—生命予後不良の疾患を持つ子どもと家族の看護, NICU看護に関する教材—, 平成14年度学長特別研究費研究報告書, 25-28.

加固正子・大久保明子・金井幸子(2003):救急外来看護師が感じている小児看護の課題, 平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 45-49.

得丸定子・田宮仁・藤腹明子・カール・ベッカー・大久保明子ほか(2003):「日本的いのち教育」のためのマルチメディア教材開発～自殺予防・トラウマに関する教材～, 平成15年度松下視聴覚教育助成成果報告集, 73-84.

加固正子・大久保明子・金井幸子(2004):小児救急医療に関する保護者の要望—上越地域の質問紙調査結果から—, 平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 51-58

大久保明子・加固正子・金井幸子(2004):小児看護学におけるマルチメディア教材の開発—「NICUの概要」VTR教材の有用性, 平成15年度学長特別研究費研究報告書, 50-54.

岡村典子・大久保明子・阿部正子・金井幸子・柏木夕香・酒井禎子(2004):看護を基盤に置いた「いのち」に関する諸問題の学際的な一考察, 平成15年度学長特別研究費研究報告書, 22-27.

酒井禎子・大久保明子・阿部正子・岡村典子・戸田(金井)幸子(2005):看護職が認識しているスピリチュアリティに関する研究, 平成16年度学長特別研究費研究報告書, 20-27.

大久保明子 (2006) : 化学療法中の小児がん患者の嗜好変化と食事の援助に関する研究, 平成 17 年度学長特別研究費研究報告書, 64-69.

加固正子・大久保明子・金井幸子 (2007) : 看護師による小児救急「電話トリアージ・マニュアル」の有用性, 平成 16~17 年度科学研究補助金 (基礎 C) 研究成果報告書

③ その他の論文

大久保明子 (2006) : 小児救急場面で必要なトリアージの知識, こどもケア VOL1.NO.5, 日総研, 73-77

④ 学会発表

大久保明子・得丸定子 : 「子どものターミナルケア」の教材開発と授業評価, 新潟県看護研究学会, 2002.11.

金井幸子・大久保明子・加固正子 : 小児看護学実習評価表を用いた実習目標達成度の検討-学生の自己評価と教員評価の比較, 日本小児看護学会第 13 回学術集会, 2003.7.

大久保明子・得丸定子 : 「子どものターミナルケア」のための CD-ROM 教材の開発とその有用性-講義用・個人学習用教材-, 第 34 回日本看護学会-看護教育-, 2003.8.

加固正子・大久保明子・金井幸子 : 救急外来における小児看護学の課題分析, 第 13 回日本外来小児科学会, 2003.8.

和田佳子・大石武信・大久保明子・花沢成一 : 母性・小児看護学実習が看護学生の対児感情に及ぼす影響, 日本心理学会第 67 回大会, 2003.9.

金井幸子・大久保明子・加固正子 : 入院している子どもの母親へのコラージュ作成効果, 第 34 回日本看護学会-小児看護-, 2003.9.

大久保明子・金井幸子・加固正子 : VTR 教材「NICU の概要」の開発と有効性, 第 35 回日本看護学会-小児看護-, 2004.9.

田村芳子・大久保明子・北上智子・佐藤正子・山崎加代子 : 白血病の子どもへの病名告知を決意した母親の思い, 第 35 回日本看護学会-小児看護-, 2004.9.

金井幸子・大久保明子・加固正子 : 人工呼吸器を装着し在宅療養中の児の母親の困難と要望, 第 35 回日本看護学会-小児看護-2004.9.

加固正子・大久保明子・金井幸子 : 小児救急医療受診状況と保護者の認識-上越管内における質問紙調査結果から, 第 51 回日本小児保健学会, 2004.10.

大久保明子・得丸定子 : 教員養成大学における「いのちの授業」, 第 28 回日本死の臨床研究会, 2004.11.

大久保明子 : 小児がん患者の看護の「困難さ」と「やりがい」, 日本小児看護学会第 15 回学術集会, 2005.7.

大久保明子・得丸定子 : 大学生の「死と死後の不安」と「宗教観」に関する調査, 第 1 回仏教看護・ビハーラ学会, 2005.8.

得丸定子・大久保明子 : ペットロスに関する意識調査, 第 1 回仏教看護・ビハーラ学会, 2005.8.

加固正子・大久保明子 : 子どもの保護者による救急外来看護師の電話対応に対する評価, 第 53 回日本小児保健学会, 2005.10.

大久保明子・得丸定子 : 死と死後の不安に関する日本と韓国大学生の比較, 第 29 回日本死の臨床研究会, 2005.11.

大久保明子・岡村典子・酒井禎子・阿部正子 : 日本の看護職のスピリチュアリティに関する認識 (1) - 「スピリチュアリティ」に対する知識とイメージに焦点をあてて -, 第 25 回日本看護科学学会学術集

会, 2005.11.

酒井禎子・大久保明子・岡村典子・阿部正子：日本の看護職のスピリチュアリティに関する認識（2）
ースピリチュアリティを考えた体験に焦点をあててー, 第25回日本看護科学学会学術集会, 2005.11.

土田涼子・藤澤和恵・奥田喜久子・榎本智恵・高岡幹子・大久保明子：当院無菌室（BCR）に入室した患者のADL実態調査ーBI(Barthel Index)評価表を用いてー, 第28回日本造血細胞移植学会総会, 2006.2.

大久保明子：化学療法中の小児がん患者の嗜好変化に関する研究, 日本小児看護学会第16回学術集会, 2006.7.

加固正子・大久保明子：救急外来看護師の勤務の現状と小児救急トリアージ, 第8回日本救急看護学会学術集会, 2006.10.

大久保明子：がん化学療法を受けている子どもの栄養分析, 日本看護科学学会 第26回学術集会, 2006.12.

【社会活動】

① 学会・研究会

日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本小児保健学会、日本外来小児科学会、日本小児がん看護研究会、日本がん看護学会、日本看護技術学会、日本看護教育学会、日本救急看護学会、日本死の臨床研究会、仏教看護・ビハーラ学会、新潟小児看護研究会

② 委員会活動

新潟小児看護研究会 役員（平成16年5月～現在に至る）

③ 社会教育活動

新潟県立がんセンター新潟病院 平成16年度看護部研究指導 平成16年4月～平成17年3月
上越教育大学 非常勤講師「体験的いのち教育～看護師の立場から～平成16年5月上越教育大学
研究プロジェクト・セミナー 講義及びシンポジウム「医療におけるスピリチュアリティ～がん終末期患者に焦点をあてて～」平成16年7月

上越教育大学 非常勤講師「体験的いのち教育～看護師の立場から～」平成17年7月

上越教育大学一般公開講座「いのち再考～始まりと終わり～」(4回シリーズ) 平成17年7月～8月

新潟県立がんセンター新潟病院 平成17年度看護部研究指導 平成17年4月～平成18年3月

独立行政法人国立病院機構新潟病院 平成17年度看護部研究指導 平成17年4月～平成18年3月

上越市立頸城中学校「みんなで話そうー看護の出前授業ー」平成18年6月

新潟県立がんセンター新潟病院 看護部研修会 「看護倫理とはー看護に必要な倫理観についてー」平成18年9月

上越市立頸城中学校 「職業を通して学ぶ命の大切さ」 平成18年10月

西方真弓

【研究活動】

① その他の論文及び調査報告

西方真弓 (2004)：母体搬送となった妊産婦の搬送時から分娩までの心理的变化に関する研究, 平成15年

度学長特別研究費研究報告書, 103-108.

西方真弓 (2005) : 母体搬送となった女性の搬送時から産後1ヶ月までの心理的变化に関する研究—母体搬送で入院した女性の出産から親役割獲得のプロセス, 平成16年度学長特別研究費研究報告書, 78-82.

西方真弓 (2007) : 母体搬送を経て出産に至った女性の経験における認知プロセスに関する研究, 新潟大学大学院保健学研究科修士論文.

②学会発表

石黒さゆり, 西方真弓, 細川孝子, 吉川博子, 柳瀬徹, 益田陽子, 田中菜穂子, 橋本雅子, 藤井青 : 産婦人科領域におけるプレコシヨンのSSI サーベイランスによる評価, 第18回日本環境感染学会, 2003年2月(横浜).

西方真弓 : 母体搬送となった妊産婦の搬送時から分娩までの心理的变化, 第45回日本母性衛生学会, 2004年9月(東京).

西方真弓 : 母体搬送となった女性が周囲の人におよぼされた心理的影響, 第19回日本助産学会学術集会, 2005年3月(京都)

西方真弓 : 母体搬送を経て出産に至った女性の体験, 第47回日本母性衛生学会, 2006年11月(名古屋).

【社会活動】

①学会・研究会

日本看護科学学会, 日本助産学会, 日本母性衛生学会

飯田智恵

【研究活動】

① 原著

- ・ 飯田智恵, 山本昇 (2004) : 低温熱傷発症条件に関する実験的検討, 日本看護研究学会誌, 27 (1), 43-50
- ・ 本戸史子, 齋野貴史, 岩永秀子, 高山栄, 飯田智恵, 山本昇 (2006) : 接触圧と加温温度の相乗効果による低温熱傷発症—マウスを用いての実験的検討—, 北里看護学誌, 7 (1), 1-9

② 学会発表

- ・ 飯田智恵, 山本昇 : 低温熱傷発症条件に関する実験的検討, 第29回日本看護研究学会学術集会, 大阪, 2003年7月
- ・ 飯田智恵, 加藤光寶, 直成洋子, 酒井禎子, 樺澤三奈子, 他8名 : 新潟県内病院の一病棟における退院状況の実態調査—入院延長群と非延長群の比較—, 第24回関東甲信越地区看護研究学会, 新潟, 2004年11月

【社会活動】

- ・ 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会実習「指導の実践2 成人看護学実習」指導 (2003年～2006年)
- ・ 新潟県立中央病院看護研究指導 (2005年)

内藤知佐子

【研究活動】

(1) その他の論文及び調査報告

・加藤光實、直成洋子、酒井禎子、飯田智恵、樺澤美奈子、内藤知佐子、中津美津子、根建真由美、海津希、白井里美（2006）：新潟県内の豪雪地域における退院状況の実態に関する研究、平成16年度 看護研究交流センター年報、p 25-30

・加藤光實、直成洋子、酒井禎子、飯田智恵、樺澤美奈子、内藤知佐子、中島紀恵子、吉村里子、岸本かず、加藤あや子、白井里美、仲村早苗、藤田笑子（2006）：豪雪地域の在宅療養を支援する継続看護に関する研究—豪雪地域で在宅療養を行なう療養者とその家族の療養生活の特徴—、平成17年度 看護研究交流センター年報、p 45-50

(2) 学会発表

・武田 織枝、内藤 知佐子、伊藤 志保、木村 紫乃、加藤 光實：「当院透析室の糖尿病性腎症患者の足病変の実態—ローカス・オブ・コントロールを用いて—」、第26回日本アフエレンス学会、滋賀、2006年7月

・酒井禎子、加藤光實、直成洋子、飯田智恵、樺澤美奈子、内藤知佐子：Nursing students' difficulties in caring for cancer patients（臨地実習でがん患者を受け持った学生が感じている困難）、日本がん看護学会 第2回 国際学術集会 示説発表、東京、2007年2月

・酒井禎子、加藤光實、直成洋子、飯田智恵、樺澤美奈子、内藤知佐子、中島紀恵子、吉村里子、岸本かず、加藤あや子、白井里美、仲村早苗、関川笑子：豪雪地域で在宅療養を行なう療養者とその家族の療養生活の特徴、第11回 日本在宅ケア学会 示説発表、埼玉、2007年3月

【社会活動】

(1) 研究指導

平成17年度 新潟県立中央病院 主任者研修 看護研究

石岡幸恵

【研究活動】

<その他の論文等>

1. 石岡幸恵：新潟県の上越地域における若年層の乳がんに対する認識の調査（平成18年度学長特別研究費による研究）

<共同研究>

1. 深澤佳代子、山田正実、石岡幸恵、佐藤和美、込田啓子：新潟中越地震の急性期看護に従事した看護師のメンタルヘルスに関する研究（平成17年度看護研究交流センター研究部会活動における研究）

【社会活動】

1. 新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会臨地実習指導（平成17年～18年）

横田陽子

【社会活動】

学会・研究会：日本看護科学学会，周産期メンタルヘルス研究会

V. 地域生活看護学領域

野地有子

【研究活動】

① 原著

- ・ 野地有子(2002)：米国在住の日本人女性の更年期の経験に関する研究－社会・文化的な環境要因と医療システムに焦点をあてて－，日本更年期医学会誌，10(2)，216－224.
- ・ 野地有子(2002)：看護系大学の評価基準，看護教育，43(7)，552－555.
- ・ 野地有子(2002)：クリティカルシンキングと教育方法，看護教育，43(11)，918－925.
- ・ 加藤欣子，平野憲子，野地有子他(2002)：看護学生の在宅看護実習に対する訪問看護ステーション指導者の受け止め－フォーカスグループ・インタビューの手法を用いて－，札幌医科大学保健医療学部紀要，5，65－77.
- ・ Thurkettle, MA, 野地有子(2002)：米国における看護ケースマネジメント(1)医療のリンクピン－看護ケースマネジメントの特徴－，Quality Nursing，8(7)，65－73.
- ・ Thurkettle, MA, 野地有子(2002)：米国における看護ケースマネジメント(2)ヘルスケアのパラダイムシフト－健康パラダイムにおける看護ケースマネジメントの役割－，Quality Nursing，8(8)，67－73.
- ・ Thurkettle, MA, 野地有子(2002)：米国における看護ケースマネジメント(3)ケースマネジメントにおける情報システム－全組織におよぶ効果，Quality Nursing，8(9)，61－69.
- ・ 野地有子(2002)：アメリカの Commission on Collegiate Nursing Education(1)CCNE の概要と認定のスタンダード，Quality Nursing，8(9)，15－22.
- ・ 野地有子(2002)：アメリカの Commission on Collegiate Nursing Education(2)CCNE の認定のプロセスとエビデンスの例，Quality Nursing，8(9)，23－28.
- ・ 野地有子(2002)：アメリカの Commission on Collegiate Nursing Education(3)CCNE の訪問審査員のトレーニング，Quality Nursing，8(9)，29－32.
- ・ Thurkettle, MA, Noji, A(2003)：A Health Care System Lincpin, Lippincott's Case Management, 8(2)，78-87.
- ・ Thurkettle, MA, Noji, A(2003)：Information Management as a Process and Product of Case Management, Lippincott's Case Management, 8(3)，117-121.
- ・ Thurkettle, MA, Noji, A(2003)：Shifting the Health Care Paradigm: The Case Manager's Opportunity and Responsibility, Lippincott's Case Management, 8(4)，160-165.
- ・ 野地有子(2003)：コメディカルに期待されること－ケースマネジメント機能の開発と実践－，日本更年期医学会誌，11(1)，56－59.
- ・ 長谷川真澄，丸山知子，野地有子，工藤隆一(2004)：中高年女性の月経プロフィールと対処行動，日本更年期医学会誌，12(2)，274－284.
- ・ 長瀬亜岐，野地有子(2005)：高齢脳卒中患者の食に関する意識構造と再発予防にむけた食事指導のあり方，日本老年看護学会誌，10(1)，87－94.
- ・ 野地有子(2005)：The Japan Nurses' Health Study にみる女性の健康，クリニカルプラクティス，24(7)，761－764.

② その他の論文および調査報告

- ・ 野地有子(2002) : Menopause Reunion: Lifestyle Modification Experiences of Japanese Women, Medical Science Report 2002, Sapporo Medical University Foundation for Promotion of Medical Science, 196-197.
- ・ 野地有子(2002) : 米国サンディエゴ大学看護学部を採用している大学評価基準のひとつー看護教育プログラムの学部と大学院における認定基準 : 高等看護教育委員会, 日本看護クリティカルシンキング研究会誌, 2(1), 2-4.
- ・ 野地有子, 堀良子, 岡村典子他(2005) : 看護領域別演習科目におけるPBLチュートリアル導入の効果と課題, 平成16年度新潟県立看護大学学長特別研究費報告書, 1-13.
- ・ 野地有子, 朝倉京子, 飯吉令枝ほか (2005) : 農村地域における中高年女性の健康課題の分析とまちの保健室開設にむけたアクションリサーチ, 平成16年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 1-10.
- ・ 中島紀恵子, 野地有子, 北川公子他(2005) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康の実態調査報告書, 平成15・16年度地域貢献特別支援事業.
- ・ 籠玲子, 野地有子, 中島紀恵子他(2005) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康の実態, 平成16年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 51-58.
- ・ 野地有子, 丸山知子, 長谷川真澄他 (2006) : 更年期女性の健康課題の分析と看護プログラムの開発, 平成14, 15, 16年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究B(2)研究成果報告書.
- ・ 野地有子, 直成洋子, 岡村典子ほか(2006) : PBLチュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究, 平成17年度新潟県立看護大学学長特別研究費報告書, 1-13.
- ・ 野地有子(2006) : 近代看護～現代看護の歴史的あゆみからみた看護の専門性の確立と質保証に関する研究, 平成17年度新潟県立看護大学学長特別研究費報告書, 45-50.
- ・ 林邦彦, 鈴木庄亮, 野地有子他(2006) : 全国看護師コホートにおける女性の生活習慣と健康に関する経時観察調査, 平成14～17年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究B研究成果報告書.
- ・ 野地有子, 長瀬亜岐, 菅原峰子他(2007) : CBPRアプローチによる地域老年看護実践に関する研究ー上越まちの保健室の看護活動を中心としてー, 平成18年度新潟県立看護大学看護研究交流センター年報.
- ・ 野地有子, 柿川房子, 栗生田友子他 (2007) : 専門看護師の教育に関する研究ー日本および米国のCNS・NPの教育と実践からー, 平成18年度新潟県立看護大学学長特別研究費報告書.

③ 学会発表

<一般演題>

- ・ Noji, A., Hasegawa, M., Maruyama, T. (2002): Experience of Menopause as a Transition Period among Japanese Women, The 8th International Qualitative Health Research Conference, Banff, Canada.
- ・ Hasegawa, M., Noji, A., Maruyama, T. (2002): Self-Image of Aging among Japanese Women, The 8th International Qualitative Health Research Conference, Banff, Canada.
- ・ Kawamura, M., Noji, A., Weingourt, R., Hasegawa, M.(2002): The Role of The Nurse Who Acts Support for a Terminally Ill Women who is Seeking the Meaning of Her Life, The 8th International Qualitative Health Research Conference, Banff, Canada.
- ・ 川村三希子, 野地有子(2002) : 在宅要介護高齢者の介護肯定感・負担感に関する要因について, 日本地域看護学会 (第5回), 高知.

- ・ 種市ひろみ, 野地有子(2002):在宅療養者の自己決定に関する文献検討, 日本地域看護学会 (第5回), 高知.
- ・ Noji, A., Hasegawa, M., Maruyama, T. (2002): Health Behavior of Menopausal Women in Japan, The 10th World Congress on the Menopause, Berlin, Germany.
- ・ Akiyoshi, M., Noji, A., Aso, T., et al.(2002): Evaluation of the Systematic Health and Nutritional Education program by Menopausal Out-patient Clinic, The 10th World Congress on the Menopause, Berlin, Germany.
- ・ 長瀬亜岐, 野地有子(2002):在宅脳卒中患者の食の再構築に関する研究—食に関する意識と栄養状態—, 日本健康・栄養システム学会(第2回), 名古屋.
- ・ 平野憲子, 和泉比佐子, 野地有子他(2002):在宅看護実習の訪問対象者に対する指導者の配慮, 日本看護学教育学会 (第12回), 札幌.
- ・ 野地有子(2002):地域で暮らす高齢者の安全を守る看護プログラム, 聖路加看護学会 (第7回), 東京.
- ・ 野地有子, 長谷川真澄, 丸山知子(2002):更年期女性における健康課題のサブストラクションの検討, 日本更年期医学会 (第7回), 鹿児島.
- ・ 長谷川真澄, 丸山知子, 野地有子, 工藤隆一(2002):中高年女性の月経プロフィールと対処行動, 日本更年期医学会 (第7回), 鹿児島.
- ・ 平野憲子, 和泉比佐子, 野地有子他(2003):在宅看護実習の訪問対象者に対する指導者の配慮, 日本在宅ケア学会 (第7回)
- ・ 和泉比佐子, 加藤欣子, 野地有子他(2003):地域看護学実習における地域の看護アセスメントに対する自己効力感と自己評価の検討, 日本地域看護学会 (第6回)
- ・ 野地有子, 長谷川真澄, 丸山知子(2003):更年期女性保健からみた健康教育のニーズ, 日本健康教育学会 (第12回)
- ・ 川村美希子, 野地有子, 小島悦子(2003):がんサバイバーが生きる意味の変化とサポートグループの影響, 日本緩和ケア学会
- ・ Noji, A., Hasegawa, M., Maruyama, T. (2003): Menopause symptom reporting and WHOQOL-BREF score of working women in Sapporo Japan, North American Menopause Society 14th annual meeting, Miami, USA.
- ・ 野地有子, 長谷川真澄, 丸山知子(2003):35歳~65歳の女性のもつ更年期の認識とイメージ, 聖路加看護学会 (第8回), 東京.
- ・ 長谷川真澄, 野地有子, 丸山知子(2003):中高年女性の更年期の受け止めと保健行動の実態, 日本老年看護学会 (第7回)
- ・ 野地有子, 長谷川真澄, 丸山知子(2003):働く女性における更年期治療およびホルモン補充療法に関する実態, 日本更年期医学会 (第18回)
- ・ 野地有子, 長谷川真澄, 丸山知子(2003):看護師の更年期の受けとめと保健行動, 日本看護科学学会 (第23回)
- ・ Noji, A., Hasegawa, M., Maruyama, T. (2004): Lifestyle and Quality of Life of Middle-aged Working Women in Sapporo, Japan, 5th International Symposium on Women's Health and Menopause, Florence, Italy.
- ・ 種市ひろみ, 平野憲子, 野地有子(2004):介護保険制度における利用決定プロセス, 日本地域看護学会(第7回)

- Noji, A., Lee, JS., hayashi, K., et al.(2004): The Japan Nurses' Health Study: Lifestyle of Nurses from baseline data, JANS 5th International Nursing Research Conference, Fukushima, Japan.
- 野地有子(2004): 地域で暮らす高齢者の安全を守る看護プログラムー第2報アクションプランの作成ー, 聖路加看護学会(第9回), 東京.
- Nakajima, K., Karasawa, C., Noji, A.(2004): Fact-finding study on telephone counseling for the elderly with dementia and family caregivers, 20th International Conference of Alzheimer's Disease International, Kyoto, Tokyo.
- 野地有子, 金一東, 神島滋子他(2004): 在米日本人女性のライフスタイルと更年期に関する保健ニーズ, 日本公衆衛生学会(第63回), 島根.
- 朝倉京子, 野地有子, 飯吉令枝他(2004): 成人女性の主観的健康状態、更年期症状、DV体験とQOLとの関係, 日本公衆衛生学会(第63回), 島根.
- 細川美千恵, 杉下知子, 野地有子他(2004): Japan Nurses' Health Studyにおける看護職の日常生活と健康状態, 日本公衆衛生学会(第63回), 島根.
- 岡谷恵子, 李延秀, 野地有子他(2004): Japan Nurses' Health Studyにおける看護職の勤務時間と日常生活, 日本看護学会(看護管理)
- 野地有子, 飯吉令枝, 朝倉京子他(2004): 女性の健康づくりを支援する「まちの保健室」のフィジビリティの検討, 日本看護科学学会(第24回), 東京.
- 飯吉令枝, 野地有子, 朝倉京子(2004): 女性のセルフケアとQOL, 日本看護科学学会(第24回), 東京.
- Clark, MJ., Noji, A., Curran, C., et al.(2005): Thinking outside the box: Soliciting Women's Voices, Western Institute of Nursing, San Francisco, USA.
- Noji, A., Iiyoshi, Y., et al.(2005): Community Nursing Guidance Clinics in Japan: A new Nursing System in a new setting in Joetsu City, 23rd Quadrenial Congress International Council of Nursing, Taipei, Taiwan.
- Noji, A., Clark, MJ., Curran, C.(2005): Thinking outside the box: Soliciting Women's Voices from the community, Women's World 2005, 9th International Interdisciplinary Congress on Women(第9回世界女性学大会), Seoul, Korea.
- Noji, A., Clark MJ, Curran C, et al.(2005): Menopausal Symptoms and Quality of Life among American, Japanese-American and Japanese Women, The North American Menopause Society, 16th Annual Meeting, San Diego, USA.
- 神島滋子, 野地有子, 金一東(2005): 日米比較による女性の更年期症状とQOLに関する要因ー米国人・在米日本人・日本人との比較, 日本公衆衛生学会(第64回), 札幌.
- 長瀬亜岐, 菅原峰子, 野地有子他(2006): アウトリーチ型上越まちの保健室の展開ー第一報ー来室女性の身体計測値ー, 日本公衆衛生学会(第64回), 富山.
- 小林奈緒子, 柳沢明美, 野地有子他(2006): アウトリーチ型上越まちの保健室の展開ー第二報ー2010中間報告の視点からー, 日本公衆衛生学会(第64回), 富山.
- 野地有子, 飯吉令枝, 長瀬亜岐他(2006): アウトリーチ型上越まちの保健室の展開ー第三報ーパートナーシップの形成と維持ー, 日本公衆衛生学会(第64回), 富山.

<シンポジウム>

- 野地有子(2002): 栄養からみた高齢社会にどう対応するか, 日本健康・栄養システム学会第1回北海

道分科会, 札幌.

- ・ 野地有子(2002): コメディカルに期待されることーケースマネジメント機能の開発と実践ー, 更年期外来における私たちのサポート, 日本更年期医学会, 鹿児島.
- ・ 野地有子(2003): 看護からみた栄養ケアマネジメント, 日本健康・栄養マネジメント学会 (第3回), 東京.

<ワークショップ>

- ・ Asakura, K., Noji, A., Iiyoshi Y.(2004): The nursing guidance clinic in Joetsu city in Japan: Toward action research, JANS 5th International Nursing Research Conference, Fukushima, Japan.

<パネルディスカッション>

- ・ 野地有子(2003): グラウンデッドセオリー・アプローチによる質的研究ー具体例を通してー, 総合診療領域への質的研究導入に向けて, 日本総合診療医学会 (第11回), 札幌.

<ディベート>

- ・ 野地有子, 宇田優子, 内藤靖子他(2004): あなたは地区担当制? それとも業務担当制?, 全国地域保健師学術研究会 (第26回), 新潟.

<交流集会>

- ・ 野地有子, 栗生田友子, 柿川房子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐(2006): CNS看護教育の課題と展望ーCNS 10年にあたってー, 聖路加看護学会(第11回), 東京.
- ・ 久間圭子, 野地有子, 薄井担子(2006): 看護記録電子化の鍵はなにか: イギリスの看護論(RLTモデル) による看護過程, 日本看護科学学会 (第26回), 神戸.

<学会長>

- ・ 野地有子(2002): 日本健康・栄養システム学会第1回北海道分科会(札幌).

④ 著書

- ・ 野地有子(2003): 健康相談, 田中平三 (編), 新・健康管理概論, 101-106, 医歯薬出版, 東京.
- ・ 野地有子(2003): ヘルスヒストリー (健康暦) のガイドライン, 氏家幸子 (監), 成人看護学成人看護技術 I (フィジカルアセスメント) (第2版), 7-20, 廣川書店, 東京.
- ・ 野地有子(2004): 働く女性の健康, 吉澤豊予子(編), 女性生涯看護学, 238-254, 真興交易, 東京.
- ・ 野地有子 (2004): アメリカ・イギリスの公衆衛生の発達と地域看護の変遷, 奥山則子 (編), 標準保健師講座1 地域看護学(第1版), 182-189, 医学書院, 東京.
- ・ 野地有子(2004): 第2章成人保健活動論, 金川克子 (編), 最新保健学講座4 地域看護活動論① (第1版), 93-188, メディカルフレンド社, 東京.
- ・ 野地有子(2004): 性差に注目した生活指導, 麻生武志 (編), 更年期医療のコツと落とし穴, 192-193, 中山書店, 東京.
- ・ 野地有子(2004): 家族援助の留意点とケアプランー看護目標の家族との共有ー, 福地總逸・小平廣子 (編), 訪問看護実践マニュアルー問題点とその対応ー (改訂版), 288-304, 医薬ジャーナル社,
- ・ 野地有子 (2007): アメリカ・イギリスの公衆衛生の発達と地域看護の変遷, 奥山則子 (編), 標準保健師講座1 地域看護学概論(第2版), 182-189, 医学書院, 東京.

⑤ 一般講演

- ・ 野地有子(2002): 健やかな長寿のために, 鹿児島大学多島圏研究センター公開講座, 鹿児島.
- ・ 野地有子(2002): 看護におけるクリティカルシンキング, 南一条病院看護部研修会, 札幌.
- ・ 野地有子(2002): 家族看護, 札幌医科大学病院看護部研修会, 札幌.

- ・ 野地有子(2002)：保健師のリーダーに求められている施策化能力とその実践－提案書の作成について（政策参画と予算獲得のカギ）－平成 14 年度北海道保健所保健師専門技術研修，札幌。
- ・ 野地有子(2002)：女性と看護，新潟県立看護大学平成 14 年度公開講座，上越。
- ・ 野地有子(2003)：現場における研究活動の有効性と大学と大学との連携・協働の意義，平成 14 年度保健所保健師の活動強化に関する研修会，北海道保健福祉部地域医療課看護対策室，札幌。
- ・ 野地有子(2003)：楽しく学ぶクリティカルシンキング，新潟県立看護大学平成 15 年度公開講座，平成 15 年度新潟県実習指導者講習会，上越。
- ・ 野地有子(2003)：実習の評価について，平成 15 年度新潟県実習指導者講習会，上越。
- ・ 野地有子(2004)：楽しく学ぶクリティカルシンキング，新潟県立看護大学平成 16 年度公開講座，平成 16 年度新潟県実習指導者講習会，上越。
- ・ 野地有子(2004)：実習の評価について，平成 16 年度新潟県実習指導者講習会，上越。
- ・ 野地有子(2004)：在宅ケアシステム論，新潟県看護協会平成 16 年度訪問看護師養成講習会，新潟
- ・ 野地有子(2005)：楽しく学ぶクリティカルシンキング，新潟県立看護大学平成 17 年度新潟県実習指導者講習会，上越。
- ・ 野地有子(2005)：更年期の保健，上越農業協働組合婦人部研修会，上越市健康づくり推進課，上越。
- ・ 野地有子(2005)：高齢社会とボランティア，新潟県成人病予防センター研修会，新潟。
- ・ 野地有子(2005)：超高齢社会とボランティア，柿崎市保健福祉課講習会，柿崎。
- ・ 野地有子，長瀬亜岐，菅原峰子他(2005)：まちの保健室(上越)の開設年度における利用状況と看護ニーズ，平成 17 年度日本看護協会まちの保健室成果報告会，東京。
- ・ 野地有子(2005)：在宅ケアシステム論，新潟県看護協会平成 17 年度訪問看護師養成講習会，新潟
- ・ 野地有子(2006)：在宅ケアシステム論，新潟県看護協会平成 18 年度訪問看護師養成講習会，新潟
- ・ 野地有子(2006)：楽しく学ぶクリティカルシンキング，新潟県立看護大学平成 18 年度新潟県実習指導者講習会，上越。
- ・ 野地有子(2006)：まちの保健室と地域活動，平成 18 年度南佐渡四交会研修会，佐渡。

⑥ その他の発表

- ・ 野地有子(2002)：Writing for the Nurse Researcher, 看護研究, 35(1), 87.
- ・ 野地有子(2002)：印象記第 8 回 I Q H R C 2002, 医学界新聞 2488, 3.
- ・ 野地有子(2004)：まちの保健室，看護大通信②，新潟日報 N I C かわら版，185, 4.
- ・ 野地有子(2004)：P B L と図書館の活用，新潟県立看護大学図書館だより，15, 1.
- ・ 野地有子(2005)：世界の看護の動向にコミットし発信する図書館を目指して，新潟県立看護大学図書館だより，17, 1.

⑦ その他の研究活動

<Review Board Member>

- ・ Noji A(2002 以降)：Nursing and Health Sciences

⑧ その他

【研究プロジェクトによる活動】

① 研究班による活動

- ・ 林邦彦（研究代表者），鈴木庄亮，麻生武志，野地有子(女性看護専門委員) 他（2002 年以降）：日本ナースヘルス研究班

- ・ 野地有子 (研究代表者), 長谷川真澄, 中山健夫, Lock M, Woods N 他 (2002~2005): 更年期女性の健康課題の分析と看護プログラム
- ・ 野地有子, 杉山みち子, 麻生武志他 (1997 年以降): 更年期外来における系統的健康養教育システムの開発と実施
- ・ 中山洋子, 野地有子(研究デザインおよび分析・まとめ), 内藤靖子他(2001~2002 年): 中小病院における看護管理システムに関する研究
- ・ 野地有子 (研究代表者), 丸山知子, 長谷川真澄他 (2002): 中高年女性の月経のプロフィールと対処行動
- ・ 川村三希子, 野地有子 (研究デザイン, 分析まとめ), 小島悦子(2002): がんサバイバーの生きる意味の変化とサポートグループの影響
- ・ 和泉比佐子, 加藤欣子, 野地有子 (研究デザイン, 分析まとめ) 他(2002): 地域看護実習における地域の看護アセスメントに対する自己効力感と自己評価の検討
- ・ 平野憲子, 和泉比佐子, 野地有子 (研究デザイン, 分析まとめ) 他(2002): 在宅看護実習の訪問対象者に対する指導の配慮
- ・ 中島紀恵子 (研究代表者), 野地有子(研究デザインおよびデータ収集まとめ), 北川公子他 (2004~2005 年): 豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態
- ・ 野地有子 (研究代表者), 飯吉令枝, 中島紀恵子他(2004~2005 年): 農村地域における中高年女性の健康課題の分析とまちの保健室開設にむけたアクションリサーチ
- ・ 野地有子 (研究代表者), 加藤光實, 富川孝子他 (2004~2005 年): 看護領域別演習科目における PBL チュートリアル導入の効果
- ・ 野地有子 (研究代表者), 飯吉令枝, 菅原峰子, 長瀬亜岐他 (2005 年以降): 上越まちの保健室の展開
- ・ 野地有子 (研究代表者), 柿川房子, 長瀬亜岐他 (2005 年~2006 年): PBL シナリオと教員ワークショップ
- ・ 野地有子 (研究代表者), Mary Jo Clark, Connie Curran 他(2003 年以降): サンディエゴ大学看護学部との国際共同研究
- ・ 野地有子 (研究代表者), 柿川房子, 岡村典子, Ann Mayo 他 (2006~2007 年): CNS 看護教育に関する研究
- ・ 野地有子 (研究代表者), 小林恵子, 平澤則子他 (2005 年以降): CBPR に関する地域老年看護研究

② 研究指導

- ・ 野地有子(2002): がんサバイバーの生きる意味に関する研究 (札幌医科大学大学院保健医療学研究科修士論文: 川村三希子).
- ・ 野地有子(2002): 介護保険制度におけるサービス利用決定プロセス—高齢世帯における訪問看護サービス利用に焦点を当てて— (札幌医科大学大学院保健医療学研究科修士論文: 種市ひろみ).
- ・ 野地有子(2003): 外来脳卒中患者の服薬行動に関する研究—アドヒアランスの視点から—(札幌医科大学大学院保健医療学研究科修士論文: 神島滋子).
- ・ 野地有子(2005): 食道がん患者の食生活変容について—不快症状の経験から、恐怖心を克服しセルフケアを習得するまで— (新潟県立看護大学卒業研究: 藤巻敦子).
- ・ 野地有子(2005): 従業員の定期健康診断に対する意識と保健行動について—健康管理室が整備されている企業において— (新潟県立看護大学卒業研究: 山口美香).

- ・ 野地有子(2005)：事業所における健康管理体制および産業看護活動について－大規模事業所と小規模事業場の比較を通して－（新潟県立看護大学卒業研究：吉田舞子）。
- ・ 野地有子(2006)：地域の防災力について－災害弱者対策の現状と市民の防災に対する意識調査から－（新潟県立看護大学卒業研究：城戸真理子）。
- ・ 野地有子(2006)：活動意欲の低い高齢者に対するアプローチ法－自己の能力にあった活動を引き出す－（新潟県立看護大学卒業研究：成田一絵）。
- ・ 野地有子(2006)：育児期母親の自覚的健康観と健康関連行動について（新潟県立看護大学卒業研究：川口ゆり）。
- ・ 野地有子(2006)：慢性期にあるがんサバイバーの情報ニーズに関する研究（新潟県立看護大学卒業研究：小田倫子）。
- ・ 野地有子，小林恵子，飯吉令枝（2007）：DV関係にある両親の間で育つ子どもの問題－支援者の聞き取りから－（新潟県立看護大学大学院修士課程：佐々木沙織）。
- ・ 野地有子，平澤則子，飯吉令枝（2007）：高額医療費の分析からみた生活習慣病予防への視座（新潟県立看護大学大学院修士課程：小林奈緒子）。
- ・ 野地有子(2007)，要介護高齢者と家族の支援に関する研究（新潟県立看護大学大学院修士課程：上ノ山すみ）。

③ その他

【教員研修会企画運営】

- ・ 野地有子（企画運営），FD委員会(2003)：平成15年度FD合宿研修－PBLスタートに向けて－
- ・ 野地有子（企画運営），研究交流委員会，FD委員会(2004)：看護研究のすすめ方と研究費について（講師：聖路加看護大学小松浩子先生）
- ・ 野地有子（企画運営，通訳），FD委員会(2005)：看護教育におけるPBL（サンディエゴ大学 Dr. Mary Jo Clerk）
- ・ 野地有子（企画運営，通訳），研究推進委員会(2006)：CBPR市民を中心とした研究のすすめかた（ワシントン大学 Dr. Noel Chrisman）
- ・ 野地有子（企画運営），図書委員会(2006)：効果的な文献検索について（聖路加看護大学図書館司書松本直子氏）

北川公子

【研究活動】

1. 原著

- 北川公子，中島紀恵子（2002）：痴呆性高齢者グループホームの今日的課題，日本在宅ケア学会誌，3（5），13-18.
- 北川公子（2002）：痴呆の人の力を生かすグループホームケア，日本痴呆ケア学会誌，1（1），13-19.
- 伊勢崎美和，北川公子（2002）：わが国における痴呆性高齢者のデイケアに関する研究の動向と課題，看護研究，35（5），3-12.
- 北川公子，柏木夕香（2003）：他の疾患を併せ持つ痴呆性高齢者に対する看護とその注意点，臨床老年看護，10（4），73-79.

北川公子, 唐澤千登勢 (2004): 痴呆性高齢者の終末期ケア臨床老年看護, 11 (1), 39-44.
北川公子, 菅原峰子 (2005): アルツハイマー病の初期・中期のケア, 老年精神医学, 16 (10), 1113-1119.
北川公子, 津田さとみ, 菅原峰子 (2005): 痴呆性高齢者のターミナルケアに関する文献概観, 老年看護学, 11 (1), 142-147.

2. その他論文および調査報告

北川公子 (2003): 査読活用のすすめ, 老年看護学, 8 (1), 96-97.
北川公子, 村川英伸 (2005): センター方式の評価と看護の課題 看護の立場から, 介護支援専門員, 7 (5), 33-38.
北川公子, 菅原峰子 (2005): 認知症患者とのコミュニケーションのポイント, 臨床老年看護学, 12 (6), 20-26.
北川公子, 長瀬亜岐 (2005): 骨粗鬆症患者の看護, 臨床看護 (臨時増刊号), 31 (13), 1969-1973.

3. 学会発表

伊勢崎美和, 北川公子, 中島紀恵子 (2002): デイケアにおける痴呆性老人の「生活健康スケール」の検証, 日本老年看護学会第7回学術集会抄録集, 86.
北川公子, 中島紀恵子, 吉井靖子 (2003): 痴呆高齢者の重度期・終末期の進行プロセスに関する事例研究, 老年社会科学 (第45回日本老年社会科学学会大会要旨号), 25 (2), 122.
唐澤千登勢, 中島紀恵子, 北川公子 (2003): 在宅痴呆高齢者のニーズと“関わる”技法に関する考察, 第4回日本痴呆ケア学会大会抄録集, 197.
唐澤千登勢, 北川公子, 中島紀恵子 (2003): 在宅痴呆高齢者の身振り表現の意味分析に関する一考察, 日本老年看護学会第8回学術集会抄録集, 76.
津田さとみ, 菅原峰子, 中島紀恵子, 北川公子, 唐澤千登勢 (2004): 保健医療福祉資源の整備過程にみる痴呆ケアの発展プロセス, 第5回日本痴呆ケア学会大会抄録集, 220.
北川公子, 津田さとみ, 唐澤千登勢, 中島紀恵子 (2004): 痴呆高齢者の重度期・終末期の進行プロセスに関する事例研究: 経管栄養法の導入状況による相違, 日本老年看護学会第9回学術集会抄録集, 138.
北川公子, 菅原峰子 (2005): 認知症高齢者の終末期のプロセスに関する事例研究, 日本看護研究学会雑誌 (第31回日本看護研究学会学術集会), 28 (3), 271.
菅原峰子, 北川公子 (2005): 高齢脳卒中患者の年齢階級別にみたせん妄発症因子の比較分析, 日本看護研究学会雑誌 (第31回日本看護研究学会学術集会), 28 (3), 270.
菅原峰子, 北川公子 (2005): 脳卒中の急性期にせん妄発症した高齢患者の経過と転帰, 日本老年看護学会第10回学術集会抄録集, 117.
菅原峰子, 北川公子 (2006): 熟練看護師が持つ高齢脳梗塞患者のせん妄発症に対する臨床予測に関する研究, 日本老年看護学会第11回学術集会抄録集, 182.
村川英伸, 北川公子 (2006): 新潟県中越大地震により被災した認知症高齢者の生活状況および心身状態の変化, 日本老年看護学会第11回学術集会抄録集, 187.

4. 著書

北川公子 (2002): 第1章Ⅲ老年看護活動領域の多様な広がり (27-34), 第2章Ⅳ排泄のアセスメントと援助技術 (101-108), 第2章Ⅴ移動のアセスメントと援助技術 (109-125), 第2章Ⅷ認知症高齢者のアセスメントと援助技術 (159-173), 第3章事例学習Ⅳ認知症高齢者に対する援助 (219-229), 中島紀恵子監修, 実践看護技術学集支援テキスト「老年看護学」, 日本看護協会出版会, 東京.
北川公子 (2003): 第2巻介護支援サービスと介護サービス, 介護支援専門員テキスト編集委員会編, 改

訂介護支援専門員基本テキスト, 財団法人長寿社会開発センター, 東京.

北川公子 (2005): 第4章高齢化社会における社会保障の動き(62・76), 第7章 B.転倒予防のアセスメントとケアの技法 (184-192), 第10章 C.身体症状のアセスメントと終末期ケア (273-278), D.デイケア、グループホームケア (279-285)、第13章 B.長期療養を主とする病院の看護(246-356), 中島紀恵子著者代表, 系統看護学講座専門20 老年看護学 (第6版), 医学書院, 東京.

北川公子 (2005): 3章シーン別のフィジカルアセスメント 「認知症患者の入院初期には“頭からつま先まで”」, 山内豊明編, フィジカルアセスメントのコツと落とし穴 (Part1), 66, 中山書店, 東京.

北川公子 (2005): 第2章 グループホームケアの実践的方法論, 中島紀恵子編著, 改訂版グループホームケア, (37-80)日本看護協会出版会, 東京.

北川公子 (2007): 第V章 8 終末期にある高齢者と華族の看護, 小玉敏江、亀井智子編著, 改定高齢者看護学, 376-384, 中央法規, 東京.

5. 一般講演

北川公子 (2002): 老人看護研修会「転倒・転落の予防」, 社団法人新潟県看護協会.

北川公子 (2002): 老人性痴呆疾患対策研修「老年期精神科看護概論」, 国立療養所犀潟病院.

北川公子 (2003): 痴呆性老人の看護研修会, 社団法人新潟県看護協会.

北川公子 (2003): 痴呆性高齢者への看護, 社団法人北海道看護協会.

北川公子 (2003): 老人看護における根拠に基づいたインフォームドコンセント, 社団法人新潟県看護協会.

北川公子 (2003): 老年期に多い病気の看護, 社団法人新潟県看護協会.

北川公子 (2004): 痴呆性高齢者の施設でのターミナルケア, 社団法人新潟県看護協会.

北川公子 (2004): 虐待から高齢者を守るには～その原因と対応, 社団法人新潟県看護協会上越地区協会.

北川公子 (2005): 老人福祉施設における看護について, 社団法人新潟県老人福祉協議会第4ブロック研修会.

北川公子 (2005): 看護研究の一連の流れを理解する, 財団法人小千谷総合病院.

北川公子 (2005): 認知症高齢者の看護の役割とその実践, 社団法人北海道看護協会.

6. その他

北川公子 (2002): 日本老年看護学会第7回学術集会「痴呆性高齢者の生活援助とプログラム評価」分科会 座長.

北川公子 (2003): 第45回日本老年社会学会大会「ターミナル」分科会 座長.

北川公子 (2003): 日本老年看護学会第8回学術集会「痴呆ケア」分科会 座長.

北川公子 (2003) 第4回日本痴呆ケア学会大会「各種療法・アクティビティ」分科会 座長.

北川公子 (2004): 第46回日本老年社会学会大会「在宅ケア・介護負担・介護保険」分科会 座長.

北川公子 (2004): 第5回日本痴呆ケア学会大会シンポジウム「小さな暮らしから痴呆ケアを考える」シンポジスト.

北川公子 (2004): 第24回日本看護科学学会学術集会「高齢者の健康と看護」分科会 座長.

北川公子 (2005): 第2回日本神経疾患医療福祉従事者学会シンポジウム「痴呆性高齢者のQOLを支えるケアのあり方」 座長.

【研究プロジェクトによる活動】

1. 研究班による活動

北川公子，検討委員会委員（2002）：平成 14 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）「在宅痴呆性老人ケアに関する実態調査及びマニュアル作成等事業」，検討委員長 中島紀恵子。

北川公子，委員（2003）：平成 15 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業による研究報告書「痴呆性高齢者の暮らしを支援する新たな地域ケアサービス体系の構築に関する調査研究報告書（財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会），研究委員会委員長 杉山孝博。

北川公子，研究会委員（2004）：平成 16 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金「痴呆性高齢者グループホームにおける医療・介護サービスの提供及び利用の実態に関する調査研究」。

北川公子，検討委員，小委員会委員長（2006）：平成 18 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進事業）「訪問看護ステーションに係わる介護保険サービスにおける看護提供体制のあり方に関する研究 訪問看護ステーションの業務基準に関する検討」，検討委員会委員長 川村佐和子。（同研究事業内の専門小委員会「高齢者ターミナルケア」小委員会の委員長をつとめ，委員に原等子，研究協力者として菅原峰子，長瀬亜岐，村川英伸が参画した。）

栗生田友子

【研究活動】

著書

1. 栗生田友子，池美保，乾吉佑，奥宮暁子，加藤辰子，亀井亜子，川井美知子，川尻節子，迫田綾子，佐藤真由美，高野幸子，ほか（金城利雄，奥宮暁子，宮越由紀子編）：リハビリテーション看護における心理アセスメントーこころの状態を捉えるための分析視点ー，（リハビリテーション看護研究 3 リハビリテーション看護における評価(2)ーリハビリテーション看護に活用する心理的評価，医歯薬出版，25・36（全 117 頁），2002（平成 14 年 4 月）
2. 一瀬邦弘，堀川直史，太田喜久子，上垣淳，稲垣卓司，堀口淳，綿貫成明，酒井郁子，竹内登美子，保坂隆，町田いずみ，岸康宏，南川雅子，長谷川真澄，長谷川峰子，山田恵子，井出志賀子，菊地和枝，長谷川久巳，栗生田友子：一瀬邦弘，太田喜久子，堀川直史監修：せん妄を予防するための具体的なケアの方法，せん妄一すぐに見つけてすぐに対応！，照林社，p83・86（全 86 頁），2002（平成 14 年 11 月）
3. 栗生田友子ほか 958 名：和田攻，南裕子，小峰光博監修：看護大事典：（担当部分）老年看護，精神看護に関わる用語，医学書院，（全 3166 頁），2002（平成 14 年 11 月）
4. 栗生田友子ほか 216 名：見藤隆子，児玉香津子，菱沼典子監修：（担当部分）老年看護・精神看護に関する用語，：看護学事典，看護協会出版会，（全 837 頁），2003（平成 15 年 5 月）
5. 栗生田友子ほか：中西純子，石川ふみよ編集：パート 2 実践編，第 5 章 リハビリテーションを必要とする人への援助，3. 障害を負った人の心を支える看護援助，成人看護学シリーズ リハビリテーション看護論，ヌーヴェルヒロカワ，2005（平成 17 年 10 月）
6. 栗生田友子，阿久津清，安達和子，五十嵐雅哉，石鍋圭子，宇川康二，江藤文夫，大森武子，尾花正義，貝塚みどり，坂本倫美，佐藤章，渋谷健一郎，鈴木厚子，塚野信，鶴田明美，中山久美子，成田伊紀，橋本英子，長谷川真美，林佐多子，日沼千尋，古市照人，堀口良江，松浦美紀，弓貞子：貝塚みどり，大森武子，江藤文夫，酒井郁子編：. 第 1 章 リハビリテーション概論，5. 高齢者の心理と障害受容，第 4 章 リハビリテーション看護技術，4. 疾患に対するリハビリテーション看護：⑩統合失調症，改訂 QOL を高めるリハビリテーション看護，医歯薬出版，2005（平成 17 年）

7. 栗生田友子ほか15名(翻訳), 奥宮明子ほか監訳: 第8章心理社会的ヘルスケア, リハビリテーション看護の専門実践・コアカリキュラム, 日本看護協会出版会, 2005 (平成17年1月)

原著・報告

栗生田友子: 糖尿病によるロービジョン患者の障害受容と生活の再構築, 看護技術 48(13)

p62-66, 2002 (平成14年11月)

栗生田友子: ロービジョンケアに関連する看護文献の動向, 看護技術, 48(13), p80-84, 2002 (平成14年11月)

佐藤啓子, 栗生田友子, 小池洋子, 白土睦, 西ヶ谷正子: 専門病院で働く看護師の看護の専門性意識と看護職としての自律性の関連, 第35回日本看護学会論文集—看護管理, P48-P50, 2005 (平成17年3月)

栗生田友子: せん妄アセスメントはどのように行うか—重症度判定, 診断・鑑別に用いるアセスメントツール, EB ナーシング, 6(4), P42-50, 2006 (平成18年9月20日)

清塚理江, 鈴木春美, 栗生田友子, 根本茂代子, 鈴木初子, 添田しげみ, 新保幸子, 志賀利江, 高木光恵, 小平廣子, 中村輝旗: 病棟責任者の身体拘束に関する取り組み姿勢の構造とその要因—A県医療機関における実態調査より—, 第37回日本看護学会論文集—成人看護 I, P249-251, 2007 (平成19年)

報告書

栗生田友子, 鈴木千衣, 高橋信子: 中途失明者の生活移行期における看護の方向性の探求, 2002 (平成14年), 平成12年~13年科学研究費補助金(萌芽研究) 研究報告,

南川雅子, 太田喜久子, 栗生田友子, 長谷川真澄, 橋爪香織, 小松浩子: 看護職者のケア場面に即したせん妄判定基準の開発, 2002 (平成14年), 平成12年~13年科学研究費補助金(基盤研究C(2)) 研究成果報告書

栗生田友子, 長谷川真澄, 南川雅子, 太田喜久子, 橋爪淳子, 山田恵子: 一般病院に入院する高齢患者のせん妄発生に関連する環境とケア因子の探索, 日本看護協会研究費補助金成果報告, 2006 (平成18年) 学会発表

南川雅子, 太田喜久子, 栗生田友子, 長谷川真澄, 橋爪可織: 看護職者のケア場面に即した「せん妄判定基準」の開発, 第7回日本老年看護学会, 神奈川, 2002 (平成14年11月), 第7回日本老年看護学会集録集, p97

栗生田友子, 佐藤啓子, 小池洋子, 白土睦, 西ヶ谷正子: リハビリテーション領域で働く看護職の専門性意識・看護職としての自律性と職務満足・仕事への継続意志との関連, 第5回(通算13回)日本リハビリテーション看護学会, 神奈川県相模原, 2004 (平成16年10月)

佐藤啓子, 栗生田友子, 小池洋子, 白土睦, 西ヶ谷正子: 専門病院で働く看護職の専門性意識と看護職としての自律性と職務満足との関連, 第35回日本看護学会—看護管理—, 徳島, 2004 (平成16年11月)

栗生田友子, 長谷川真澄, 南川雅子, 太田喜久子, 橋爪淳子, 山田恵子, 畑中伸子, 野々村ゆかり, 矢吹スミヨ, 小井川悦子: 入院中の高齢者のせん妄発生にかかわる要因の分析—個の身体要因と環境要因に焦点を当てて—, 第11回日本老年看護学会(宇都宮), 2005 (平成17年11月)

清塚理江, 鈴木春美, 栗生田友子, 根本茂代子, 鈴木初子, 添田しげみ, 新保幸子, 志賀利江, 高木光恵, 小平廣子, 中村輝旗: 病棟トップの身体拘束に関する心情と取り組み姿勢の構造, 2006 (平成18年10月12日13日), 第37回日本看護学会—成人看護 I(京都)抄録集 p194

根本茂代子, 鈴木初子, 栗生田友子, 鈴木春美, 清塚理江, 添田しげみ, 新保幸子, 志賀利江, 高木光恵, 中村輝旗: A県下の病棟責任者の身体拘束に関する取り組みの現状や考えと関連要因, 2006 (平成18年10月25日26日), 第37回日本看護学会—看護管理(大宮)抄録集 p288

添田しげみ, 新保幸子, 志賀利江, 高木光恵, 栗生田友子, 根本茂代子, 鈴木春美, 清塚理江, 鈴木初子, 中村輝旗: A県下の医療機関における病棟責任者からみた身体拘束の現状と課題, 2006 (平成 18 年 10 月 25 日 26 日), 第 37 回日本看護学会—看護管理(大宮)抄録集 p289

栗生田友子, 根本茂代子, 添田しげみ, 新保幸子, 鈴木春美, 清塚理江, 志賀利江, 高木光恵, 鈴木初子, 中村輝旗, 小平廣子: A県内の医療施設における身体拘束の現状と課題—看護職スタッフと病棟トップの捉える実態と取り組みの観点から—, 第 11 回日本老年看護学会, 2006 (平成 18 年 11 月)

講演・シンポジスト

○特別講演

栗生田友子: 看護の場の気づきを活かす看護研究 (特別講演), 平成 14 年 10 月, 平成 14 年度福島県看護学会, 郡山, 平成 14 年度福島県看護学会集録, p. 73

栗生田友子: 技能を通してかかわるこころのケア, 平成 15 年 10 月, 第 29 回日本東洋医学系物理療法学会, 郡山, 第 29 回日本東洋医学系物理療法学会講演集

○シンポジウム

栗生田友子, 南雲直二, 大田仁史ほか: 障害受容とはなにか, 平成 14 年 10 月, 日本リハビリテーション心理研究会, 東京

綿貫成明, 酒井郁子, 太田喜久子, 栗生田友子, 長谷川真澄ほか: せん妄交流集会, 日本看護科学学会学術集会, 平成 14 年

栗生田友子, 南雲直二: リハビリテーションにおける障害受容の課題, 平成 15 年 10 月, 日本リハビリテーション心理研究会, 東京

栗生田友子: ロービジョン者の語る体験世界—孤独, 苦悩, 希望と医療者への期待を中心に—, 平成 17 年 7 月, 第 42 回北日本眼科学会, 福島

栗生田友子: 看護職としての関わりを通して見える糖尿病による視覚障害者へのコメディカル連携, 平成 18 年 3 月 12 日, 第 12 回糖尿病眼学会シンポジスト

栗生田友子: 頭蓋内疾患のロービジョンケア—脳卒中発作後に視覚障害を体験する患者の「とまどい」と適応, 平成 18 年 9 月 12 日, 第 7 回ロービジョン学会総会, 第 15 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会合同会議, シンポジスト: 栗生田友子

野地有子, 柿川房子, 栗生田友子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐: CNS 交流集会, 平成 18 年 9 月 19 日, 聖路加看護学会, 交流集会企画, 実施(司会を担当)

沼本教子, 栗生田友子: 急性期医療における高齢者ケアの専門性, 平成 17 年 11 月, 第 11 回老年看護学会, 座長 沼本教子, 栗生田友子: , シンポジスト: 綿貫成明, ほか

【研究費の獲得状況】

栗生田友子(主任研究員): 平成 14~16 年 文部科学省科学研究費助成金 (萌芽研究) を受ける

「中途障害者における障害を受け入れる意味と生活の再構築に向けたケアリングモデルの開発」

栗生田友子(主任研究員), 太田喜久子, 長谷川真澄, 南川雅子, 小井川悦子, 矢吹スミ子, 畑中伸子, 橋爪淳子, 山田恵子, 野々村ゆかり: 平成 16 年度日本看護協会研究助成金を受ける (20 万円) 「一般病院における高齢患者のせん妄発生にかかわる環境及びケア因子への介入研究のための基礎調査」 研究成果は日本老年看護学会に発表した。

栗生田友子(主任研究員): 平成 17 年~19 年 文部科学省科学研究費助成金 (萌芽研究) を受ける「高次機能障害者の症状に対する家族の認知と理解を促進するための介入研究」。

現在研究継続中。

栗生田友子(主任研究員)、太田操、清塚理江、小平廣子、根元茂代子、鈴木初子、鈴木春美、添田しげみ、新保幸子、高木光恵、中村輝旗、志賀利江：平成 17 年福島県立医科大学看護学部共同研究費の研究助成を受ける（109 万円）。「福島県内の医療機関における身体拘束の実態と課題」日本看護学会急性期看護 1 題、日本看護学会看護管理 2 題、及び日本老年看護学会 1 題に発表した。現在報告書作成中。

野地有子(主任研究員)、柿川房子、栗生田友子、直成洋子、岡村典子、長瀬亜岐：平成 18 年度新潟県立看護大学看護学部学長特別研究の研究助成を受ける「CNS に関する研究」

研究成果は、①聖路加看護学会交流集会上に演題として発表、②ICN 日本大会（横浜 2007 年）に発表した。

栗生田友子(主任研究員)、浦山留美、櫻井信人：平成 18 年度新潟県立看護大学看護学部学長特別研究の研究助成を受ける「精神看護領域における隔離拘束に関する看護師の臨床判断に関する研究」研究成果は、日本精神保健看護学会（北里大学 2007 年 6 月）に発表した。

櫻井信人(主任研究員)、栗生田友子、浦山留美：平成 18 年度新潟県立看護大学看護交流センターの研究助成を受ける「自殺者遺族へのケアに関する研究」研究成果は、日本精神保健看護学会（北里大学 2007 年 6 月）に発表した。

【学会・研究会】

1) 関連学会における学術集会の企画・運営への参加

日本看護科学学会 平成 14 年 12 月 日本看護科学学会 学術集会実行委員・東京

聖路加看護学会 平成 14 年 聖路加看護学会平成 14 年度学術大会企画委員、

平成 15 年 聖路加看護学会平成 15 年学術大会企画委員

2) 学会演題の査読 日本リハビリテーション看護学会査読委員、日本看護科学学会学術集会査読、聖路加看護学会査読

3) 所属学会

日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本看護学会、日本ロービジョン学会、聖路加看護学会

【社会活動】

委員等

栗生田友子：福島県身体拘束ゼロ推進会議副委員長、（平成 17 年～18 年）

栗生田友子：新潟県上越市上越総合都市計画審議委員、（平成 18 年～）

栗生田友子：新潟県精神保健福祉協会上越支部委員、（平成 18 年～）

栗生田友子：埼玉県・福島県の病院看護職の研究指導

福島県立病院 8 病院 研究指導（平成 14～18 年）

福島労災病院 研究指導（平成 14～18 年）

星総合病院（平成 14 年～18 年）

埼玉県立総合リハビリテーション病院（平成 13 年～16 年 3 月）

国立身体障害者リハビリテーション病院（平成 14 年～18 年 3 月）

栗生田友子：平成 18 年度新潟県臨床実習指導者講習会において、精神看護学を担当（平成 18 年）

研修会講師

栗生田友子：精神保健介護福祉士研修会支援、平成 14 年、福島

栗生田友子：精神科病院における事故に対するリスク管理、新潟県立精神保健センター、平成 18 年 10 月

小林恵子

【研究活動】

① 学術論文

小林恵子・斎藤智子・平澤則子・佐々木美佐子・熊倉みつ子・飯吉令枝（2002）：保健所保健師のコンサルテーションプロセスとその構成要素の妥当性，新潟県立看護短期大学紀要第 8 巻，17-25.

小林恵子・杉田収・斎藤智子・関谷伸一・佐々木美佐子・室岡耕次・安田かづ子・水戸美津子（2002）：快適住まい環境研究会報告 第 7 報－住む人の QOL（生活の質）を高める住まい方とは－，新潟県立看護短期大学紀要第 8 巻，105-111.

杉田収・室岡耕次・大竹朗・杉田靖子・水嶋和美・斎藤智子・小林恵子・佐々木美佐子（2004）：介護・看護からみた住宅評価法，保健の科学第 46 巻 第 2 号，143-149.

杉田収・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹・関谷伸一・橋本明浩（2006）：室内空気中ホルムアルデヒド測定用簡易測定器（FP-30 型）による測定値の信頼性と法規制（2003 年）後のホルムアルデヒド濃度測定例，室内環境学会誌 Vol. 9, No. 1, 45-50.

飯吉令枝・平澤則子・斎藤智子・小林恵子（2007）：山間地域における高齢者の生活行動とサポート・ニーズおよび健康関連 QOL の季節比較，日本在宅ケア学会誌 Vol. 10, No. 2, 59-66.

② その他の論文及び調査報告

新田初美・塚田玲子・吉村和子・和泉久美子・片桐桃子・大図久美子・下間千加子・小林恵子・樋口広美・権平範子（2002）：乳幼児保健指導の手引～親子の育ちを見守る支援者として～（改訂 第 3 版），全 98 頁.

品田浩子・小林恵子ほか（2003）：障がい者から学ぶ暮らしのヒント集，11.

杉田収・佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹・関谷伸一・橋本明浩（2003）：高齢社会を支える住宅環境に関する研究，平成 14 年度新潟県立看護大学学長研究費研究報告書，1-4.

佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹（2003）：農村地域における高齢者の生活構造とソーシャルサポートニーズ，平成 14 年度新潟県立看護大学学長研究費研究報告書，29-32.

小林恵子（2003）：地域母子保健事業における子ども虐待予防・早期発見における保健師の取り組みと課題，平成 14 年度新潟県立看護大学学長研究費研究報告書，85-88.

佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹（2003）：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究，新潟県立看護大学平成 14 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書，9-16.

杉田収・佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹・関谷伸一・橋本明浩（2003）：地域ケアを支える住宅環境に関する研究，新潟県立看護大学平成 14 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書，17-20.

佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子（2004）：大学での保健師教育における地域看護診断の教育方法の構築，平成 15 年度新潟県立看護大学学長研究費研究報告書，55-61

小林恵子（2004）：子ども虐待介入における保健師の支援技術，平成 15 年度新潟県立看護大学学長研究費研究報告書，120-124.

佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子 (2004) : 山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究 (第2報), 新潟県立看護大学平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 55-61.

杉田収・佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹・関谷伸一・橋本明浩 (2004) : 地域ケアを支える住宅環境に関する研究—室内ホルムアルデヒドの簡易測定—, 新潟県立看護大学平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 23-30

中島紀恵子・野地有子・朝倉京子・飯吉令枝・大友康博・籠玲子・唐澤千登勢・北川公子・小林恵子・斎藤智子・佐々木美佐子・田中キミ子・中川泉・中野正春・橋本明浩・平澤則子 (2004) : 豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態 (中間報告), 新潟県立看護大学平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 101-113.

飯吉令枝・小林美代子・斎藤智子・平澤則子・佐々木美佐子・高橋初美・小林恵子 (2005) : 新潟県立看護短期大学卒業生・修了生の動向, 新潟県立看護短期大学紀要第10巻, 19-26.

中島紀恵子・斎藤智子・籠玲子・飯吉令枝・唐澤千登勢・菅原峰子・朝倉京子・大友康博・北川公子・小林恵子・佐々木美佐子・田中キミ子・津田さとみ・中川泉・中野正春・野地有子・橋本明浩・平澤則子 (2005) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者の生活と健康の実態調査報告書, 新潟県立大学平成15・16年度地域貢献特別支援事業, 全111頁.

佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・横尾加奈江・外立直子 (2005) : 豪雪地における高齢者のソーシャル・サポート・システム構築に関する研究, 平成16年新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 11-16.

杉田収・斎藤智子・小林恵子・中川泉・佐々木美佐子・室岡耕次・大竹朗・宮越亮・杉田靖子 (2005) : 地域のヘルスケアニーズに基く住環境支援—豪雪地域での頸椎損傷患者用住宅の提案—, 平成16年新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 17-24.

小林恵子・斎藤智子・飯吉令枝・佐々木美佐子・平澤則子 (2006) : 災害時の健康ニーズと保健師の活動に関する研究, 平成17年度学長特別研究費 研究報告書, 22-25.

杉田収・中川泉・飯吉令枝・斎藤智子・小林恵子・佐々木美佐子・室岡耕次・坂本ちか子・杉田靖子・曾田耕一・濁川明男 (2006) : 化学物質過敏症に関する研究—発症者の反応化学物質と上越市立小学校児童の1万名のCS関連症状調査, 6-13.

飯吉令枝・平澤則子・斎藤智子・小林恵子・佐々木美佐子・横尾加奈江・外立直子 (2006) : 豪雪地における高齢者の生活構造の変化とソーシャル・サポート・システムの評価, 平成17年新潟県立看護大学看護研究交流センター年報, 1-5.

③ 学会発表

小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 佐々木美佐子, 熊倉みつ子, 飯吉令枝 : 保健所保健師のコンサルテーションプロセス構成要素の妥当性, 第60回日本公衆衛生学会, 2002, 10.

平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 : 高齢者の健康関連 QOL の地域間比較, 第61回日本公衆衛生学会, 2003, 10.

小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子 : 農村地域における在宅高齢者の IADL (老研式活動能力) 関連要因, 第61回日本公衆衛生学会, 2003, 10.

飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 : 豪雪地域における高齢者の生活構造とソーシャル・サポートニーズ, 第23回日本看護科学学会学術集会, 2003, 12.

小林恵子 : 乳幼児の虐待予防・早期発見における市町村保健師の取り組みと課題, 第8回日本在宅ケア

学会学術集会, 2004. 1.

平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子: 豪雪地における高齢者の生活行動と健康関連 QOL の季節比較, 第 7 回日本地域看護学会, 2004. 6.

杉田収, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 関谷伸一, 吉山直樹, 橋本明浩: 簡易測定器による室内ホルムアルデヒドの測定, 第 51 回臨床検査医学会総会・第 44 回臨床科学学会年会, 2004. 9.

小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子: 農村地域における高齢者のサポートニーズと課題, 第 63 回日本公衆衛生学会, 2004. 10.

飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 斎藤智子, 佐々木美佐子: グループインタビューを用いた高齢者のソーシャルサポートシステムの検討, 第 63 回日本公衆衛生学会, 2004. 10.

斎藤智子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子: 農村地域における高齢者の活動能力と生活行動の季節比較, 第 63 回日本公衆衛生学会, 2004. 10.

長沼典子, 丸山光子, 小林恵子, 斎藤智子: 高齢者のサポートニーズと生活支援の方向性, 第 26 回全国地域保健師学術研究会, 2004. 10.

小川千香子, 伊佐直子, 阿部芳子, 弓削友子, 佐藤久美, 小西順子, 篠田浩子, 牛木一枝, 林直美, 小玉綾子, 小林恵子: 働き盛りの脳血管疾患・心疾患死亡事例の生活背景の特徴, 第 26 回全国地域保健師学術研究会, 2004. 10.

小林恵子: 子どもの虐待発見, 介入における保健師の支援内容, 第 8 回地域看護学会学術集会, 2005. 6.

飯吉令枝, 斎藤智子, 佐々木美佐子, 平澤則子, 小林恵子: 就業6年未満の保健師がとらえる保健師に必要な能力と研修ニーズ, 第64回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.

小林恵子, 斎藤智子, 飯吉令枝, 平澤則子, 佐々木美佐子: コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域看護診断の教育方法と評価, 第64回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.

斎藤智子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子: 農村地域に暮らす後期高齢者の生活能力と生活行動の特徴, 第64回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.

平澤則子, 飯吉令枝, 小林恵子, 斎藤智子, 佐々木美佐子: 高齢者のソーシャルサポートシステム構築における課題の検討, 第64回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.

北岡英子, 清水洋子, 安田恭子, 吉田昌子, 福島道子, 島内節, 小林恵子, 森田久美子, 奥富幸至, 中村香織, 管井みどり: 保健師による子ども虐待事例への支援とその効果に関する研究, 第 25 回日本看護科学学会学術集会

2005. 11.

小林恵子, 佐藤まゆみ, 矢坂陽子: 新潟県中越大震災直後における幼児のこころの健康実態, 第 10 回日本在宅ケア学会学術集会. 2006. 3.

北岡英子, 福島道子, 小林恵子: 子ども虐待に対する家族支援内容と構造化に関する研究, 第 9 回日本地域看護学会学術集会, 2006. 7.

飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子: 豪雪地における高齢者のサポートシステムの構築 (第1報) ～高齢者の生活行動の変化～, 第65回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.

斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 小林恵子, 佐々木美佐子, 鳩野洋子: 豪雪地における高齢者のサポートシステムの構築 (第2報) ～健康関連QOLの変化～, 第65回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.

平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子: 豪雪地における高齢者のサポートシステムの構築 (第3報) ～システムの課題～, 第65回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.

④ その他の発表

小林恵子：第26回全国保健師学術研究会口演座長

小林恵子：第10回日本在宅ケア学会シンポジウム座長「災害時の支援－フェイズ0からフェイズ2－」，2006.3.

【研究プロジェクトによる活動】

① 研究班による活動

＜学外公募研究補助金に基づく研究活動＞

北岡英子（代表者）・福島道子・小林恵子：「児童虐待に対する家族支援内容とその構造に関する研究」平成16年度日本看護協会出版会助成金採択，2004.11～2005.10

小林恵子（代表者）・福島道子・北岡英子・島内節：日本学術振興財団科学研究費基盤研究（C）（一般）採択，2006.4.～2009.3.

＜大学の特別研究費に基づく研究活動＞

杉田収・佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹・関谷伸一・橋本明浩：高齢社会を支える住宅環境に関する研究，平成14年度新潟県立看護大学学長研究費

佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹：農村地域における高齢者の生活構造とソーシャルサポートニーズに関する研究，平成14年度新潟県立看護大学学長研究費

小林恵子：地域母子保健事業における子ども虐待予防・早期発見における保健師の取り組みと課題，平成14年度新潟県立看護大学学長研究費。

佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹（2003）：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究，新潟県立看護大学平成14年度看護研究交流センター事業研究費。

杉田収・佐々木美佐子・小林恵子・平澤則子・飯吉令枝・斎藤智子・吉山直樹・関谷伸一・橋本明浩：地域ケアを支える住宅環境に関する研究，新潟県立看護大学平成14年度看護研究交流センター研究費。

佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子（2004）：大学での保健師教育における地域看護診断の教育方法の構築，平成15年度新潟県立看護大学学長研究費研究費。

小林恵子（2004）：子ども虐待介入における保健師の支援技術，平成15年度新潟県立看護大学学長研究費研究費。

佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子（2004）：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究（第2報），新潟県立看護大学平成15年度看護研究交流センター研究費。

杉田収，佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，吉山直樹，関谷伸一，橋本明浩（2004）：地域ケアを支える住宅環境に関する研究－室内ホルムアルデヒドの簡易測定－，新潟県立看護大学平成15年度看護研究交流センター研究費。

中島紀恵子，野地有子，朝倉京子，飯吉令枝，大友康博，籠玲子，唐澤千登勢，北川公子，小林恵子，斎藤智子，佐々木美佐子，田中キミ子，中川泉，中野正春，橋本明浩，平澤則子（2004）：豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態，新潟県立看護大学平成15～16年度看護研究交流センター研究費。

佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，横尾加奈江，外立直子（2005）：豪雪地における高齢者のソーシャル・サポート・システム構築に関する研究，平成16年新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費。

杉田収，斎藤智子，小林恵子，中川泉，佐々木美佐子，室岡耕次，大竹朗，宮越亮，杉田靖子（2005）：地

域のヘルスケアニーズに基く住環境支援，平成16年新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費。

小林恵子，斎藤智子，飯吉令枝，佐々木美佐子，平澤則子（2006）：災害時の健康ニーズと保健師の活動に関する研究，平成17年度学長特別研究費。

杉田収，中川泉，飯吉令枝，斎藤智子，小林恵子，佐々木美佐子，室岡耕次，坂本ちか子，杉田靖子，曾田耕一，濁川明男（2006）：化学物質過敏症に関する研究—発症者の反応化学物質と上越市立小学校児童の1万名のCS関連症状調査，p. 6-13。

飯吉令枝，平澤則子，斎藤智子，小林恵子，佐々木美佐子，横尾加奈江，外立直子（2006）：豪雪地における高齢者の生活構造の変化とソーシャル・サポート・システムの評価，平成17～19年新潟県立看護大学看護研究交流センター研究費。

②研究指導

小林恵子：新潟県小千谷市，味方村の保健師に第26回全国地域保健師学術研究会で発表する研究論文のまとめかた等の指導実施，2004. 1～10。

小林恵子：新潟県柏崎保健所，小国町（現 長岡市）の保健師に新潟県中越地震被災児のPTSD調査のまとめと対策について指導実施，2005. 1～6。

【社会活動】

①学会

小林恵子：日本地域看護学会会員、日本看護科学学会会員、日本在宅ケア学会会員、日本家族ケア学会会員、日本公衆衛生学会会員、日本子ども虐待防止学会会員、日本看護学会成人看護Ⅰ抄録選考委員（第36回）、日本看護学会地域看護論文選考ワーキンググループ委員（第35、36、37回）、第10回日本在宅ケア学会企画委員、日本在宅ケア学会論文査読委員（第9巻2号投稿論文）

②審議会等

小林恵子：新潟県上越健康福祉環境事務所 上越地域保健医療福祉推進会議 児童虐待予防部会オブザーバー（2002. 9. ～2003. 3）

小林恵子：上越市少子社会を考える市民懇談会委員（2002. 10～現在に至る）

小林恵子：上越市環境影響評価会議委員（2003. 4～現在に至る）

小林恵子：上越市こどもセンター利用者懇談会委員（2002. 11～2003. 3）

小林恵子：上越市地域新エネルギー導入推進検討委員会委員（2004. 11～2006. 3）

小林恵子：新潟県准看護師試験委員（2005. 7～現在に至る）

小林恵子：上越市少子社会を考える市民懇談会副委員長（2006. 9～現在に至る）

③その他

小林恵子：講義「保健師の専門性を活かした活動をするためには」，新潟県十日町保健所保健師業務研究会，2002. 5。

小林恵子：講義「事例検討とは何か，事例検討の進め方」，新潟県十日町市役所保健師業務額集会，2002. 8。

小林恵子：講義「高齢者の特性と介護」，福祉住環境コーディネーター養成講座，2002. 8～9。

小林恵子：パネルディスカッション座長「虐待児の早期発見と子育て支援の充実を目指して」，新潟県看護協会上越地区協会助産師研修会，2002. 10。

小林恵子：講義「児童虐待予防の具体的な取り組みについて」，上越保健所管内療育関係者研修会，2003. 1。

小林恵子：講義「保健師の専門性を生かした活動をするために～事業評価編」，十日町保健所保健師業務研究会，2003. 5.

小林恵子：講演「子どもの虐待はなぜ起こる」(新潟県立看護大学一般公開講座 看護とジェンダー)，2003. 8.

小林恵子：シンポジウム座長「虐待の早期発見と子育て支援の充実を目指して」，上越地域乳幼児健康診査従事者研修会（上越保健所，糸魚川保健所管内保健師及び福祉職員対象），2003. 9.

小林恵子：講義「在宅看護論実習」，臨床実習指導者講習会（新潟県福祉保健部主催），2003. 9.

小林恵子：講義「小児虐待の早期発見と子育て支援の充実を目指して」新潟県看護協会糸魚川地区協会研修会，2004. 1.

小林恵子：講義及びファシリテーター「子ども虐待事例検討」（2回コース），新潟県十日町保健所管内保健師を対象に乳幼児健康診査従事者研修，2004. 5～10.

小林恵子：講義及びファシリテーター「子ども虐待事例検討」，乳幼児健康診査従事者研修（新潟県糸魚川保健所主催，3回コース），2004. 8～2005. 1.

小林恵子：講義及びファシリテーター「子ども虐待の予防と早期対応について」，新潟県三条保健所管内虐待予防研修会（保健師，教員，福祉職対象），2004. 8.

小林恵子：講義「在宅看護論実習」，臨床実習指導者講習会（新潟県福祉保健部主催），2003. 10.

小林恵子：講義「在宅看護論」，三条市川瀬神経内科クリニック在宅看護研修会，2004. 11.

小林恵子：講義「子どもの精神発達問題への支援の現状・課題」，新潟県新井市（現妙高市）HMW（保健医療福祉）学習会，2005. 1.

小林恵子：講義「学習指導案の作り方」，新潟県医師会准看護学校連絡協議会研修会，2005. 5.

小林恵子：講演「子どものこころに寄り添いながら」，新潟県看護協会三条地区協会総会特別講演会，2005. 6.

小林恵子：ファシリテーター「子ども虐待事例検討会」，乳幼児虐待予防従事者研修会（新潟県十日町保健所主催，平成17年度8回コース，18年度6回コース），2005. 5. ～2006. 11.

小林恵子：講演「イギリスにおける地域母子保健サービスと子ども虐待予防活動」(新潟県立看護大学一般公開講座 海外の看護と日本の看護)，2005. 7.

小林恵子：講義「家族看護学」15時間，上越教育大学，2005. 8.

小林恵子：講義「家族と看護」新潟県立新潟村上高等学校出前講座，2005. 11.

小林恵子：講演「子どもの虐待予防と対応」上越市子どもの虐待防止連絡会研修会（小中学校関係者，幼稚園関係者，子育てひろば指導員を対象），2005. 12.

小林恵子：ファシリテーター「子ども虐待事例検討会」，地域保健関係職員専門職別研修（新潟県上越保健所主催，平成18年度4回コース），2006. 5. ～11.

小林恵子：講義「看護教育課程」，平成18年度看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会（新潟県福祉保健部主催），2006. 8.

小林恵子：講義「実習指導の実践1：在宅看護論実習」(新潟県福祉保健部主催の臨床実習指導者講習会)，2006. 9.

小林恵子：講義「地域特性や住民ニーズにそった事業計画立案と保健師の活動～新任者・指導者ともに学びあい・育ちあいながら～」，平成18年度市町村保健師等新任者研修会（新潟県福祉保健部主催），2007. 1.

小林恵子：講義「事例から学ぶ乳幼児虐待予防」，平成18年度乳幼児虐待予防対策事業（新潟県上越保健所主催），2007. 1.

小林恵子：講義「子ども虐待と母子保健関係者の役割」，平成18年度乳幼児虐待予防対策事業（新潟県柏崎保健所主催），2007.3.

平澤則子

【研究活動】

①学術論文

小林恵子，斎藤智子，平澤則子，佐々木美佐子，熊倉みつ子，飯吉令枝（2002）：保健所保健師のコンサルテーションプロセスとその構成要素の妥当性，新潟県立看護短期大学紀要第8巻，17-25.

杉田収，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，吉山直樹，関谷伸一，橋本明浩（2007）：室内空气中ホルムアルデヒド測定用簡易測定器（FP-30型）による測定値の信頼性と法規則（2003年）後のホルムアルデヒド濃度測定例，室内環境学会誌 Vol.9 No.1，45-50.

飯吉令枝，平澤則子，斎藤智子，小林恵子（2007）：山間豪雪地における高齢者の生活行動とサポート・ニーズ及び健康関連QOLの季節比較，日本在宅ケア学会誌 Vol.10 No.2，59-66.

②その他の論文

土屋紀子，平澤則子（2002）：カナダ-BC州のヘルスケアの現状，カナダ夏期研修2001報告書，9-10.

平澤則子（2004）：閉じこもりがちな難病家族介護者への社会的支援，家族看護5号，20-25.

平澤則子（2004）：被災者体験から学ぶこと，看護教育 Vol.46 No.1，42-44.

高原ななゑ，平澤則子（2006）：若者へのキャリア支援対策・施策の現状と課題-ドイツ，イギリスをふまえた日本のキャリア支援施策-，タイム&ライフ研究会誌6号，105-124.

③調査報告

杉田収，佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，山直樹，関谷伸一，橋本明浩（2003），高齢社会を支える住宅環境に関する研究，平成14年度学長特別研究費研究報告書，1-4.

平澤則子（2003）：コミュニティ・ミーティングで得た質的データの妥当性に関する研究，平成14年度学長特別研究費研究報告書，89-92.

佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，吉山直樹（2003）：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究，平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書，9-16.

佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，吉山直樹（2003）：農村地域における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究，平成14年度学長特別研究費研究報告書，29-32.

飯吉令枝，小林美代子，斎藤智子，平澤則子，佐々木美佐子，高橋初美，小林恵子（2004）：新潟県立看護短期大学卒業生・修了生の動向，新潟県立看護短期大学紀要第10巻，19-26.

佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，吉山直樹（2004）：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究（第2報），平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書，17-22.

杉田収，佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，吉山直樹，関谷伸一，

- 橋本明浩 (2004) : 地域ケアを支える住宅環境に関する研究—室内ホルムアルデヒドの簡易測定法—, 平成 15 年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書, 23-30.
- 中島紀恵子, 野地有子, 朝倉京子, 飯吉令枝, 大友康博, 籠玲子, 唐澤千登勢, 北川君子, 小林恵子, 斎藤智子, 佐々木美佐子, 田中キミ子, 中川泉, 中野正春, 橋本明浩, 平澤則子 (2004) : 豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態 (中間報告), 平成 15 年度看護研究交流センター事業 活動・研究報告書, 101-113.
- 平澤則子 (2004) : 難病の夫を介護する妻の QOL 推移からみた看護援助のあり方, 平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 124-126.
- 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子 (2005) : 豪雪地における高齢者の生活構造の変化とソーシャル・サポート・システム構築に関する研究, 平成 16 年度看護研究交流センター年報, 11-15.
- 飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 横尾加奈江, 外立直子 (2006) : 豪雪地における高齢者の生活構造の変化とソーシャル・サポート・システムの評価, 平成 17 年度看護研究交流センター年報, 1-5.
- 小林恵子, 斎藤智子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子, 平澤則子 (2006) : 災害時の健康ニーズと保健師の活動に関する研究, 平成 17 年度学長特別研究費研究報告書, 22-25.
- 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子 (2006) : 山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究報告書, 平成 14 年度 - 平成 17 年度看護研究交流センター事業 (地域課題研究) 報告書, 1-77.
- 平澤則子 (2006) : 最適化モデルからみた難病家族介護者への看護援助に関する研究, 平成 16 年度 - 平成 17 年度科学研究費補助金 (C) 研究成果報告書, 1-60.

④学会発表

- 小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子 : 保健所保健師のコンサルテーションプロセスとその構成要素の妥当性, 第 61 回日本公衆衛生学会, 2002 年 10 月 (大宮市)
- 平澤則子 : コミュニティ・ミーティングで得た質的データの妥当性に関する研究, 第 6 回日本地域看護学会, 2003 年 6 月 (横浜市)
- 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 : 高齢者の健康関連 QOL の地域間比較, 第 62 回日本公衆衛生学会, 2003 年 10 月 (京都市)
- 小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子 : 農村地域における在宅高齢者の IADL (老研式活動能力) 関連要因, 第 62 回日本公衆衛生学会, 2003 年 10 月 (京都市)
- 飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 : 豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズ, 第 23 回日本看護科学学会, 2003 年 12 月 (東京都)
- 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 : 豪雪における高齢者の生活行動と健康関連 QOL の季節比較, 第 7 回日本地域看護学会, 2004 年 6 月 (大阪府) (大阪大学)
- 平澤則子 : 難病の夫を介護する妻の QOL 推移からみた看護援助のあり方, 第 9 回日本難病看護学会学術集会, 2004 年 8 月 (ウイル愛知)
- 飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 : グループインタビューを用いた高齢者のソーシャルサポートシステムの検討, 第 63 回日本公衆衛生学会, 2004 年 10 月 (松江市)
- 小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子 : 農村地域における高齢者のソーシャルサポートニーズと課題, 第 63 回日本公衆衛生学会, 2004 年 10 月 (松江市)
- 斎藤智子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子 : 農村地域における高齢者の活動能力と生活行

動の季節比較, 第63回日本公衆衛生学会, 2004年10月(松江市)

杉田収, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 吉山直樹, 関谷伸一, 橋本明浩: 簡易測定器による室内ホルムアルデヒドの測定, 第51回日本臨床検査医学会総会・第44回日本臨床化学学会年会連合大会, 2005年9月(東京都)

斉藤智子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子: 農村地域に暮らす後期高齢者の活動能力と生活行動の特徴, 第64回日本公衆衛生学会, 2005年9月(札幌市)

飯吉令枝, 斉藤智子, 佐々木美佐子, 平澤則子, 小林恵子: 就業6年未満の保健師がとらえる保健師に必要な能力と研修ニーズ, 第64回日本公衆衛生学会, 2005年9月(札幌市)

小林恵子, 飯吉令枝, 斉藤智子, 平澤則子, 佐々木美佐子: コミュニティアズパートナーモデルを用いた地域看護診断の教育方法と評価, 第64回日本公衆衛生学会, 2005年9月(札幌市)

平澤則子, 飯吉令枝, 小林恵子, 斉藤智子, 佐々木美佐子: 高齢者のソーシャルサポートシステム構築における課題の検討, 第64回日本公衆衛生学会, 2005年9月(札幌市)

平澤則子: 神経難病患者を介護する妻の方略獲得を促す援助の視点, 第9回日本地域看護学会学術集会, 2006年7月(和光市)

飯吉令枝, 平澤則子, 斉藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子: 豪雪地における高齢者のサポートシステムの構築(第1報)-高齢者の生活行動の変化, 第65回日本公衆衛生学会, 2006年10月(富山市)

斉藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 小林恵子, 佐々木美佐子, 鳩野洋子: 豪雪地における高齢者のサポートシステムの構築(第2報)-健康関連QOLの変化, 第65回日本公衆衛生学会, 2006年10月(富山市)

平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子: 豪雪地における高齢者のサポートシステムの構築(第3報)-システムの課題, 第65回日本公衆衛生学会, 2006年10月(富山市)

⑤一般講演

巻保健所管内地域保健関係職員研修 講義と演習「Community Development とヘルスプロモーション」2002年3月

六日町健康福祉環境事務所保健師業務研究会 講義「保健師活動とエンパワメント」2002年7月

新潟県行政栄養士会研修会 講義と演習「健康日本21 地方計画を作ろう」2002年8月

清里村岡野町東戸野地区地域健康座談会 講演とグループワーク「コミュニティミーティングとは」2002年8月～9月

佐渡地域保健関係職員研修会 講義と演習「事業の計画・実践・評価について～ヘルスプロモーションの実践～」2003年3月

清里村岡野町東戸野地区地域健康座談会 講師 2003年7月

糸魚川地域保健関係職員研修会 講義とグループワーク「住民起点をキーワードとした地域保健活動の展開」2004年6月～8月

兵庫県立看護学校専任教員研修 講義と演習「効果的な教育方法について～コミュニティ・ミーティングを活用して ステップ1・2～」2004年8月

富山県ヘルスボランティア研修会 講義とグループワーク「健康なまちづくりを進めるためのボランティアの役割～市町村合併下における住民と行政との協働～」2005年2月

兵庫県立看護学校専任教員研修 講義と演習「効果的な教育方法について～コミュニティ・ミ

ーティングを活用して～ステップ3・4」2005年8月

アレルギーの会全国連絡会研修会 話題提供「体験をととして学ぶ災害時のセルフケア」

2005年8月

新潟県看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会 講義と演習「地域看護学指導の実際」「在宅看護実習指導の実際」2005年8月

新井市保健師等学習会 講義「あらためて地域力を考える～市町村合併下における住民と行政との協働～」2005年10月

新潟県看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会 講義と演習「地域看護学実習指導の実際」「在宅看護実習指導の実際」2006年8月

平成18年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講義「地域看護活動論」2006年9月

新潟県保健師リーダー研修会 講義「看護研究における倫理とは」2006年10月

【研究プロジェクトによる活動】

①研究班による活動

大学の特別研究費に基づく研究活動

平成14年度看護研究交流センター地域課題研究 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子, 吉山直樹：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究

平成14年度学長特別研究 平澤則子：コミュニティ・ミーティングで得た質的データの妥当性に関する研究

平成14年度学長特別研究 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究

平成15年度看護研究交流センター地域課題研究 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子, 吉山直樹：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究

平成15年度看護研究交流センター地域課題研究 中島紀恵子, 野地有子, 朝倉京子, 飯吉令枝, 大友康博, 籠玲子, 唐澤千登勢, 北川君子, 小林恵子, 斉藤智子, 佐々木美佐子, 田中キミ子, 中川泉, 中野正春, 橋本明浩, 平澤則子：豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態

平成15年度看護研究交流センター地域課題研究 杉田収, 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子, 吉山直樹, 関谷伸一, 橋本明浩：地域ケアを支える住宅環境に関する研究—室内ホルムアルデヒドの簡易測定法—

平成15年度学長特別研究費 平澤則子：難病の夫を介護する妻のQOL推移からみた看護援助のあり方

平成16年度看護研究交流センター地域課題研究 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子：豪雪地における高齢者の生活構造の変化とソーシャル・サポート・システム構築に関する研究

平成17年度看護研究交流センター地域課題研究 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子, 横尾加奈江, 外立直子：豪雪地における高齢者の生活構造の変化とソーシャル・サポート・システムの評価

平成17年度学長特別研究費研究 佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子：

災害時の健康ニーズと保健師の活動に関する研究

平成 18 年度看護研究交流センター地域課題研究 飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 斉藤智子, 野口祐子, 横尾

加奈江, 外立直子: 過疎地域における高齢者の健康と生活の自立に関する研究

②学外公募研究補助金に基づく研究活動

科学研究費補助金 平成 16 年度～17 年度

平澤則子: 最適化モデルからみた難病家族介護者への看護援助に関する研究

③研究指導

第 26 回全国保健師学会の申し込み演題における指導 2004 年 4 月～10 月

小出保健所の社会福祉事業研究開発基金助成事業による「地域認知症予防教育プログラム開発」における指導 2005 年 4 月～2006 年 3 月

小出保健所の平成 16 年度厚生労働省地域保健推進特別事業・平成 17 年度新潟県中越地震復興基金事業による「魚沼市子供と保護者のこころの調査」における指導 2005 年 4 月～2006 年 12 月

【社会活動】

①学会・研究会

日本看護協会会員 日本公衆衛生学会会員 日本難病看護学会会員 日本地域看護学会会員

日本在宅ケア学会会員 日本看護科学学会会員 家族問題研究会会員 第 26 回地域保健師学会研究会座長 第 10 回日本在宅ケア学会学会学術集会実行委員・座長

②委員会活動

新潟県健康づくり総合センターの実践指導プログラムに係る意見交換会構成員 (平成 12 年 8 月から平成 14 年 3 月まで)

上越市コミュニティケア研究会委員 (平成 13 年 4 月から 15 年 3 月まで)

新井市地域リハビリテーション推進会議副委員長 (平成 16 年 4 月から平成 18 年 3 月まで)

第 26 回地域保健師学会学術研究会第 3 分科会において座長を務める。平成 16 年 10 月

小出保健所認知症モデル事業企画委員会委員 (平成 17 年 4 月から平成 18 年 3 月まで)

新潟県看護協会看護学会委員長 (平成 17 年 6 月から平成 19 年 5 月)

上越市介護保険課①指定管理者選定委員会委員長 (平成 17 年 9 月から現在に至る)

上越市高齢者福祉課①指定管理者選定委員会委員長 (平成 17 年 9 月から現在に至る)

上越市介護保険課②高齢者福祉課②指定管理者選定委員会委員長 (平成 17 年 10 月から現在に至る)

上越市介護保険課③高齢者福祉課③指定管理者選定委員会委員長 (平成 17 年 11 月から現在に至る)

第 10 回日本在宅ケア学会学術集会実行委員, G 群において座長を務める平成 18 年 3 月

上越市地域包括支援センター運営協議会副委員長 (平成 18 年 4 月から現在に至る)

新潟県看護協会訪問看護ステーション機能強化委員会委員長 (平成 18 年 11 月から現在に至る)

新潟県看護協会看護学会委員 (平成 19 年 6 月から現在に至る)

原 等子

【研究活動】

①原著

- 原等子, 中島紀恵子(2003): 痴呆性高齢者の家族介護時間の特性—家族介護主担者の時間的様相—, 日本老年看護学会誌, 7(2), 70-82
- A.Schreiner, N.Hara, T.Terakado, 他1名(2004): Attitudes towards end-of-life care in a geriatric hospital in Japan, International Journal of Palliative Nursing, 10(4), 185-193.
- A.Schreiner, 守本とも子, 原等子, 他1名(2004): 痴呆性高齢者施設における緩和ケアモデルへの提言—アメリカナーシングホームの実践を通して, 看護実践の科学, 29(10), 59-66.
- A.S.Schreiner, 守本とも子, 原等子, 他1名(2004): 末期高齢痴呆患者の流動食および経静脈栄養に関する決定と看護師の役割, 看護学雑誌, 68(1), 44-47.
- 中村早苗, 原等子, 渡部貴美江, 他4名(2005): 療養病棟における痴呆性高齢者の口腔内の現状とケアの課題—口腔乾燥に焦点を当てて—, 第35回日本看護学会論文集(老年看護), 91-93.
- 渡部貴美江, 中村早苗, 原等子, 他2名(2006): 終末期認知症高齢者への「緩和口腔ケア」導入に向けての取り組み, 日本赤十字看護学会誌, 6(1), 110-118.

②その他の論文及び調査報告

- 原等子, A.S.Schreiner, 中村早苗, 他8名(2005): 終末期痴呆性高齢者に対する「緩和口腔ケア」の適用による効果, 日本赤十字九州国際看護大学 Intermural Research Report, 3, 101-114
- 寺門とも子, 原等子, シュライナーA., 他1名(2005): 介護老人福祉施設入所者の終末期の現状—老人病院入院後死亡までのカルテ調査より, 日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report, 3, 171-181
- 寺門とも子, 佐伯あゆみ, 原等子, 他2名(6名中4番目)(2005): 介護老人福祉施設におけるケアスタッフの終末期ケアに対する認識—M 市内介護老人福祉施設調査より, 日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report, 4, 141-151
- 柿木保明, 原等子(2007): 介護保険下の高齢者施設ケアにおける口腔ケアの現状と課題, 厚生労働省・厚生労働科学研究費補助金—長寿科学総合研究事業(H17-長寿-042) 平成 18 年度総括・分担報告書「高齢者の口腔乾燥改善と食機能支援に関する研究」, 69-104.

③学会発表

- 原等子, 中島紀恵子(2002): 痴呆性高齢者の家族介護時間の内容と構造—家族介護者による介護時間調査の分析から—, 第7回日本老年看護学会
- A.Schreiner, T.Terakado, N.Hara, 他2名(2003): Perceived Barriers to Instituting a Palliative Care Team at a Geriatric Hospital in JAPAN., The Gerontological Society of America 56th Annual Scientific Meeting
- N.Hara, T.Terakado, A.Schreiner, 他1名(2003): A Focus Group Investigation of Hospital Nursing Staff's Perceptions of How to Improve End-of-Life Care for Patients with Dementia in JAPAN., The Gerontological Society of America 56th Annual Scientific Meeting
- T. Terakado, N. Hara, A.S.Schreiner, 他1名(2003): An Investigation of Hospital Care Received Prior to Death among Nursing Home transfers with Dementia in JAPAN., The Gerontological Society of America 56th Annual Scientific Meeting
- 原等子, 大林京子, 中村早苗, 他7名(2004): 終末期痴呆性高齢者の「緩和口腔ケア」研修会による効果, 老年社会科学, 26(2), 259.
- 中村早苗, 原等子, 渡部貴美江, 他4名(2004): 療養病棟における痴呆性高齢者の口腔内の現状とケアの課題—口腔乾燥に焦点を当てて—, 第35回日本看護学会抄録集(老年看護), 67.
- 原等子, 中村早苗, 大林京子, 他7名(2004): 終末期痴呆性高齢者に対する「緩和口腔ケア」の効果—6ヶ月間の2事例のかかわりから—, 第5回日本痴呆ケア学会大会抄録集, 186.

- 木浪智佳子, 松原三智子, 原等子, 他3名(6名中5番目)(2004):看護師集団におけるキャリア・アンカー(第1報)－E. H. シャインのキャリア・アンカー概念枠組みを用いて－, 北海道医療大学看護福祉学部学会第1回学術大会.
- 松原三智子, 木浪智佳子, 原等子, 他3名(6名中5番目)(2004):看護師集団におけるキャリア・アンカー(第2報)－大学病院と訪問看護ステーションにおけるキャリア・アンカーの比較－, 北海道医療大学看護福祉学部学会第1回学術大会.
- 渡部貴美江, 中村早苗, 原等子, 他3名(2005):介護療養病棟における終末期認知症高齢者の口腔ケアの改善－「緩和口腔ケア」の導入に向けての取り組み, 第6回日本赤十字看護学会学術集会抄録集, 156－157.
- 原等子, 中村早苗, 大林京子, 他6名(2005):終末期認知症高齢者への「緩和口腔ケア」導入2年間の効果とその課題, 日本口腔ケア学会第2回学術集会抄録集, 12.
- 宮林郁子, 二重作清子, 原等子, 他6名(9名中6番目)(2006):病院における看護教育と看護の質のアウトカムへの影響－文献による一考察－, 第26回日本看護科学学会学術集会講演集, 431.

④一般講演

- 赤十字介護フォーラムin福岡 第一部シンポジウム「痴呆高齢者の介護」, 日本赤十字社福岡県支部, シンポジスト, 福岡市, 2003年5月20日.
- 健康問題 ボランティア活動の重要性「老人ホームのアクティビティセラピーの紹介」, 宗像地区高齢者大学(ゆうゆう大学)基礎講座, 講師, 宗像市ルックルック講座アカデミー版, 宗像市, 2003年12月3日.
- 赤十字介護フォーラムin北九州 第2部パネルディスカッション「在宅での痴呆介護を考える」, 日本赤十字社福岡県支部, シンポジスト, 北九州市, 2004年5月8日.
- 長寿を生きる－高齢社会の保健医療福祉－, 講師, 北九州いのちの電話研修会, 北九州市, 2004年7月8日.
- 重度痴呆高齢者に対する『緩和口腔ケア』の効果について, NPO法人むなかた介護サービス研究会平成16年度第1回セミナー「寝たきりになるとお口の中も寝たきり?」, 講師, 福岡市, 2004年9月25日.
- 認知症の予防とそのケア, 日本赤十字九州国際看護大学公開講座, 講師, 宗像市, 2005年7月16日.
- 「最期まで口から食べるための嚥下機能を維持する口腔ケア」実践セミナー～看護・介護現場の口腔ケア改善アプローチ～, 講師, (株)オーラルケア, 福岡市, 2005年10月23日.
- 「認知症は病気です」～正しい理解で上手に付き合うには?～, 赤間地区コミュニティ運営協議会健康福祉部会講演会(宗像市ルックルック講座アカデミー版), 講師, 宗像市, 2005年12月11日.
- 「認知症を知る」, JA むなかた介護ステーション主催(宗像市ルックルック講座アカデミー版), 講師, 宗像市, 2005年12月16日.
- 「認知症を知る」, 宗像市田久福祉会(宗像市ルックルック講座アカデミー版), 講師, 宗像市, 2006年5月17日.
- 「高齢者衣服を考える」, 香蘭女子短大夏季公開講座, 講師, 福岡市, 2006年8月2日.
- 「認知症は病気です」～正しい理解で上手に付き合うには?～, (社)認知症の人と家族の会新潟県支部上越地区, 講師, 妙高市, 2006年10月28日.

⑤その他の発表

- 乗越千枝, 原等子, 稲留由紀子, 他2名(2006):高齢者衣服を考える, 「ラブ・フォレスト」サポート第1弾シンポジウム「あなたに人生の華を贈りたい～紙おむつリサイクルとファッション」, 「ラブ・フォレスト」サポート倶楽部, 福岡市, 2005年5月14日.

⑥その他の研究活動

- 松尾英輔, 樋口春三, 原等子, 他 32 名(35 人中 9 番目)(2002):福祉施設、医療施設などにおける健康法、療法としての園芸の活用に関する調査研究, 平成11年度-13年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究成果報告書, 13-23.
- 原等子, A.S.Schreiner, 寺門とも子, 他 1 名(2004):終末期痴呆性高齢者に対する「緩和口腔ケア」の適用による効果, 2003 年度笹川医療医学研究財団研究助成報告書.
- 社団法人全国訪問看護事業協会(2007):訪問看護ステーションに係る介護保険サービスにおける看護提供体制のあり方に関する研究 訪問看護ステーションの業務基準に関する検討報告書, 平成 18 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金.

⑦その他

- 乗越千枝, 原等子, 稲留由紀子, 他 2 名(2006):高齢者衣服を考える, 福岡発! 博多コレクション 2006 あなたに人生の華を贈りたい! シルバー・ニューウェーブ・ファッションショー報告書, 「ラブ・フォレスト」サポート倶楽部, pp.4-7.

【研究プロジェクトによる活動(役割を含む)】

①研究班による活動

- 認知症高齢者の終末期ケアを考える緩和ケアに関する検討, 主任研究者 A. Schreiner, 役割;企画準備、研修会補助、データ収集、分析補助. 2002 年 9 月～2003 年 3 月
- 終末期痴呆性高齢者に対する「緩和口腔ケア」の適用による効果, 主任研究員 原等子, 2003 年度笹川医療医学研究財団研究助成, 役割:研究総括, データ収集, 分析. 2003 年 4 月～2004 年 3 月
- 終末期痴呆性高齢者の「緩和口腔ケア」スタンダードケアプランの開発, 主任研究者 原等子, 平成15-17年度文部科学省科学研究費(若手 B), 役割:研究総括, データ収集, 分析. 2004 年 4 月～2006 年 3 月.
- 紙オムツリサイクルプロジェクト, プロジェクトリーダー 松藤康司, (財)福岡県産業・科学技術振興財団産学官共同研究事業(平成12～14年度), 役割:異業種学生(看護-ファッションデザイン)の高齢者衣服を考えるワークショップの企画立案, 実施, まとめ. 2004 年 4 月～2005 年 6 月.
- 高齢者の口腔乾燥改善と食機能支援に関する研究, 主任研究者 柿木保明, 平成 17 年度-18 年度厚生労働省・厚生労働科学研究費補助金/長寿科学総合研究事業, 役割;介護保険下の高齢者施設ケアにおける口腔ケアの現状と課題, 調査計画・実施・まとめ. 2005 年 9 月～2007 年 3 月.
- 高齢者ターミナルケア:訪問看護ステーションに係る介護保険サービスにおける看護提供体制のあり方に関する研究 訪問看護ステーションの業務基準に関する検討(2007), 社団法人全国訪問看護事業協会(主任研究者 川村佐和子), 平成 18 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金. 役割;専門領域の業務基準作成小委員会委員, 情報収集, 専門領域の業務基準検討. 2006 年 9 月～2007 年 3 月.

飯吉令枝

【研究活動】

①学術論文

- 岡本玲子, 中山貴美子, 長畑多代, 鳩野洋子, 佐藤由美, 田口敦子, 岩本里織, 塩見美抄, 沖田裕子, 島田美喜, 岡部明子, 飯吉令枝, 長岡理恵, 小林亜由美, 斎藤智子 (2002):保健師が関わるニーズとケアマネジメント過程の特徴 ～難病事例の場合～, 日本地域看護学会誌, 4(1), 18-25.

- ・小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 佐々木美佐子, 熊倉みつ子, 飯吉令枝 (2002): 保健所保健師のコンサルテーションプロセスとその構成要素の妥当性, 新潟県立看護短期大学紀要第8巻, 17-25.
- ・杉田収, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 吉山直樹, 関谷伸一, 橋本明浩 (2006): 室内空气中ホルムアルデヒド測定用簡易測定器 (FP-30 型) による測定値の信頼性と法規制 (2003 年) 後のホルムアルデヒド濃度測定例, 室内環境学会誌, 9(1), 45-50.
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 小林恵子 (2007): 山間豪雪地における高齢者の生活行動とサポート・ニーズおよび健康関連 QOL の季節比較, 日本在宅ケア学会誌, 10(2), 59-66.

②その他の論文・報告

- ・鳩野洋子, 島田美喜, 岡部明子, 飯吉令枝, 岡本玲子, 中山貴美子, 長畑多代, 佐藤由美 (2002): 保健師が関わる要介護度の低い事例のニーズとケアマネジメント過程の特徴, 要介護状態の予防に向けたケアマネジメント技法の体系化に関する研究 ―介護保険制度と連動する保健技法 (介入方法) の開発に焦点をあてて― 平成 12 年～平成 13 年度 科学研究費補助金 (基盤研究 C(2)) 研究成果報告書, 15-25.
- ・相馬幸恵, 上野春代, 池田恒子, 斎藤有子, 太田昭子, 飯吉令枝, 井上陽子, 長谷川正子 (2002): 新人とベテランの育ち合い業務マニュアルづくりをととして保健師の視点と技術を学びあう, 保健婦雑誌, 58(10), 838-844.
- ・佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子 (2003): 農村地域における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究, 平成 14 年度学長特別研究費研究報告書, 29-32.
- ・佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 吉山直樹 (2003): 山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究, 平成 14 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 9-16.
- ・佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子 (2004): 大学での保健師教育における地域看護診断の教育方法の構築, 平成 15 年度学長特別研究費研究報告書, 55-61.
- ・佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子 (2004): 山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究 (第 2 報), 平成 15 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 17-22.
- ・中島紀恵子, 野地有子, 朝倉京子, 飯吉令枝, 大友康博, 籠玲子, 唐沢千登勢, 北川公子, 小林恵子, 斎藤智子, 佐々木美佐子, 田中キミ子, 中川泉, 中野正春, 橋本明浩, 平澤則子: 豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態 (中間報告), 平成 15 年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書, 101-113.
- ・飯吉令枝, 小林美代子, 斎藤智子, 平澤則子, 佐々木美佐子, 高橋初美, 小林恵子 (2005): 新潟県立看護短期大学卒業生・修了生の動向, 新潟県立看護短期大学紀要第 10 巻, 19-26.
- ・中島紀恵子, 斎藤智子, 籠玲子, 飯吉令枝, 唐沢千登勢, 菅原峰子, 朝倉京子, 大友康博, 北川公子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 田中キミ子, 津田さとみ, 中川泉, 中野正春, 野地有子, 橋本明浩, 平澤則子 (2005): 豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態調査報告書, 平成 15・16 年度地域貢献特別支援事業, 3-29.
- ・野地有子, 朝倉京子, 飯吉令枝, 中島紀恵子 (2005): 農村地域における中高年女性の健康課題の分析とまちの保健室開設にむけたアクションリサーチ, 平成 16 年度看護研究交流センター事業年報, 1-10.
- ・佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 横尾加奈枝, 外立直子 (2005): 豪雪地における高齢者のソーシャル・サポート・システム構築に関する研究, 平成 16 年度看護研究交流センター事業年報, 11-15.

・野地有子, 丸山知子, 長谷川真澄, 飯吉令枝, 朝倉京子, 中島紀恵子, 中山健夫 (2006) : 更年期女性の健康課題の分析と看護プログラムの開発, 平成 14 年～平成 16 年 科学研究費補助金 (基盤研究 B(2)) 研究成果報告書, 14-16, 22-28.

・小林恵子, 斎藤智子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子, 平澤則子 (2006) : 災害時の健康ニーズと保健師の活動に関する研究, 平成 17 年度学長特別研究費研究報告書, 22-25.

・飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 横尾加奈枝, 外立直子 (2006) : 豪雪地における高齢者の生活構造の変化とソーシャル・サポート・システムの評価, 平成 17 年度看護研究交流センター事業年報, 1-5.

・杉田収, 中川泉, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 室山耕次, 坂本ちか子, 杉田靖子, 曾田耕一, 濁川明男 (2006) : 化学物質過敏症に関する研究-発症者の反応化学物質と上越市立小学校児童 1 万名の CS 関連症状調査-, 平成 17 年度看護研究交流センター事業年報, 6-13.

③学会発表

・熊倉みつ子, 飯吉令枝, 和田佳子 (2002) : 男性の育児休業制度に関する認知度と活用状況, 第 33 回日本看護学会 母性看護.

・小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 佐々木美佐子, 熊倉みつ子, 飯吉令枝 (2002) : 保健所保健師のコンサルテーションプロセス構成要素の妥当性, 第 61 回日本公衆衛生学会.

・平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 (2003) : 高齢者の健康関連 QOL の地域間比較, 第 62 回日本公衆衛生学会.

・小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子 (2003) : 農村地域における在宅高齢者の IADL (老研式活動能力) 関連要因, 第 62 回日本公衆衛生学会.

・飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 (2003) : 豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズ, 第 23 回日本看護科学学会.

・平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子 (2004) : 豪雪地における高齢者の生活行動と健康 QOL の季節比較, 日本地域看護学会第 7 回学術集会.

・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 斎藤智子, 佐々木美佐子 (2004) : グループインタビューを用いた高齢者のソーシャルサポートシステムの検討, 第 63 回日本公衆衛生学会.

・小林恵子, 斎藤智子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子 (2004) : 農村地域における高齢者のソーシャルサポートニーズと課題, 第 63 回日本公衆衛生学会.

・斎藤智子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子 (2004) : 農村地域における高齢者の活動能力と生活行動の関係, 第 63 回日本公衆衛生学会.

・朝倉京子, 野地有子, 飯吉令枝, 中島紀恵子, 小林奈緒子, 新保美咲 (2004) : 成人女性と主観的健康状態, 更年期状態, DV 体験と QOL との関係, 第 63 回日本公衆衛生学会.

・飯吉令枝, 野地有子, 朝倉京子 (2004) : 働く女性のセルフケアと QOL, 第 24 回日本看護科学学会学術集会.

・野地有子, 飯吉令枝, 朝倉京子, 中島紀恵子 (2004) : 女性の健康づくりを支援する「まちの保健室」のフィジビリティの検討, 第 24 回日本看護科学学会学術集会.

・野地有子, 飯吉令枝, 朝倉京子, 中島紀恵子 (2005) : Community Nursing Guidance Clinics in Japan: A New Nursing System in a new setting in Joetsu City, 25th Quadrennial Congress International Council of Nurses.

・野地有子, 飯吉令枝 (2005) : まちの保健室 (上越) の開設年度における利用状況からみた地域の健康

ニーズ，第8回日本地域看護学会学術集会講演集。

・飯吉令枝，斎藤智子，佐々木美佐子，平澤則子，小林恵子（2005）：就業6年未満の保健師がとらえる保健師に必要な能力と研修ニーズ，第64回日本公衆衛生学会。

・小林恵子，飯吉令枝，斎藤智子，平澤則子，佐々木美佐子（2005）：コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域看護診断の教育方法と評価，第64回日本公衆衛生学会。

・斎藤智子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，佐々木美佐子（2005）：農村地域に暮らす後期高齢者の活動能力と生活行動の特徴，第64回日本公衆衛生学会。

・平澤則子，飯吉令枝，小林恵子，斎藤智子，佐々木美佐子（2005）：高齢者のソーシャルサポートシステム構築における課題の検討，第64回日本公衆衛生学会。

・長瀬亜岐，菅原峰子，飯吉令枝，野地有子，小林奈緒子（2006）：アウトリーチ型上越まちの保健室の展開 第一報～来室女性の身体測定値～，第65回日本公衆衛生学会。

・小林奈緒子，柳沢明美，野地有子，長瀬亜岐，飯吉令枝，菅原峰子（2006）：アウトリーチ型上越まちの保健室の展開 第二報～2010 中間報告の視点から～，第65回日本公衆衛生学会。

・野地有子，飯吉令枝，菅原峰子，長瀬亜岐，小林奈緒子，佐々木沙織（2006）：アウトリーチ型上越まちの保健室の展開 第三報～パートナーシップの形成と維持～，第65回日本公衆衛生学会。

・飯吉令枝，平澤則子，斎藤智子，小林恵子，佐々木美佐子（2006）：豪雪地域における高齢者のサポートシステムの構築（第1報）～高齢者の生活行動の変化～，第65回日本公衆衛生学会。

・斎藤智子，平澤則子，飯吉令枝，小林恵子，佐々木美佐子，鳩野洋子（2006）：豪雪地域における高齢者のサポートシステムの構築（第2報）～健康関連 QOL の変化～，第65回日本公衆衛生学会。

・平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，小林恵子，佐々木美佐子（2006）：豪雪地域における高齢者のサポートシステムの構築（第3報）～システムの課題～，第65回日本公衆衛生学会。

④その他

飯吉令枝他：系統別看護師国家試験問題解答と解説 2007 年版（2007），医学書院，東京，363－366，387－388。

【研究プロジェクトによる活動】

① 研究班による活動

・野地有子，丸山知子，長谷川真澄，飯吉令枝，朝倉京子，中島紀恵子，中山健夫：更年期女性の健康課題の分析と看護プログラムの開発－閉経周辺期および閉経後の女性保健に焦点を当てて－，平成14年～平成16年 科学研究費補助金（基盤研究B(2)）。

・佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子：農村地域における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究，平成14年度学長特別研究費。

・佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子：山間豪雪地における高齢者の生活構造とソーシャル・サポート・ニーズに関する研究，平成14・15年度看護研究交流センター事業。

・杉田収，佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子，吉山直樹，関谷伸一，橋本明浩：地域ケアを支える住宅環境に関する研究，平成14・15年度看護研究交流センター事業。

・佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，飯吉令枝，斎藤智子：豪雪地におけるソーシャル・サポート・システム構築に関する研究，平成16年度看護研究交流センター事業。

・野地有子，朝倉京子，飯吉令枝，中島紀恵子：農村地域における中高年女性の健康課題の分析とまちの保健室開設にむけたアクションリサーチ，平成16年度看護研究交流センター事業。

- ・中島紀恵子, 斎藤智子, 籠玲子, 飯吉令枝, 唐沢千登勢, 菅原峰子, 朝倉京子, 大友康博, 北川公子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 田中キミ子, 津田さとみ, 中川泉, 中野正春, 野地有子, 橋本明浩, 平澤則子: 豪雪地方に暮らす後期高齢者の生涯と健康の実態調査, 平成 15・16 年度地域貢献特別支援事業.
- ・佐々木美佐子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斎藤智子: 豪雪地におけるソーシャル・サポート・システムの評価, 平成 17 年度看護研究交流センター事業.
- ・杉田収, 中川泉, 飯吉令枝, 斎藤智子, 小林恵子, 佐々木美佐子, 室山耕次, 坂本ちか子, 杉田靖子, 曾田耕一, 濁川明男: 化学物質過敏症に関する研究, 平成 17 年度看護研究交流センター事業.
- ・小林恵子, 斎藤智子, 飯吉令枝, 佐々木美佐子, 平澤則子: 災害時の健康ニーズと保健師の活動に関する研究, 平成 17 年度学長特別研究費.
- ・野地有子, 長瀬亜岐, 菅原峰子, 飯吉令枝, 小林恵子, 平澤則子, 斎藤智子, 野口裕子: CBPRアプローチによる地域老年看護実践に関する研究—上越まちの保健室の看護活動を中心として—, 平成 18 年度看護研究交流センター事業.
- ・NEDO: 人間支援型ロボット実用化基盤技術開発リハビリ支援ロボット及び実用化技術の開発 (2005—現在に至る)
- ・飯吉令枝, 平澤則子, 小林恵子, 野口裕子, 斎藤智子, 外立直子, 板垣綾子: 過疎地域における高齢者の健康と生活の自立に関する研究, 平成 18 年度看護研究交流センター事業—現在に至る. (役割: 研究代表者)

【社会活動】

①学会・研究会

日本看護協会会員, 日本公衆衛生学会会員, 日本地域看護学会会員, 日本看護科学学会会員, 日本在宅ケア学会会員, 聖路加看護学会会員, 第 26 回地域保健師学術研究会投稿論文査読委員

②委員会活動

上越地区小規模施設看護職員研修運営委員 (2002)

新潟県看護協会上越地区協会監査委員 (2002—2003)

上越市健康づくり推進協議会委員 (2004 から現在に至る)

妙高市介護保険運営協議会委員 (2005 から現在に至る)

③社会教育活動

・上越地域広域圏共同活動助成事業民間福祉従事者リフレッシュ事業研修会 講演「高齢者の行動と接し方について」2002.10

・上越市保健師研修会 グループワーク「訪問記録の検討」2004.6, 2004.10

・新潟県看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会 講義とグループワーク「地域看護学実習指導の実際」2005.8, 2006.8

・上越地域振興局健康福祉環境部 地域保健関係職員研修専門職別研修会 (保健師分野) 事例検討会の講師「精神・老人・難病事例の検討」2006.6・12

後田 穰

【研究活動】

研究論文：原著，報告

後田穰：精神科デイケア社会生活体験プログラムグループの試みー精神科デイケア社会生活体験プログラムグループの試みー（修士論文），立命館大学大学院，2003（平成15年3月）

松本泉，佐藤幸子，後田穰：ICUにおける患者の治療参加を目指してーICU退室後の患者意識調査を通してー，看護実践の科学，28(1)，p68-71，2004（平成16年12月）

所属学会

後田穰：集団療法学会

【社会活動】

委員等

後田穰：上越市市民研究員：大学生と地域の協力によるまちづくり事業（平成17年8月～平成18年3月）

後田穰，浦山留美，櫻井信人：平成17年、18年度新潟県臨床実習指導者講習会において、精神看護学実習担当（平成17年～18年）

研修会講師

後田穰：「震災後における心のケア」新潟県小千谷市小千谷総合病院職員研修：平成17年2月

菅原峰子

【研究活動】

① その他の論文及び調査報告

- 1) 志渡晃一，照井レナ，松島可苗，菅原峰子，佐藤亜弓，後藤ゆり，松浦智和．北海道における女性看護職員を対象とした現職場での勤務継続意志に関する研究，北海道医療大学看護福祉学部紀要 2003：10：99-103.
- 2) 松島可苗，菅原峰子，照井レナ，佐藤亜弓，後藤ゆり，松浦智和，志渡晃一．北海道における女性看護職員を対象とした生涯の勤務継続意志に関する研究，北海道医療大学看護福祉学部紀要 2004：11号：37-41.
- 3) 菅原峰子．高齢脳梗塞患者のせん妄発症の実態と発症に関与する因子，老年看護学 2005:10(1):95-104.
- 4) 北川公子，津田さとみ，菅原峰子．痴呆性高齢者のターミナルケアに関する文献概観，老年看護学 2005：10(1)：142-147.
- 5) 照井レナ，松島可苗，菅原峰子，佐藤亜弓，志渡晃一．北海道における女性看護職員を対象とした年齢別による生涯勤務継続意志の低下要因に関する研究，北海道公衆衛生学雑誌 2006:19(1・2 併合):73-78.
- 6) 籠玲子，斎藤智子，菅原峰子，飯吉令枝，唐澤千登勢，朝倉京子，北川公子，小林恵子，佐々木美佐子，田中キミ子，津田さとみ，中川泉，中野正春，野地有子，平澤則子，中島紀恵子．豪雪地域に暮す後期高齢者の生活と健康の実態，看護大学看護研究交流センター年報 2005：51-58.
- 7) 北川公子，菅原峰子．アルツハイマー病の初期・中期のケア，老年精神医学雑誌 2005:16(10):1113-1119.
- 8) 北川公子，菅原峰子．認知症患者とのコミュニケーションのポイント臨床老年看護 2005:12(6):20-26.
- 9) 菅原峰子．せん妄のリスク要因内科的治療・高齢者における要因，EB NURSING 2006：6(4)：22-26.

② 学会発表

- 1) 松島可苗，照井レナ，佐藤亜弓，菅原峰子，志渡晃一，砂山圭子．看護職における生涯の継続意思に関連する要因，第62回日本公衆衛生学会総会抄録集 2003：439.

- 2) 津田さとみ, 菅原峰子, 中島紀恵子, 北川公子, 唐澤千登勢. 保健医療福祉資源の整備過程における痴呆ケアの発展プロセス, 第5回痴呆ケア学会大会抄録集 2004: 229.
 - 3) 菅原峰子, 松島可苗, 照井レナ, 志渡晃一. 北海道にける女性看護職員を対象とした勤務継続意志に関する研究 (第1報), 第63回日本公衆衛生学会総会抄録集 2004: 464.
 - 4) 照井レナ, 菅原峰子, 松島可苗, 志渡晃一. 北海道にける女性看護職員を対象とした勤務継続意志に関する研究 (第2報), 第63回日本公衆衛生学会総会抄録集 2004: 464.
 - 5) 菅原峰子. 脳卒中患者のせん妄予防のための看護介入—入院時オリエンテーションに焦点をあてた介入—, 第9回日本老年看護学会抄録集 2004: 130.
 - 6) 菅原峰子, 北川公子. 高齢脳卒中患者の年齢階級別にみたせん妄発症因子の比較分析, 第31回日本看護研究学会抄録集 2005: 270.
 - 7) 北川公子, 菅原峰子. 認知症高齢者の終末期のプロセスに関する事例研究, 第31回日本看護研究学会抄録集 2005: 271.
 - 8) 菅原峰子, 斎藤智子. 豪雪地帯に暮らす高齢者のうつ状態と健康および日常生活の関連, 第64回日本公衆衛生学会総会抄録集 2005: 814.
 - 9) 長瀬亜岐, 菅原峰子, 飯吉令枝, 野地有子. 地域中高年女性の骨折予防に関する研究 (第1報) —まちの保健室に入室した中高年女性の骨密度と看護ニーズ—, 第10回日本老年看護学会抄録集 2005: 85.
 - 10) 菅原峰子, 北川公子. 脳卒中の急性期にせん妄発症した高齢患者の経過と転帰, 第10回日本老年看護学会抄録集 2005: 117.
 - 11) 長瀬亜岐, 菅原峰子, 飯吉令枝, 野地有子, 小林奈緒子. アウトリーチ型上越まちの保健室の展開 第1報—来室女性の身体測定値—, 第65回日本公衆衛生学会総会抄録集 2006: 399.
 - 12) 菅原峰子, 北川公子. 熟練看護師が持つ高齢脳卒中患者のせん妄発症に対する臨床予測に関する研究, 第11回日本老年看護学会抄録集 2006: 182.
- ③ 著書
- 1) 山内豊明編集. 執筆者 井出訓, 山田律子, 菅原峰子他 50名: フィジカルアセスメントのコツと落とし穴 高齢者のせん妄に気づくための観察ポイント 2005, 中山書店, 8-9.

【研究プロジェクト】

① 研究班による活動

- 1) 平成16年度看護研究交流センター 第4研究班「豪雪地帯に暮らす後期高齢者の生活と健康の実態」(研究代表: 中島紀恵子): 研究メンバー
- 2) 平成18年度看護交流センター 地域課題研究「CBPRアプローチによる地域老年看護実践に関する研究—上越まちの保健室の看護活動を中心として—」(研究代表: 野地有子): 研究メンバー
- 3) 平成18年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金「訪問看護ステーションに係わる介護保険サービスにおける看護提供体制のあり方に関する研究『高齢者ターミナル』小委員会 (委員長: 北川公子): 研究協力者

② その他

- 1) 上越まちの保健室 運営委員
- 2) 平成17~18年度科学研究費補助金 若手研究B「高齢脳卒中患者のせん妄発症に対する看護師の臨床予測に関する研究」: 研究代表者

長瀬 亜岐

【研究活動】

〈その他の論文および調査報告〉

・長瀬亜岐, 野地有子. 高齢脳卒中患者の食に関する意識構造と再発予防にむけた食事指導のあり方. 老年看護学 2005 ; 10 (1). 87-94.

・野地有子, 飯吉令枝, 長瀬亜岐, 菅原峰子. まちの保健室(上越)の開設年度における利用状況と看護ニーズ. 平成17年度「まちの保健室」事業成果発表会 ; 2005. 16-17.

〈学会発表〉

・長瀬亜岐, 菅原峰子, 飯吉令枝, 野地有子. 地域中高年女性の骨折予防に関する研究～まちの保健室に入室した中高年女性の骨密度の実態と看護ニーズ. 第10回日本老年看護学会学術集会 2005年11月(栃木県)

・野地有子, 柿川房子, 栗生田友子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐. CNS看護教育の課題と展望・CNS10年にあたって. 第11回聖路加看護学会学術大会 2006年9月(東京都)

・長瀬亜岐, 菅原峰子, 飯吉令枝, 野地有子. アウトリーチ型まちの保健室の展開(第一報)～入室女性の身体計測値～. 第65回日本公衆衛生学会総会 2006年10月(富山県)

・小林奈緒子, 柳沢明美, 野地有子, 長瀬亜岐, 飯吉令枝, 菅原峰子. アウトリーチ型まちの保健室の展開(第二報)～2010中間報告の視点から～. 第65回日本公衆衛生学会総会 2006年10月(富山県)

・野地有子, 飯吉令枝, 菅原峰子, 長瀬亜岐. アウトリーチ型まちの保健室の展開(第三報)～パートナーシップの形成と維持～. 第65回日本公衆衛生学会総会 2006年10月(富山県)

〈著書〉

・北川公子, 長瀬亜岐. 臨床看護 生活習慣病のすべて 2005年臨時増刊号. 東京:ヘルス出版; 2005: 1969-1973.

【研究プロジェクトによる活動】

〈学長特別委託研究〉

・野地有子, 柿川房子, 加城貴美子, 吉山直樹, 堀良子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐. PBLチュートリアル教育におけるチュータートレーニングとシナリオ開発に関する研究 2005年度

・野地有子, 柿川房子, 栗生田友子, 直成洋子, 岡村典子, 長瀬亜岐. 専門看護師教育に関する研究—日本および米国のCNS・NPの教育と実践から— 2006年度

〈看護研究交流センター地域課題研究〉

・野地有子, 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 斉藤智子, 野口裕子, 長瀬亜岐, 菅原峰子. CBPRアプローチによる地域老年看護実践に関する研究・上越まちの保健室の看護活動を中心として. 2006年度

〈外部研究費〉

・長瀬亜岐: 災害サイクルにあわせた高齢脳卒中患者の食生活支援に関する研究, 科学研究費補助金若手研究B, 2006～2007年度

・厚生労働省科学研究事業 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究(2006～2008年度)

「AEDの普及・啓発に関する調査研究」(主任研究者:丸川征四郎)分担研究協力員

【社会活動】

① 学会・研究会

〈長瀬亜岐〉日本老年看護学会，日本看護科学学会，日本臨床救急医学会，聖路加看護学会
愛知万博記念災害救急医療研究会，日本呼吸ケアネットワーク

② その他

上越まちの保健室実行委員 2005 年度～

浦山留美

【研究活動】

研究論文：原著，報告

浦山留美：看護場面における統合失調症患者に対するタッチの特徴，第2回北海道医療大学看護福祉学部，
学会誌，2(1)，p77-80，2005 （平成17年）

学会発表

浦山留美：精神科領域における看護場面でのタッチの特徴，第2回北海道医療大学看護福祉学部学会，2005，
p15

研究費の獲得状況

栗生田友子（主任研究員）、浦山留美、櫻井信人：平成18年度新潟県立看護大学看護学部学長特別研究の研究助成を受ける

「精神看護領域における隔離拘束に関する看護師の臨床判断に関する研究」

研究成果は、日本精神保健看護学会（北里大学2007年6月）に発表した。

櫻井信人（主任研究員）、栗生田友子、浦山留美：平成18年度新潟県立看護大学看護交流センターの研究助成を受ける

「自殺者遺族へのケアに関する研究」

研究成果は、日本精神保健看護学会（北里大学2007年6月）に発表した。

学会・研究会

第15回日本精神保健看護学会学術集会実行委員 2005年（平成17年）

第11回日本在宅ケア学会学術集会実行委員 2006年（平成18年）

所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学会、北海道医療大学学部学会

【社会活動】

研修会等

後田穰，浦山留美，櫻井信人：平成17年、18年度新潟県臨床実習指導者講習会において、精神看護学実習担当（平成17年～18年）

櫻井信人

【研究活動】

研究費の獲得状況

栗生田友子(主任研究員)、浦山留美、櫻井信人：平成 18 年度新潟県立看護大学看護学部学長特別研究の研究助成を受ける

「精神看護領域における隔離拘束に関する看護師の臨床判断に関する研究」

研究成果は、日本精神保健看護学会（北里大学 2007 年 6 月）に発表した。

櫻井信人(主任研究員)、栗生田友子、浦山留美：平成 18 年度新潟県立看護大学看護交流センターの研究助成を受ける

「自殺者遺族へのケアに関する研究」

研究成果は、日本精神保健看護学会（北里大学 2007 年 6 月）に発表した。

学会・研究会

第 11 回日本在宅ケア学会学術集会実行委員 2006 年（平成 18 年）

所属学会

日本精神保健看護学会、日本法医学学会

【社会活動】

研修会等

後田穰、浦山留美、櫻井信人：平成 17 年、18 年度新潟県臨床実習指導者講習会において、精神看護学実習担当(平成 17 年～18 年)

野口裕子

【研究活動】

学会発表

1. 就学前の子ども療育に関わる福祉の立場からの連携の現状と課題について、野口裕子，平成 15 年 8 月，第 4 回自立活動研究フォーラム

【研究プロジェクトによる活動】

1. 野地有子，長瀬亜岐，菅原峰子，飯吉令枝，小林恵子，平澤則子，斎藤智子，野口裕子
CBPR アプローチによる地域老年看護実践に関する研究—上越まちの保健室の看護活動を中心として—，役割：CBPR 研究デザイン・実施・まとめ，平成 18 年度看護研究交流センター地域課題研究
2. 飯吉令枝，平澤則子，小林恵子，野口裕子，斎藤智子，外立直子，板垣綾子
過疎地域における高齢者の健康と生活の自立に関する研究，役割：データ収集と分析，平成 18 年度看護研究交流センター地域課題研究
3. NEDO「人間支援型ロボット実用化基盤技術開発リハビリ支援ロボット及び実用化技術の開発」
(平成 18 年度～)

【社会活動】

1. 平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月まで新潟県糖尿病検診研究会事後指導部会委員

若杉 歩

【研究活動】

(1) その他の論文・報告書

- 幸地亜樹, 田中明子, 若杉歩, 他 (2007): 造血幹細胞移植における慢性 GVHD 患者の生活状況—慢性 GVHD による生活への影響とその対処—, 2007 (平成 19) 年第 29 回日本造血細胞移植学会総会プログラム・抄録集, 167

(2) 学会発表

- 2007 (平成 19) 年第 29 回日本造血細胞移植学会総会 ワークショップ
幸地亜樹, 田中明子, 若杉歩, 他 (2007): 造血幹細胞移植における慢性 GVHD 患者の生活状況—慢性 GVHD による生活への影響とその対処—

鈴木香苗

【研究活動】

<研究論文>

・鈴木香苗: 青年期アスペルガー症候群患者への効果的な看護, 精神医学研究所業績集, 41 号, 115・116, 2005.

<学会発表>

・鈴木香苗: 青年期アスペルガー症候群患者への効果的な看護, 第 30 回日本精神科看護学会 静岡大会, 日本精神科看護学会誌, 48(1), 196・197, 2005.

藤川あや

【研究活動】

(1) その他の論文・報告書

- ①千田みゆき, 菊池チトセ, 山路真佐子, 藤川あや, 訪問看護実習におけるケアに対する認識～訪問看護ステーションと看護系教育施設の比較～, 日本地域看護学会誌, 2003. 9.
- ②藤川あや, 佐藤由美, 市町村保健師が用いた介護支援専門員への支援技術, 修士(保健学)学位論, 2005. 3.

(2) 学会発表

- ①千田みゆき, 菊池チトセ, 山路真佐子, 藤川あや, 訪問看護ステーションと看護系教育施設 の訪問看護実習におけるケア内容の許容の程度, 第 5 回日本地域看護学会学術集会, 2002. 6.
- ②菊池チトセ, 千田みゆき, 山路真佐子, 藤川あや, 埼玉県の訪問看護ステーションにおける訪問看護実習の受け入れ状況と看護系教育施設における訪問看護実習の実施状況について, 第 61 回日本公衆衛生学会総会 (日本公衆衛生雑誌集録, 2002. 10.
- ③山路真佐子, 菊池チトセ, 藤川あや, 市原千里, M町健康まつり参加者が 600mg と思う食品中のカルシウム

量について, 第61回日本公衆衛生学会総会 (日本公衆衛生雑誌集録), 2002. 10.

④藤川あや, 菊池チトセ, 山路真佐子, 市原千里, M町健康まつり参加者のカルシウム摂取状況について, 第61回日本公衆衛生学会総会 (日本公衆衛生雑誌集録), 2002. 10.

⑤田中美佐子, 菊池チトセ, 市原千里, 藤川あや, 中沢尚恵, 臨地実習 (保健所・市町村) における満足度等の学生の気持ちと到達目標の自己評価に関する調査, 第9回日本地域看護学会学術集会, 2006. 7.

⑥藤川あや, 佐藤由美, 市町村保健師が用いた介護支援専門員への支援技術, 第65回日本公衆衛生学会総会 (日本公衆衛生雑誌集録), 2006. 10.